

竹田市
男女共同参画に関する
市民意識調査
結果報告書

令和8年3月

竹田市

目次

第1章 調査の概要.....	1
1. 調査の目的.....	3
2. 調査の実施要領・回答数.....	3
3. 調査結果利用上の注意.....	3
第2章 調査結果.....	5
1. ご自身のことについて.....	7
2. 男女の意識について.....	9
3. 男女共同参画に関連する用語の認知度について.....	36
4. 職業について.....	45
5. 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について.....	51
6. 地域・社会活動の参加について.....	57
7. 子どもの教育について.....	72
8. ドメスティック・バイオレンス(配偶者・恋人間の暴力)について.....	78
9. 男女の人権について.....	95
10. 女性の活躍について.....	100
11. 悩みや困りごとについて.....	102
12. 災害における男女共同参画について.....	105
13. 男女共同参画推進に向けた施策について.....	107

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、令和8年度策定予定の「第3次男女共同参画プランたけた」に向け、市民の皆様の日常生活の実態及び社会生活における男女共同参画の実態やご意見等を集計・分析し、計画策定並びに今後の取り組みに向けた計画の基礎資料とすることを目的としています。

2. 調査の実施要領・回答数

調査時期	令和8年11月～12月
調査対象者	竹田市内にお住まいの16歳以上の方
調査方法	郵送による配布・回収及びインターネット回収
配布数	1,000件
有効回収数	396件 (郵送：301件) (WEB:95件)
有効回答率	39.6%

3. 調査結果利用上の注意

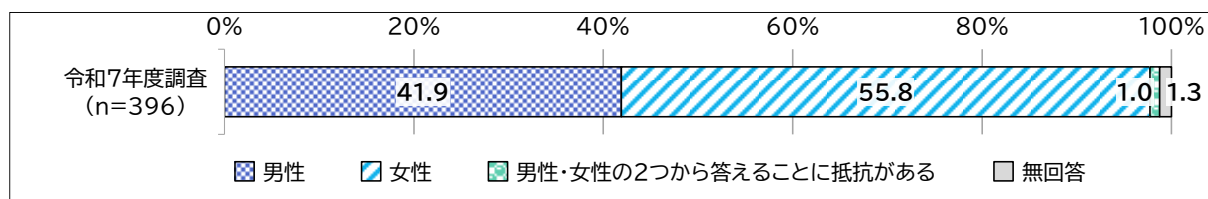
- ・各設問のnは、回答者数を表しています。
- ・回答率は百分比の小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
- ・2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、選択肢ごとの割合を合計すると100%を超える場合があります。
- ・回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、図表には「0.0」と表記しています。
- ・数表・図表は、スペースの都合上、文言等を省略している場合があります。

第2章 調査結果

1. ご自身のことについて

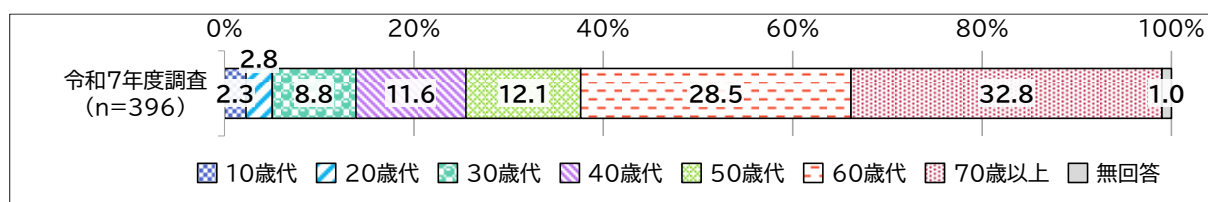
F1 性別

○性別については、「男性」が 41.9%、「女性」が 55.8%、「男性・女性の2つから答えることに抵抗がある」1.0%となっています。



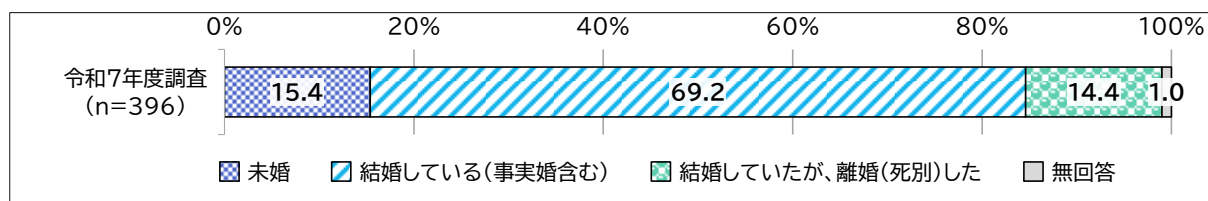
F2 年齢（現時点の年齢）

○年齢については、「70歳以上」が 32.8%と最も高く、次いで「60歳代」28.5%、「50歳代」12.1%となっており、60歳以上の割合が6割を占めています。



F3 婚姻の有無

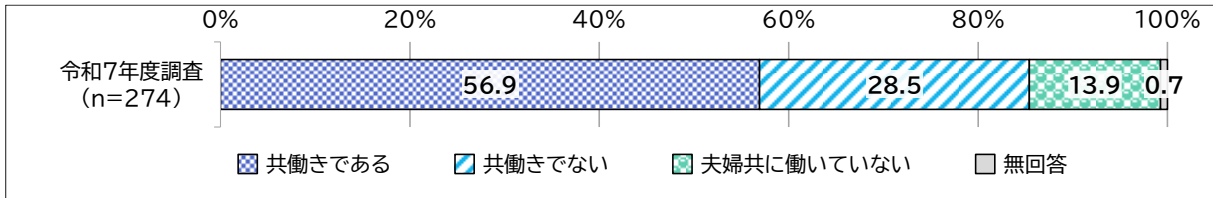
○婚姻状況については、「結婚している（事実婚含む）」が 69.2%と最も高く、次いで「未婚」15.4%、「結婚していたが、離婚（死別）した」14.4%となっています。



【F3で「2. 結婚している（事実婚含む）」と答えた方のみ】

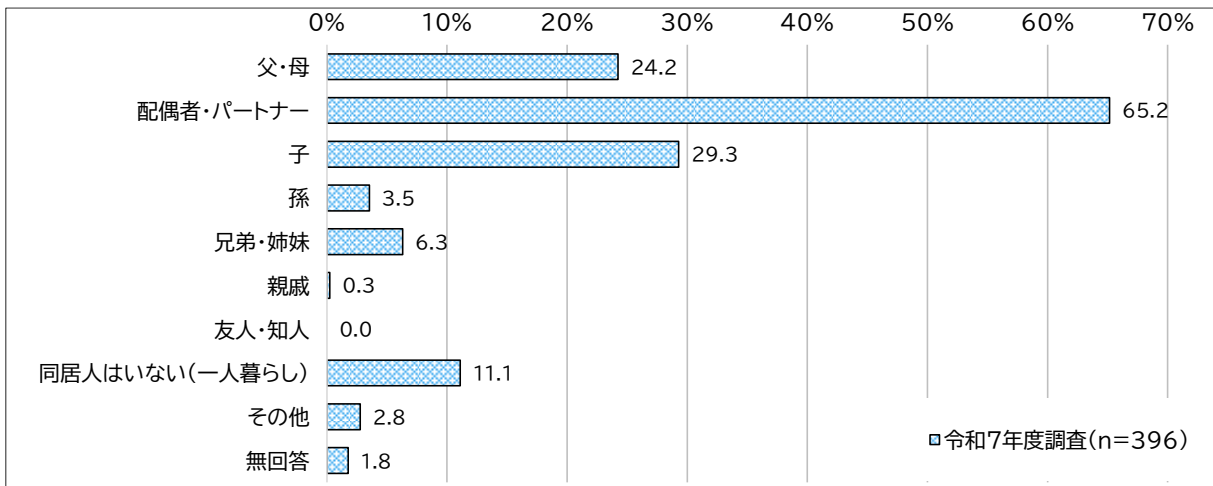
F4 就業状況

○就業状況については、「共働きである」が56.9%と最も高く、次いで「共働きでない」28.5%、「夫婦共に働いていない」13.9%となっています。



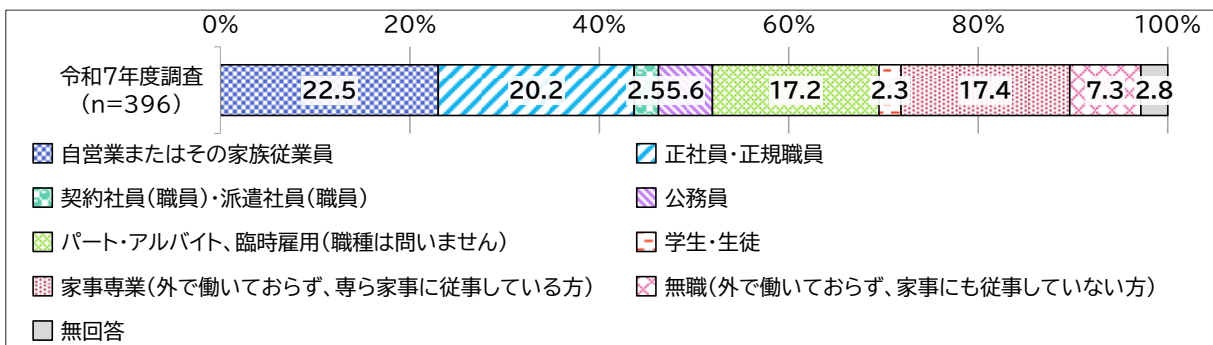
F5 同居者

○同居者については、「配偶者・パートナー」が65.2%と最も高く、次いで「子」29.3%、「父・母」24.2%となっています。



F6 就業形態

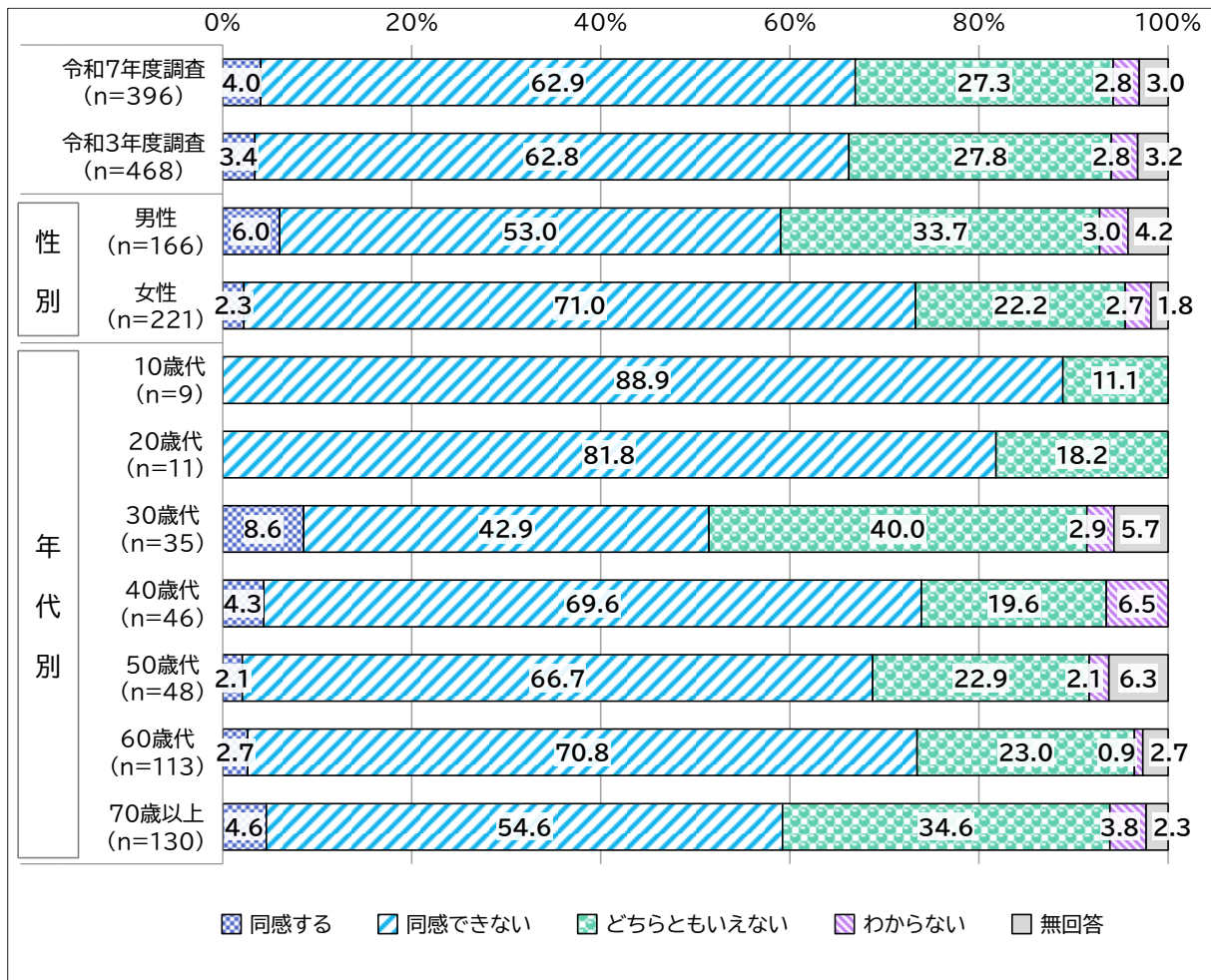
○就業形態については、「自営業またはその家族従業員」が22.5%と最も高く、次いで「正社員・正規職員」20.2%、「家事専業（外で働いておらず、専ら家事に従事している方）」17.4%となっています。



2. 男女の意識について

問1 「男は仕事、女は家庭」などと性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。(単数回答)

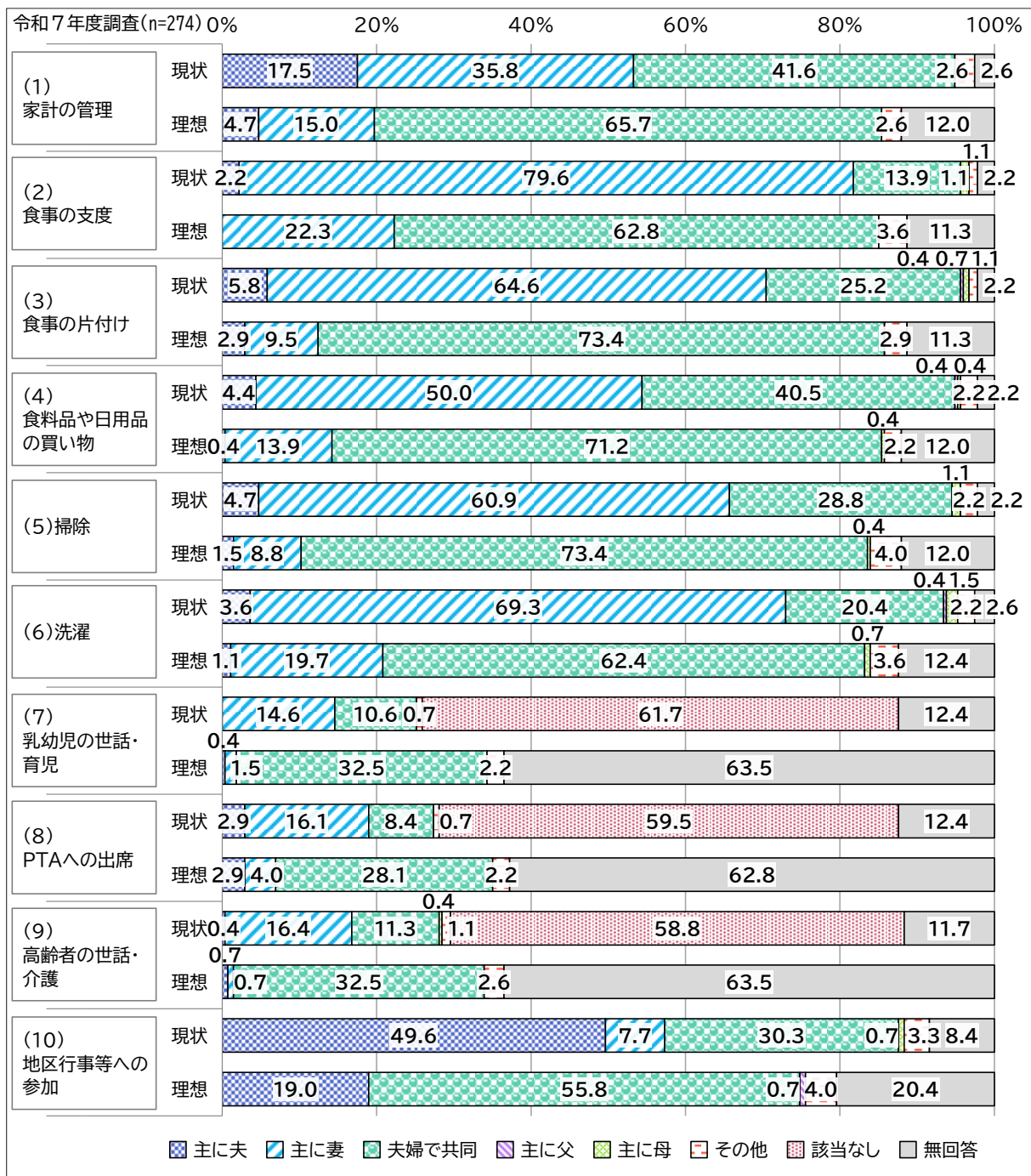
- 固定的な性別役割分担意識については、「同感できない」が 62.9%と最も高く、次いで「どちらともいえない」27.3%、「同感する」4.0%となっています。
- 性別で見ると、男女ともに「同感できない」が最も高く、特に女性は7割を超えています。また、男性は女性と比べて「同感できない」が低く、「どちらともいえない」が高くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 年代別で見ると、どの年代も「同感できない」が最も高く、特に20歳代では8割を超えています。また、30歳代及び70歳以上では「どちらともいえない」が3割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。(10歳代は、回答数が少ないため参考程度。以下、同様)



【現在、結婚している方（事実婚を含む）と答えた方のみ】

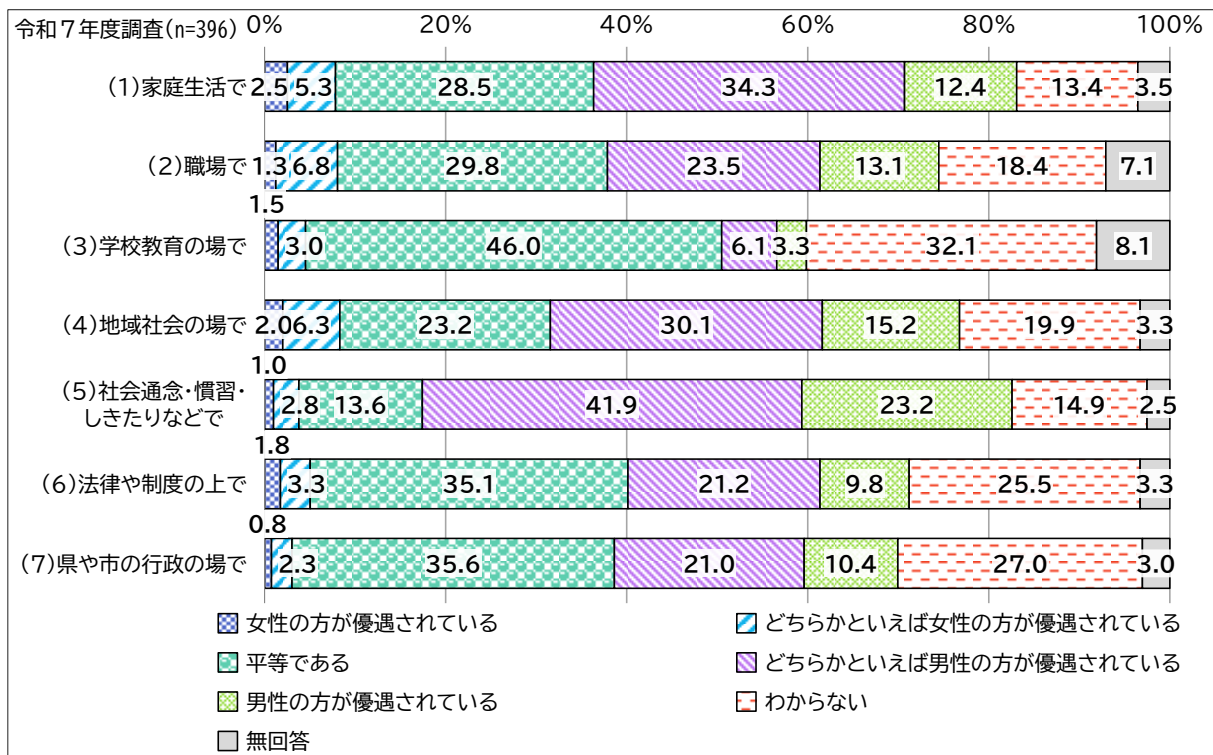
問2 あなたの家庭では、家庭内の役割分担をどのようにしていますか。【現状】と【理想】をそれぞれお答えください。（単数回答）

- 日常的な暮らしの役割分担について、現状では、「家計の管理」は「夫婦で共同」、「乳幼児の世話・育児」「PTA への出席」「高齢者の世話・介護」は「該当なし」、「地区行事等への参加」は「主に夫」、それ以外は「主に妻」が最も高く、特に「食事の支度」「食事の片づけ」「掃除」「洗濯」は6割を超えています。
- 理想では、どの項目も「夫婦で共同」が最も高く、特に「食事の片づけ」「食料品や日用品の買い物」「掃除」は7割を超えています。



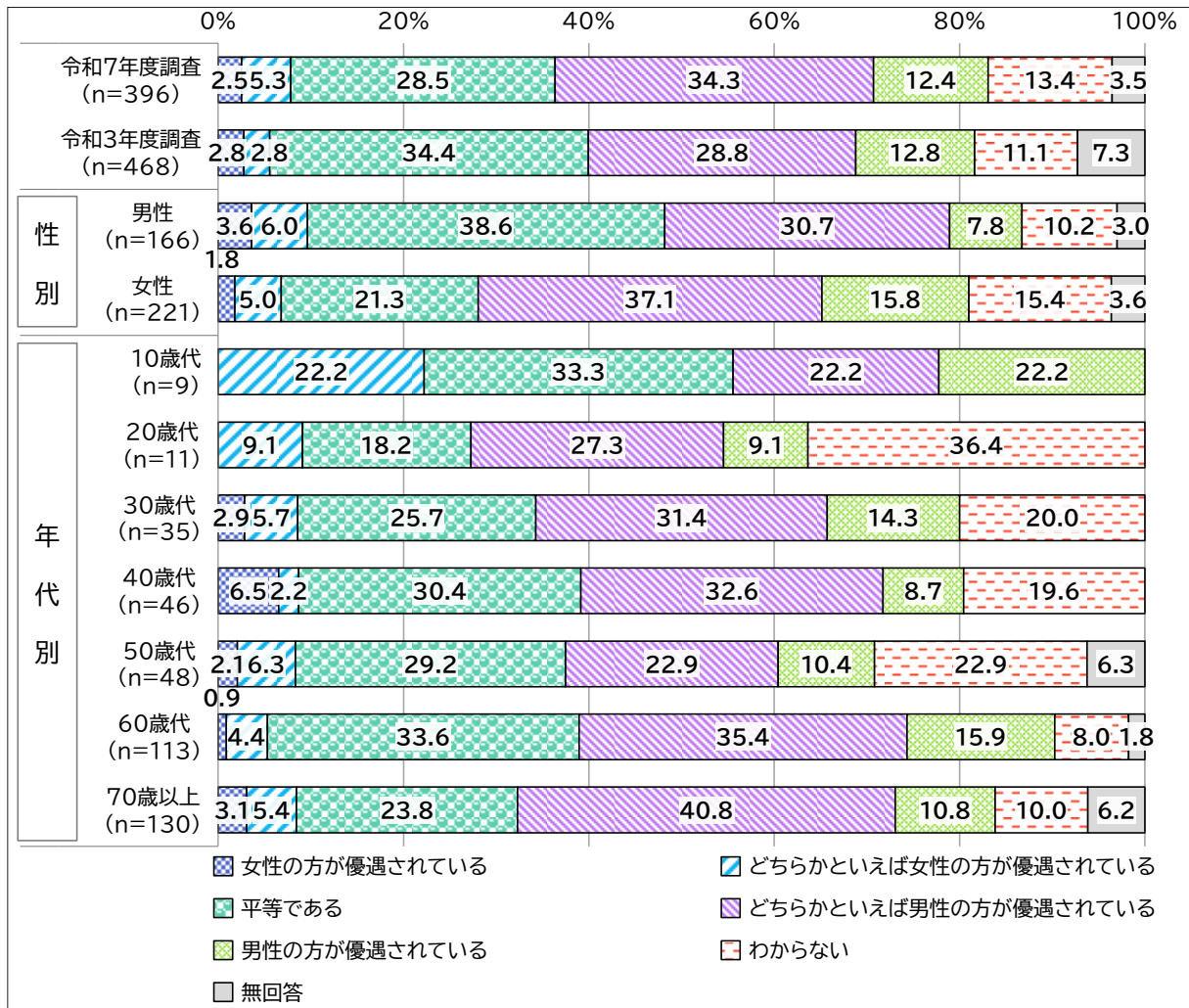
**問3 あなたは、次のような分野で、今の男女は平等になっていると思いますか。
(単数回答)**

○男女の地位の平等感については、「学校教育の場」「法律や制度の上」「県や市の行政の場」では「平等である」が最も高く、それ以外は『男性優遇感：どちらかといえば男性の方が優遇されている+男性の方が優遇されている』が最も高くなっています。また、すべての分野において『男性優遇感』が『女性優遇感：女性の方が優遇されている+どちらかといえば女性の方が優遇されている』を上回っています。特に「社会通念・慣習・しきたりなど」では『男性優遇感』の割合が6割を超えています。一方、どの分野も『女性優遇感』の割合は1割以下とかなり低くなっています。



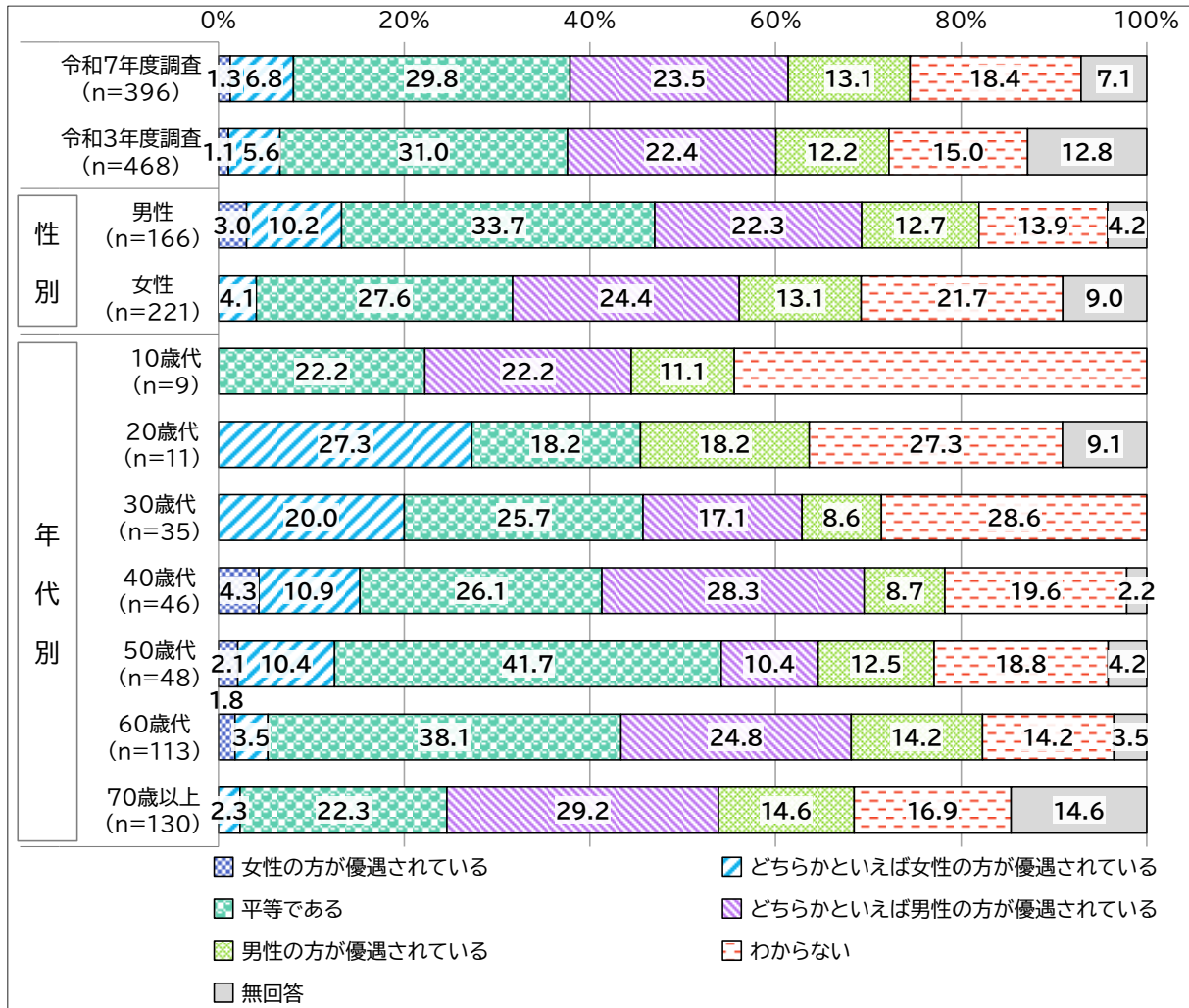
(1) 家庭生活

- 家庭生活での平等感については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が34.3%と最も高く、次いで「平等である」28.5%、「わからない」13.4%となっています。
- 性別でみると、男性は「平等である」、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。また、男性は女性と比べて「平等である」が高く、『男性優遇感』が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 年代別でみると、50歳代では「平等である」、それ以外の年代はどの年代も「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。また、どの年代も『男性優遇感』が『女性優遇感』を上回っており、特に60歳代以上では5割を超えています。



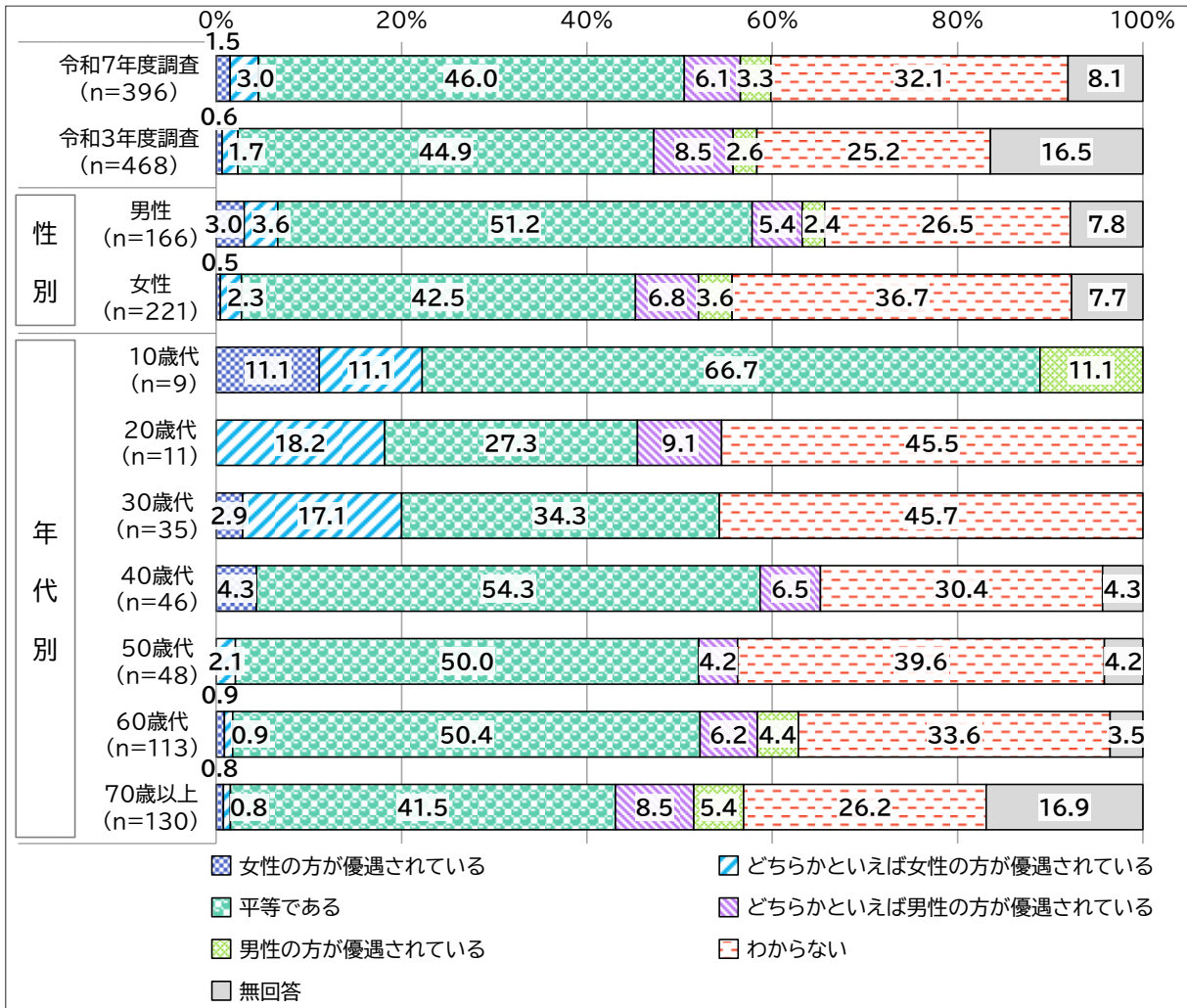
(2) 職場

- 職場での平等感については、「平等である」が 29.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」23.5%、「わからない」18.4%となっています。
- 性別でみると、男女ともに「平等である」が最も高くなっています。
- 年代別でみると、20 歳代では「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「わからない」が同率で最も高く、30 歳代では「わからない」、40 歳代及び 70 歳以上では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、それ以外の年代では「平等である」が最も高くなっています。



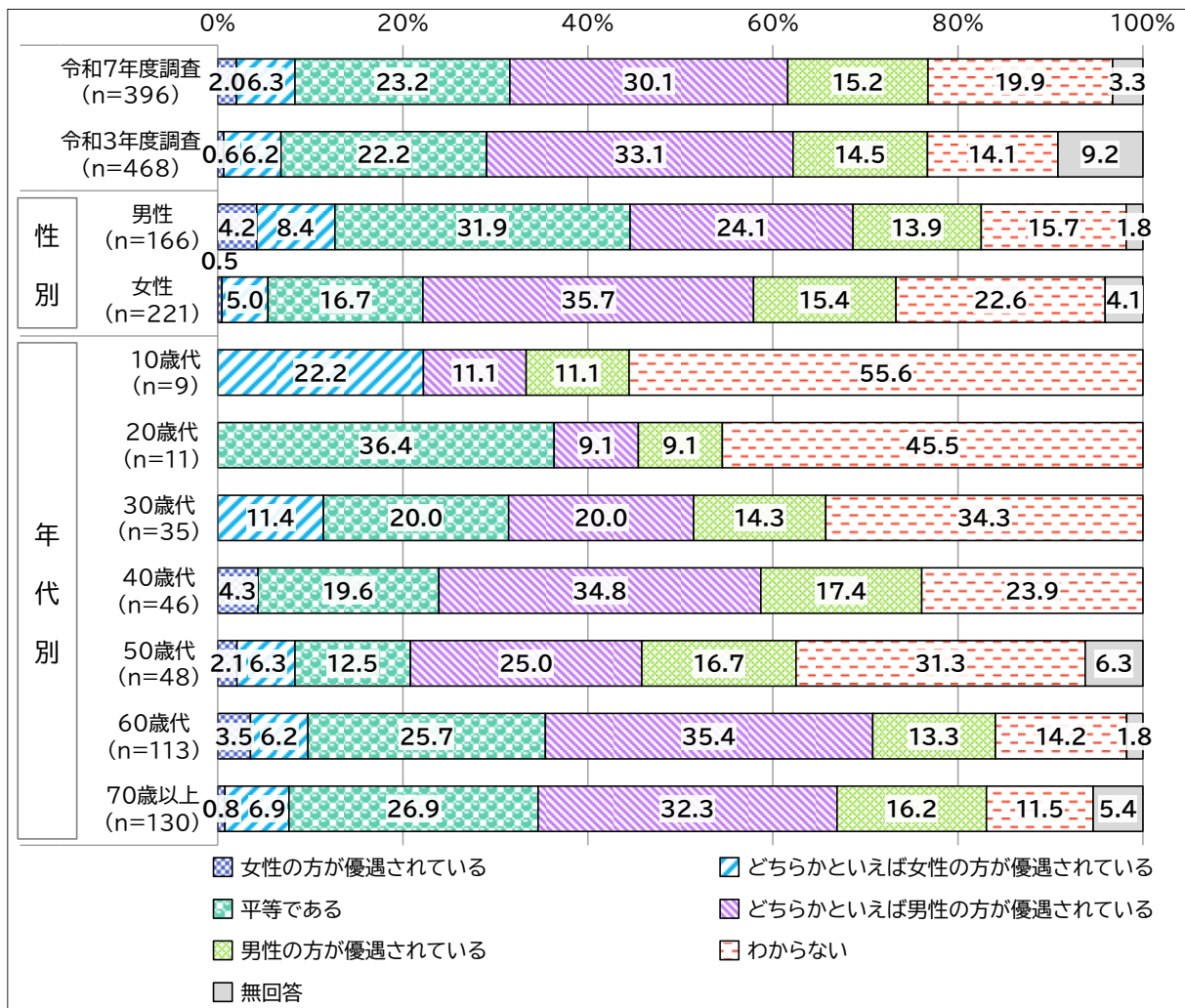
(3) 学校教育の場

- 学校教育の場での平等感については、「平等である」が46.0%と最も高く、次いで「わからない」32.1%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」6.1%となっています。
- 性別でみると、男女ともに「平等である」が最も高く、男性は5割を超えています。また、女性は男性と比べて「わからない」が10.2ポイント高くなっています。
- 年代別でみると、20歳代～30歳代では「わからない」、それ以外はどの年代も「平等である」が最も高く、特に40歳代～60歳代では5割を超えています。また、20～30歳代では『女性優遇感』が2割前後となっており、他の年代に比べて高くなっています。



(4) 地域社会の場

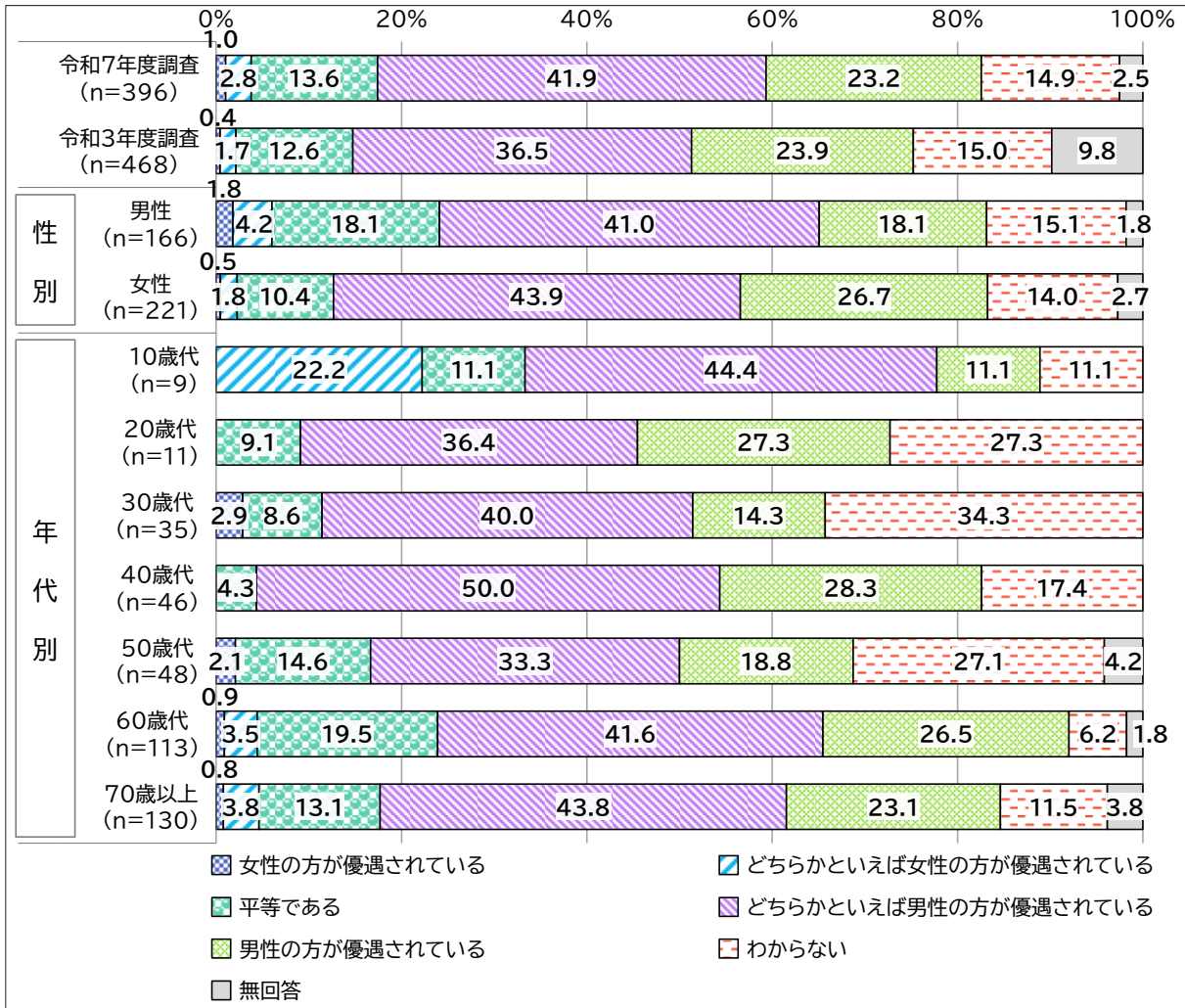
- 地域社会の場での平等感については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が30.1%と最も高く、次いで「平等である」23.2%、「わからない」19.9%となっています。
- 性別でみると、男性は「平等である」、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。男女ともに『男性優遇感』が『女性優遇感』を上回っており、女性は男性と比べて『男性優遇感』が13.1ポイント高くなっています。
- 年代別でみると、40歳代及び60歳代以上では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、それ以外の年代では「わからない」が最も高くなっています。また、どの年代も『男性優遇感』が『女性優遇感』を上回っており、特に40歳代では5割を超えています。



(5) 社会通念・慣習・しきたりなど

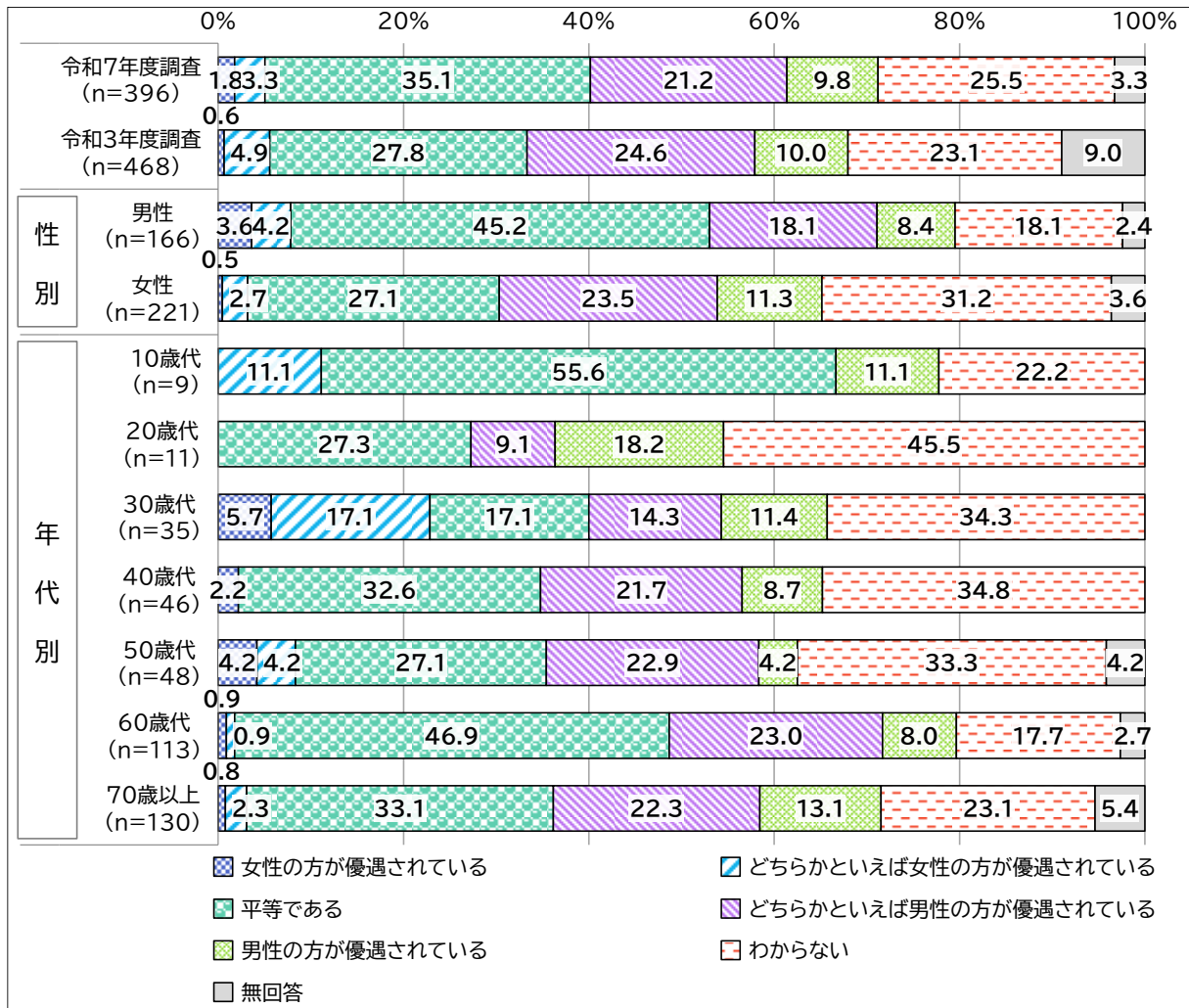
○社会通念・慣習・しきたりなどでの平等感については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が41.9%と最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」23.2%、「わからない」14.9%となっています。

○性別及び年代別でも、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。また、いずれも『男性優遇感』が『女性優遇感』を上回っており、特に女性及び40歳代では『男性優遇感』が7割を超えています。



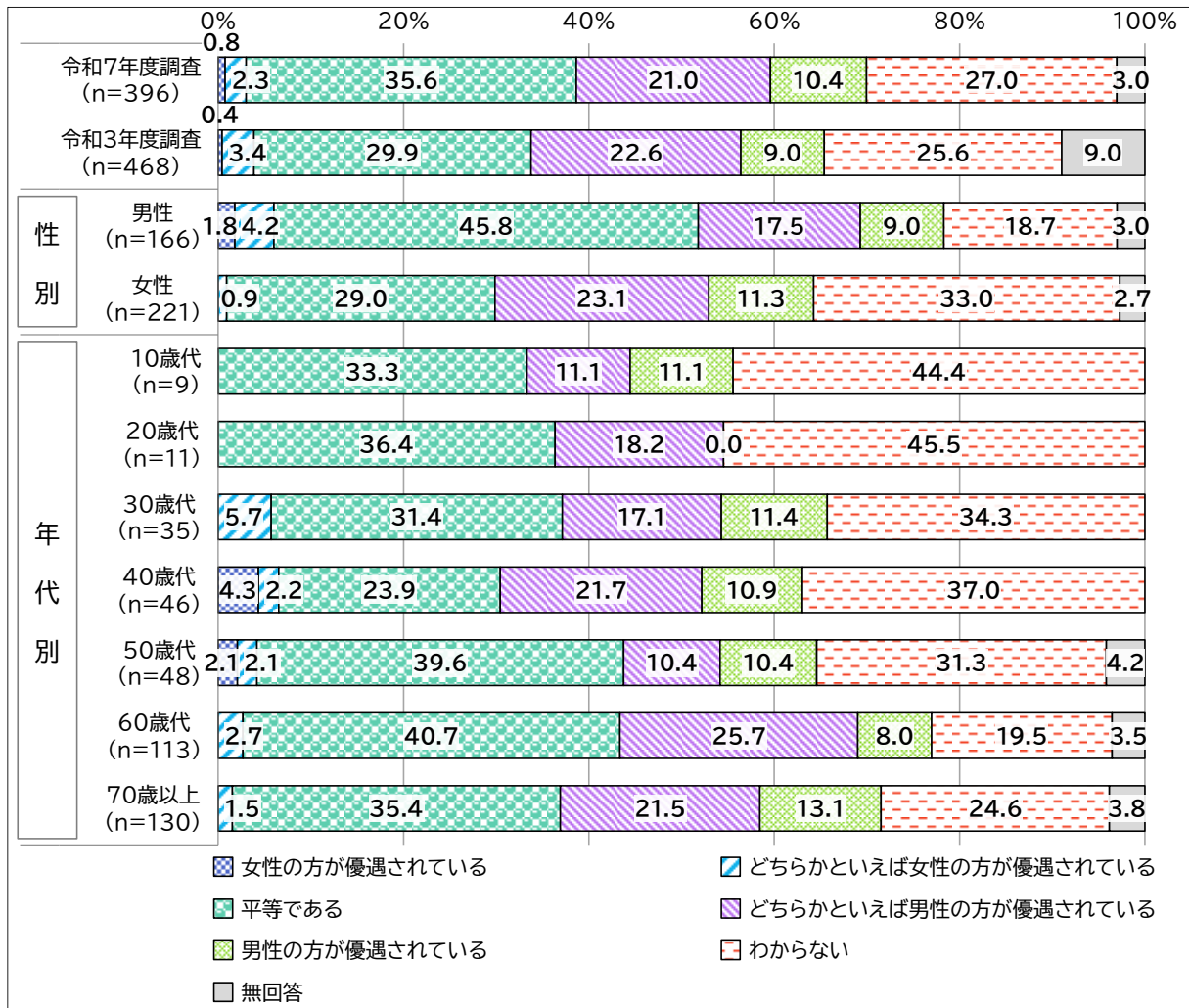
(6) 法律や制度の上

- 法律や制度の上での平等感については、「平等である」が 35.1%と最も高く、次いで「わからない」25.5%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」21.2%となっています。
- 性別でみると、男性は「平等である」、女性は「わからない」が最も高くなっています。また、男性は女性と比べて「平等である」が高く、「わからない」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 年代別でみると、50歳代までは「わからない」、60歳代以上では「平等である」が最も高くなっています。また、30歳代では『女性優遇感』が2割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。



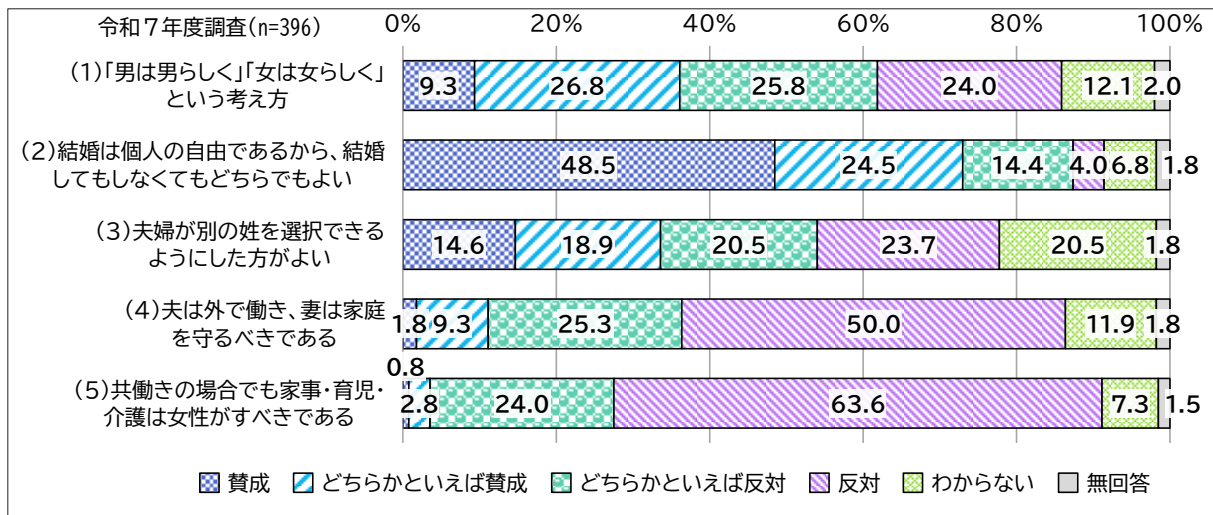
(7) 県や市の行政の場

- 県や市の行政の場での平等感については、「平等である」が 35.6%と最も高く、次いで「わからない」27.0%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」21.0%となっています。
- 性別で見ると、男性は「平等である」、女性は「わからない」が最も高くなっています。また、男性は女性と比べて「平等である」が高く、「わからない」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 年代別で見ると、40歳代までは「わからない」、50歳代以上では「平等である」が最も高くなっています。



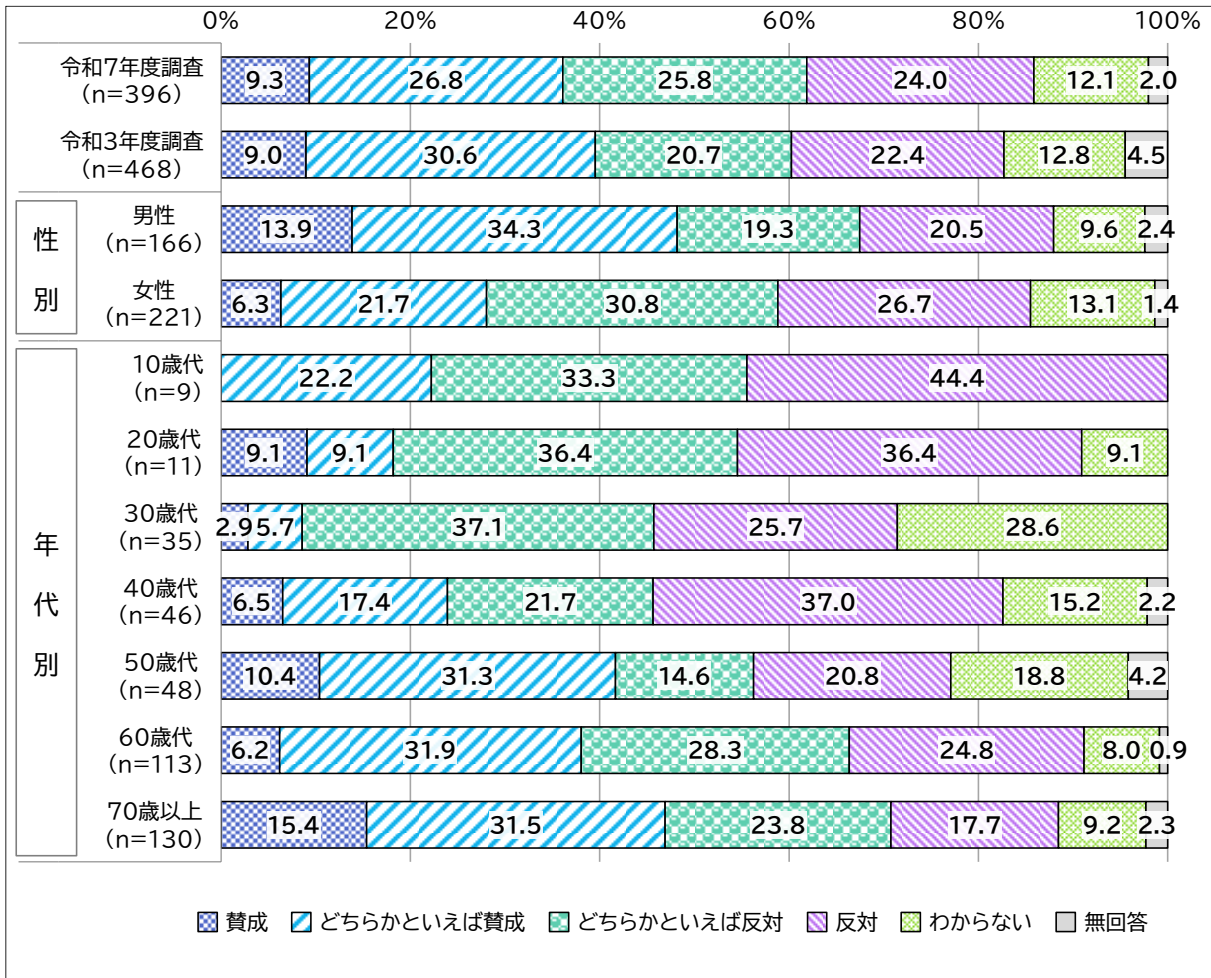
**問 4 結婚、家庭について、あなたのお考えに近いものを選んでください。
(単数回答)**

- 結婚、家庭に対する意識について尋ねたところ、『賛成：賛成+どちらかといえば賛成』が最も高いのは、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」73.0%、次いで『「男は男らしく」「女は女らしく」という考え方』36.1%、「夫婦が別の姓を選択できるようにした方がよい」33.5%となっています。
- 『反対：どちらかといえば反対+反対』が最も高いのは、「共働きの場合でも家事・育児・介護は女性がすべきである」87.6%、次いで「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」75.3%、『「男は男らしく」「女は女らしく」という考え方』49.8%となっており、「夫婦が別の姓を選択できるようにした方がよい」も4割を超えています。
- 「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」以外は、いずれも『反対』が『賛成』を上回っています。



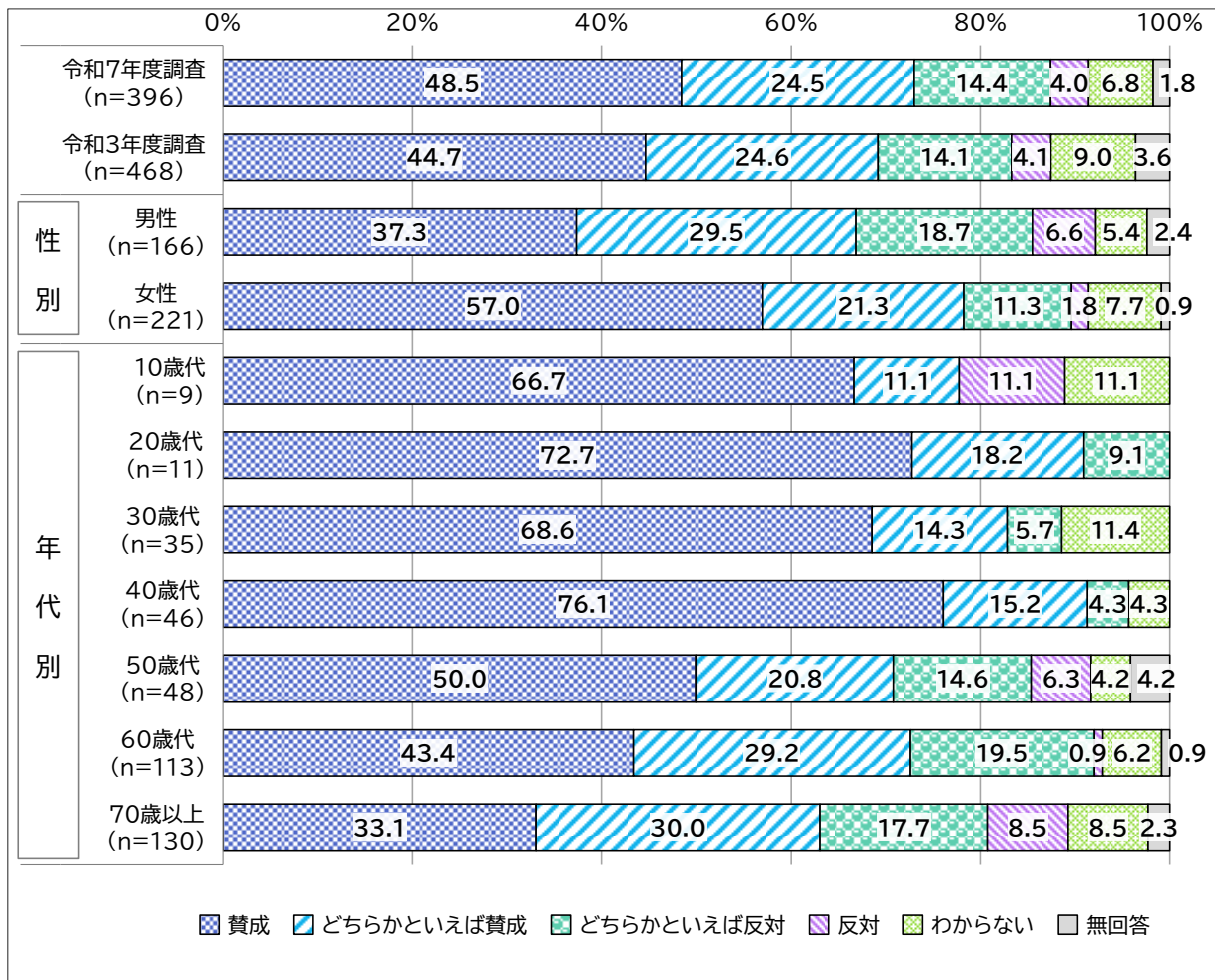
(1) 「男は男らしく」「女は女らしく」という考え方

- 「男は男らしく」「女は女らしく」という考え方については、「どちらかといえば賛成」が26.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば反対」25.8%、「反対」24.0%となっています。
- 性別で見ると、男性は「どちらかといえば賛成」、女性は「どちらかといえば反対」が最も高くなっています。また、男性は女性と比べて『賛成』が高く、『反対』が低くなっており、15ポイント以上差が生じています。
- 年代別で見ると、50歳代及び70歳以上では『賛成』が『反対』を上回っていますが、それ以外の年代では『反対』が高く、特に20歳代～30歳代では『反対』が6割を超えています。



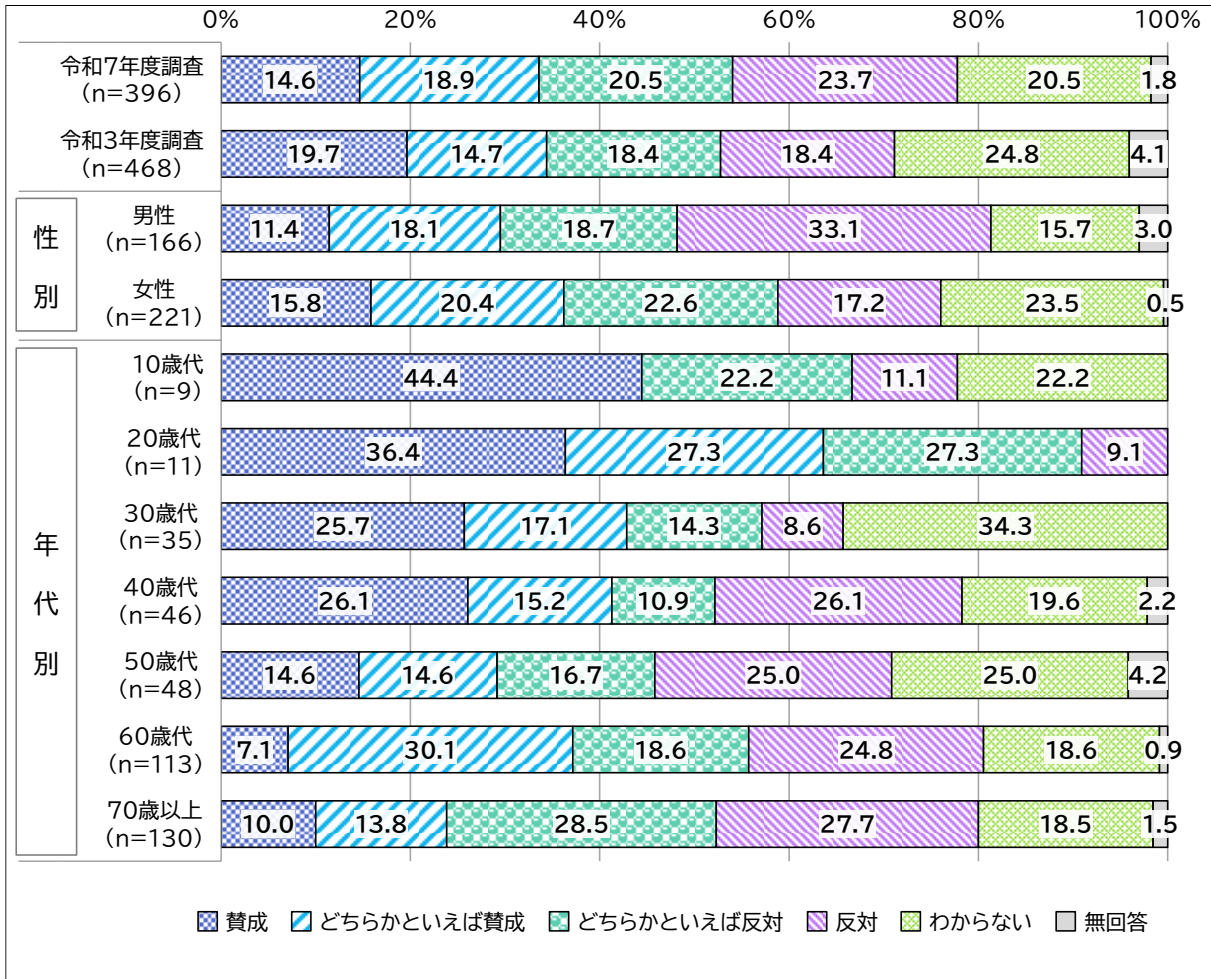
(2) 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

- 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよいという考え方については、「賛成」が48.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」24.5%、「どちらかといえば反対」14.4%となっており、7割が『賛成』と回答しています。
- 性別でみると、男女ともに「賛成」が最も高くなっています。また、女性は男性と比べて『賛成』が高く、『反対』が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 年代別でみると、どの年代も『賛成』が『反対』を上回っており、特に20歳代～40歳代では『賛成』が8割を超えています。また、50歳代以上では『反対』が2割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。



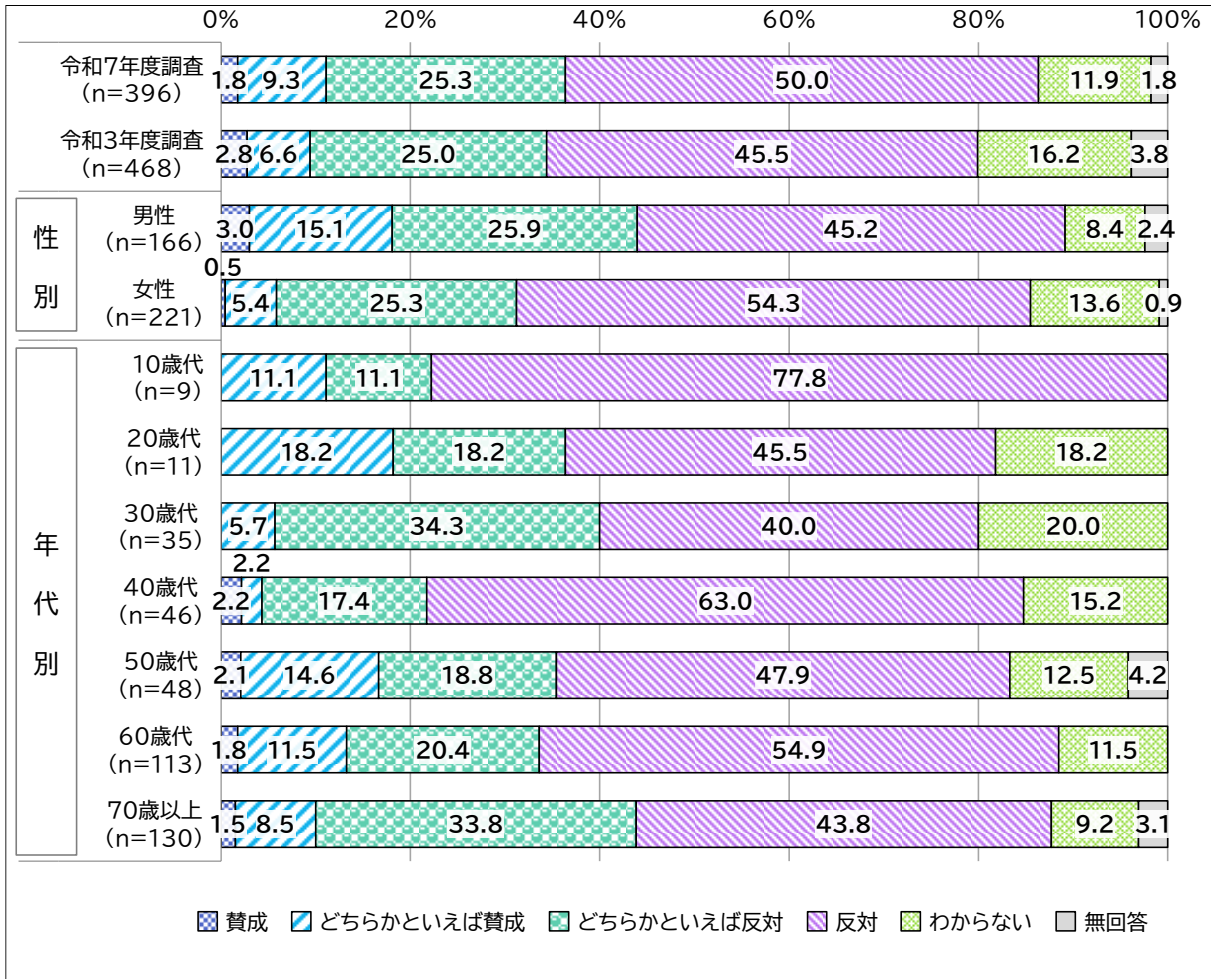
(3) 夫婦が別の姓を選択できるようにした方がよい

- 夫婦が別の姓を選択できるようにした方がよいという考え方については、「反対」が23.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば反対」「わからない」20.5%、「どちらかといえば賛成」18.9%となっています。
- 性別でみると、男性は「反対」、女性は「わからない」が最も高くなっています。また、男性は女性と比べて『反対』が12.0ポイント高くなっています。
- 年代別でみると、40歳代までは『賛成』が『反対』を上回っていますが、50歳代以上では『反対』が高くなっています。



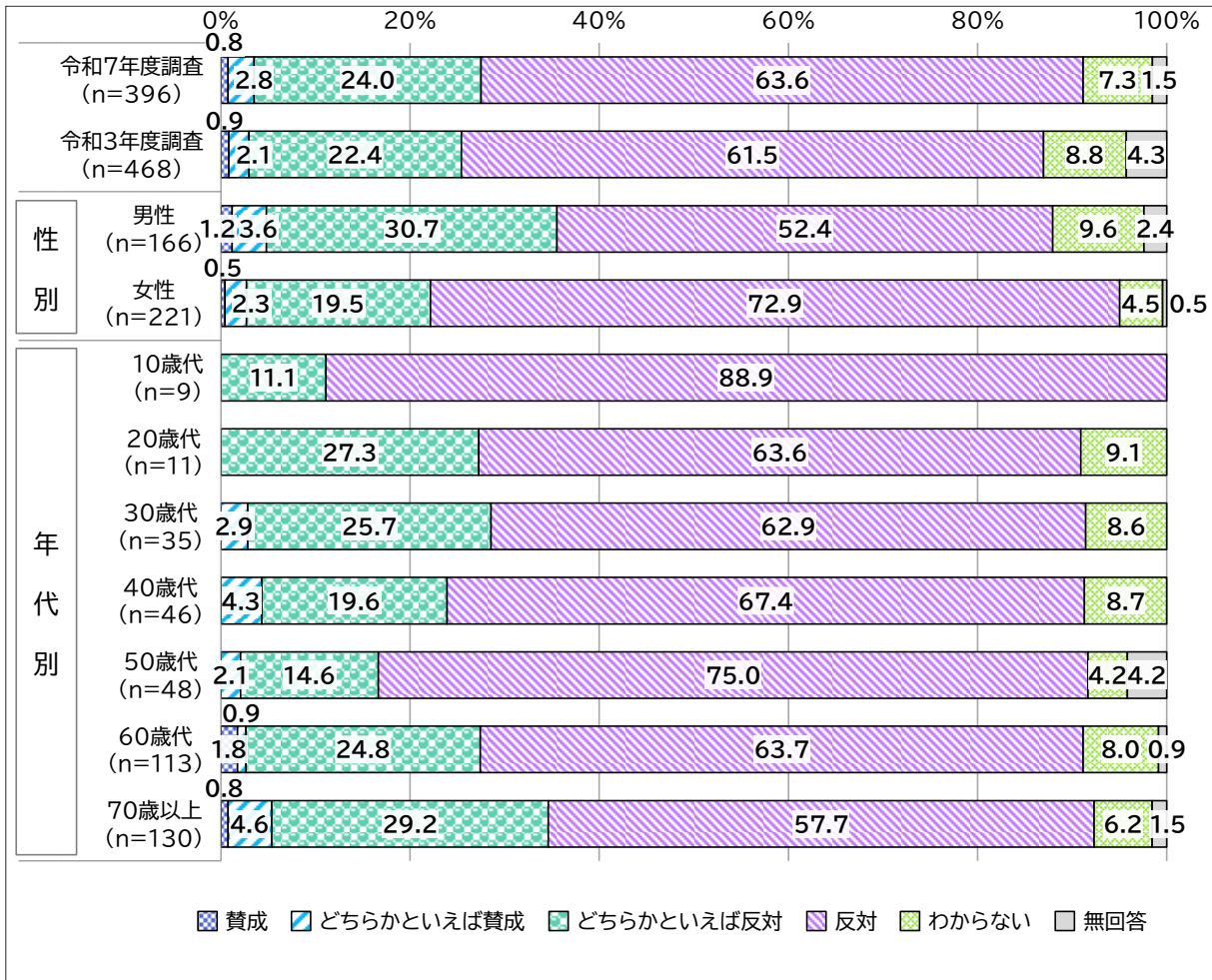
(4) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

- 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方については、「反対」が 50.0%と最も高く、次いで「どちらかといえば反対」25.3%、「わからない」11.9%となっており、7割が『反対』と回答しています。
- 性別でみると、男女ともに「反対」が最も高く、女性は男性と比べて約10ポイント高くなっています。一方、男性は女性と比べて『賛成』が12.2ポイント高くなっています。
- 年代別でみると、どの年代も『反対』が『賛成』を上回っており、特に40歳代では『反対』が8割を超えています。



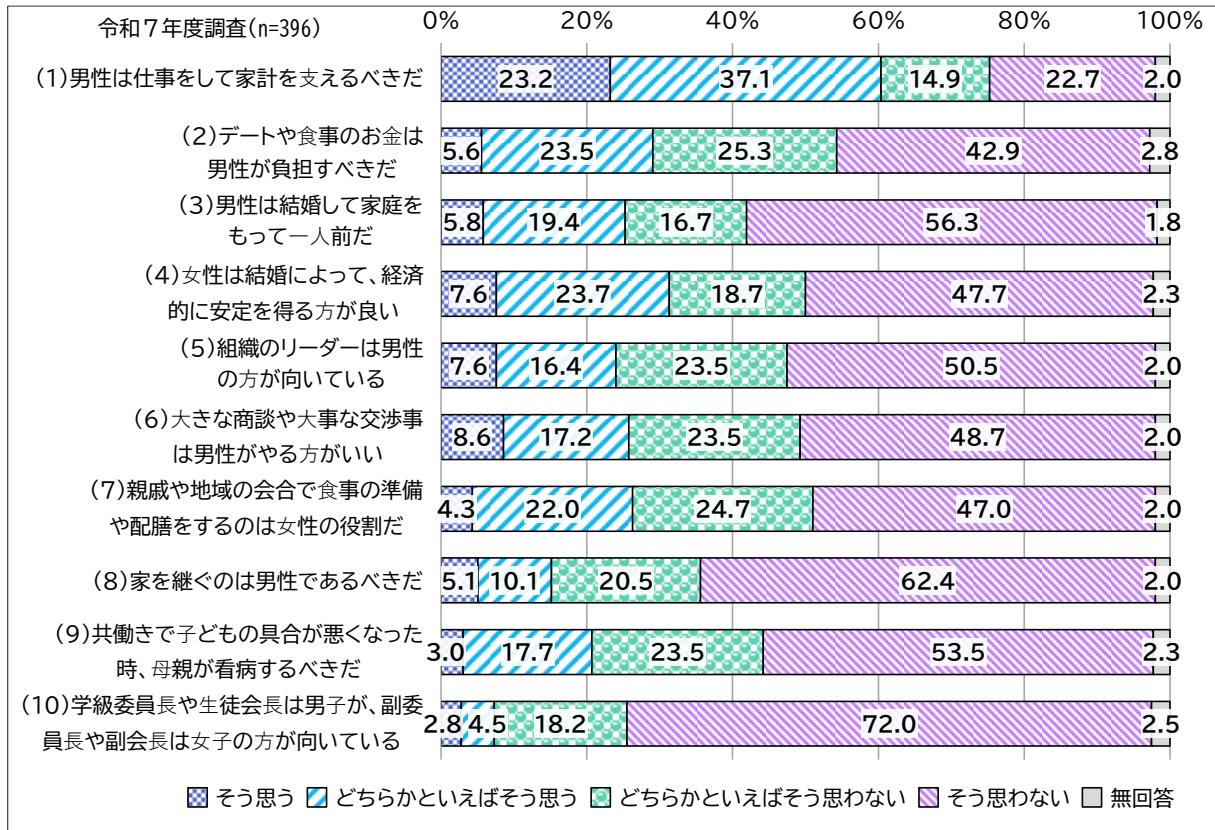
(5) 共働きの場合でも家事・育児・介護は女性がすべきである

- 共働きの場合でも家事・育児・介護は女性がすべきであるという考え方については、「反対」が63.6%と最も高く、次いで「どちらかといえば反対」24.0%、「わからない」7.3%となっており、約9割が『反対』と回答しています。
- 性別でみると、男女ともに「反対」が最も高く、8割以上が『反対』と回答しています。
- 年代別でみると、どの年代も『反対』が8割を超えており、『賛成』を大きく上回っています。



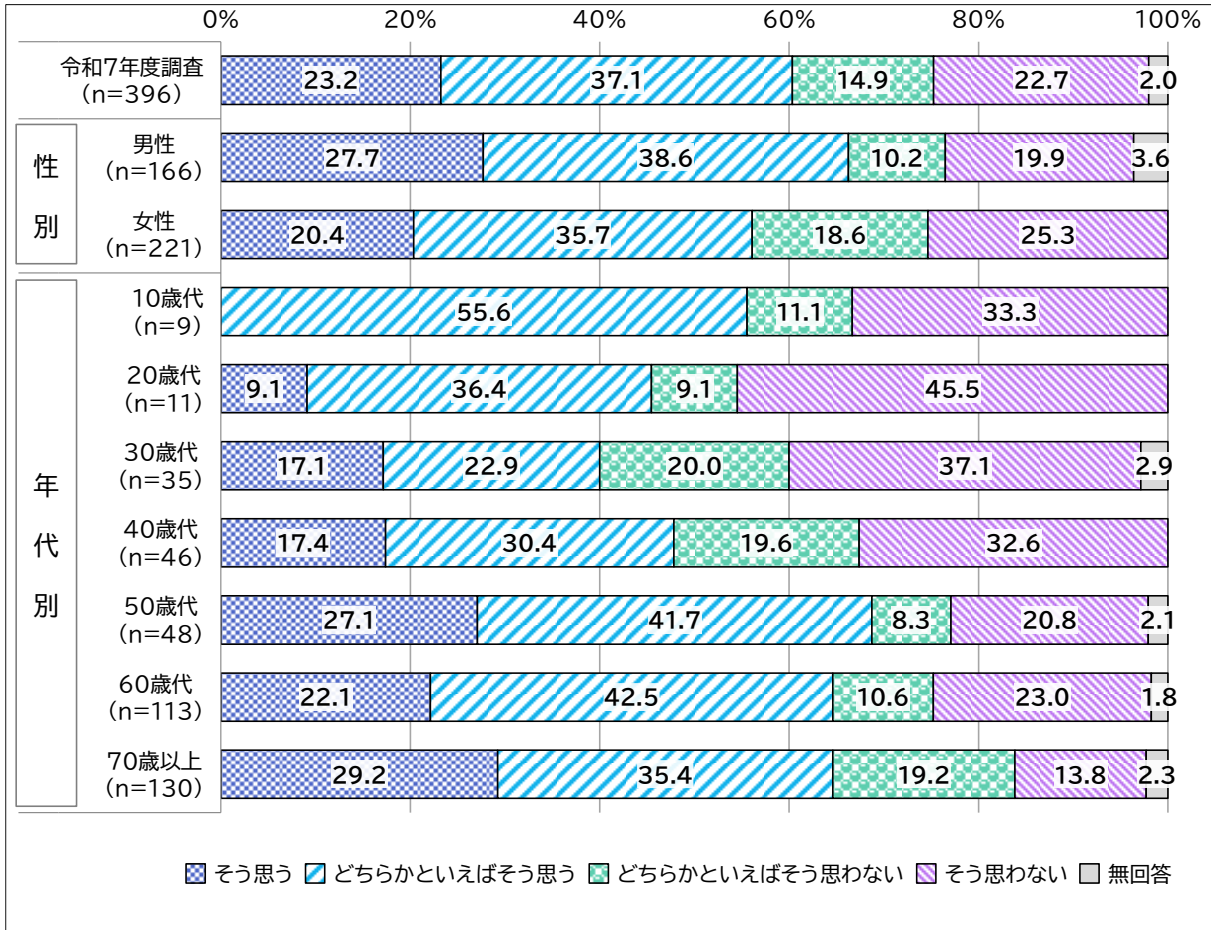
**問5 あなたは下記の(1)～(10)の考え方について、どのように思いますか。
(単数回答)**

○性別による社会的役割の固定化について、『そう思う：そう思う+どちらかといえばそう思う』が最も高いのは「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」60.3%となっていますが、それ以外はどの項目も『そう思わない：どちらかといえばそう思わない+そう思わない』が『そう思う』を上回っており、特に「家を継ぐのは男性であるべきだ」「学級委員長や生徒会長は男子が、副委員長や副会長は女子の方が向いている」は8割を超えています。



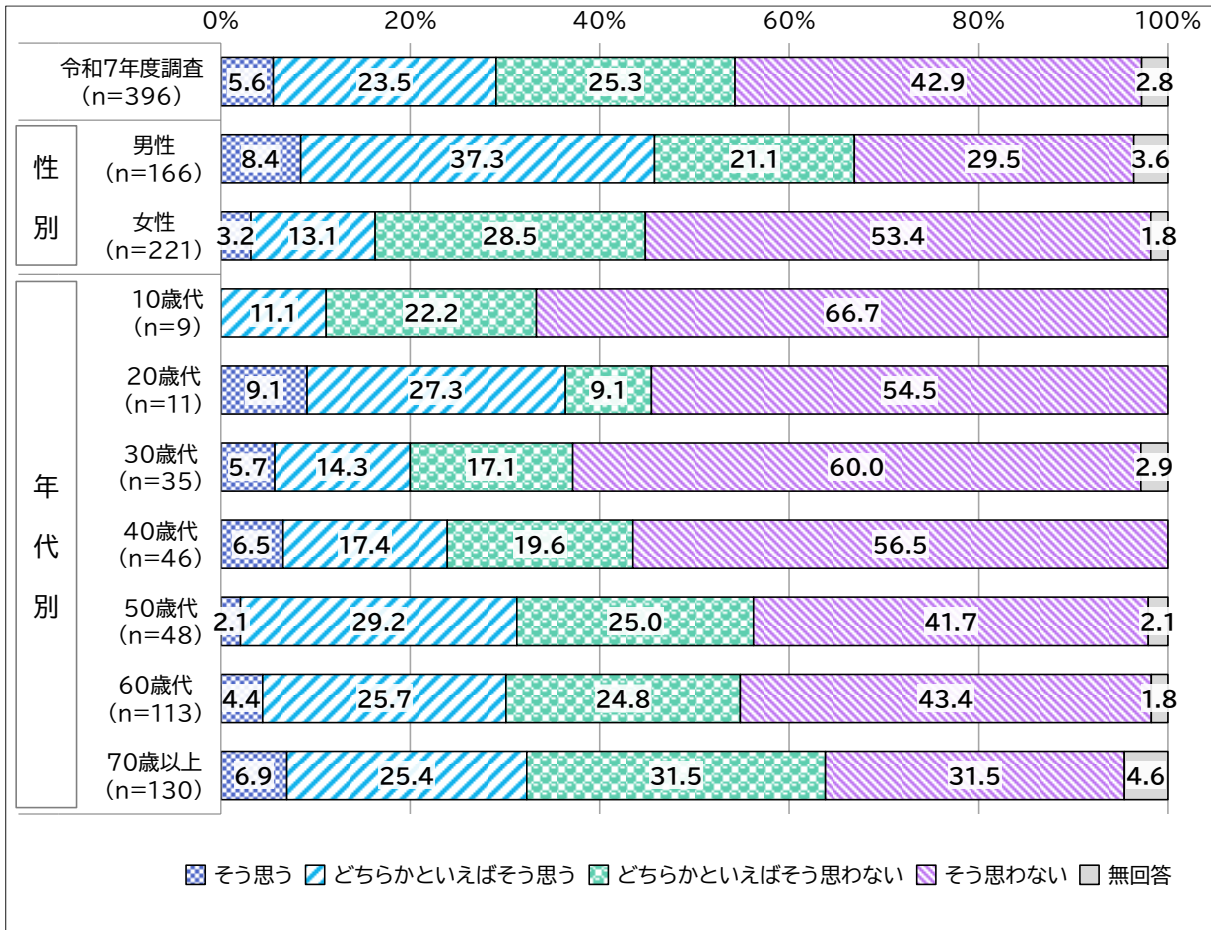
(1) 男性は仕事をして家計を支えるべきだ

- 性別で見ると、男女ともに『そう思う』が『そう思わない』を上回っていますが、男性は女性と比べて『そう思う』が高く、『そう思わない』が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 年代別で見ると、20歳代～40歳代では『そう思わない』、50歳代以上では『そう思う』が5割を超えています。



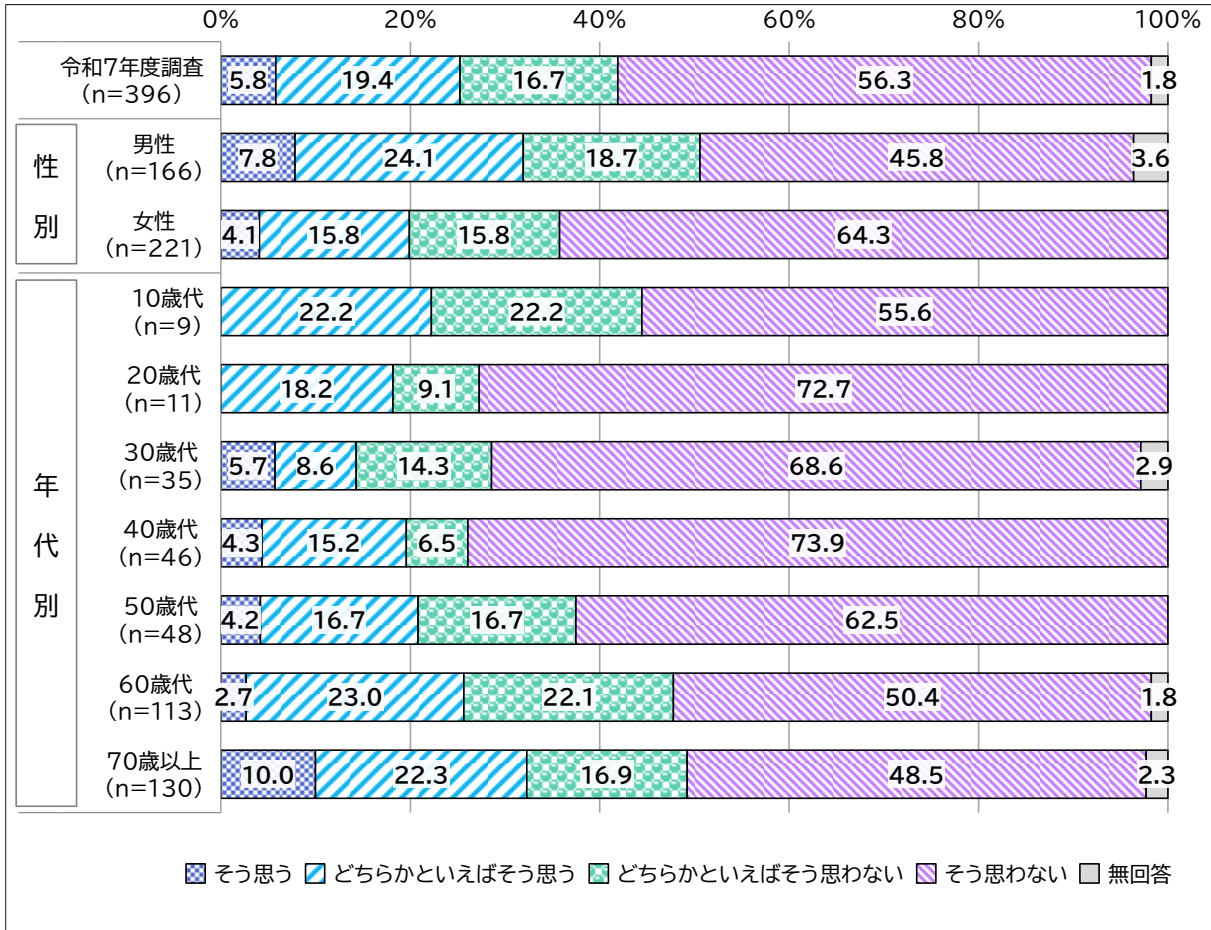
(2) デートや食事のお金は男性が負担すべきだ

- 性別でみると、男性は「どちらかといえばそう思う」、女性は「そう思わない」が最も高くなっています。また、男性は『そう思う』『そう思わない』が同程度の割合となっていますが、女性は『そう思わない』が8割を超えており、『そう思う』を大きく上回っています。
- 年代別でみると、どの年代も『そう思わない』が『そう思う』を上回っており、特に30歳代～40歳代では7割を超えています。



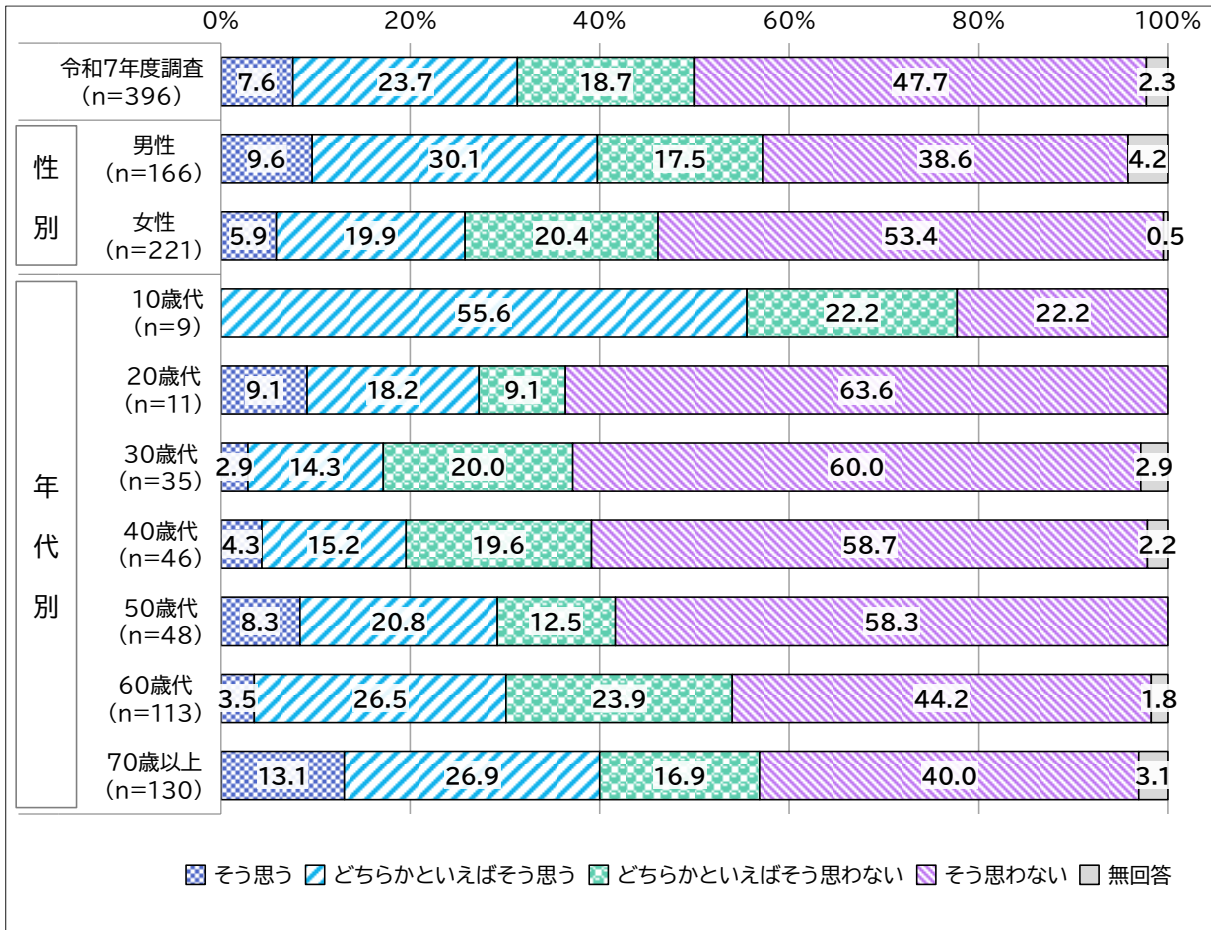
(3) 男性は結婚して家庭をもって一人前だ

- 性別でみると、男女ともに「そう思わない」が最も高く、特に女性は6割を超えています。また、男性は女性と比べて『そう思う』が高く、『そう思わない』が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 年代別でみると、どの年代も『そう思わない』が『そう思う』を上回っており、特に20歳代～40歳代では8割を超えています。



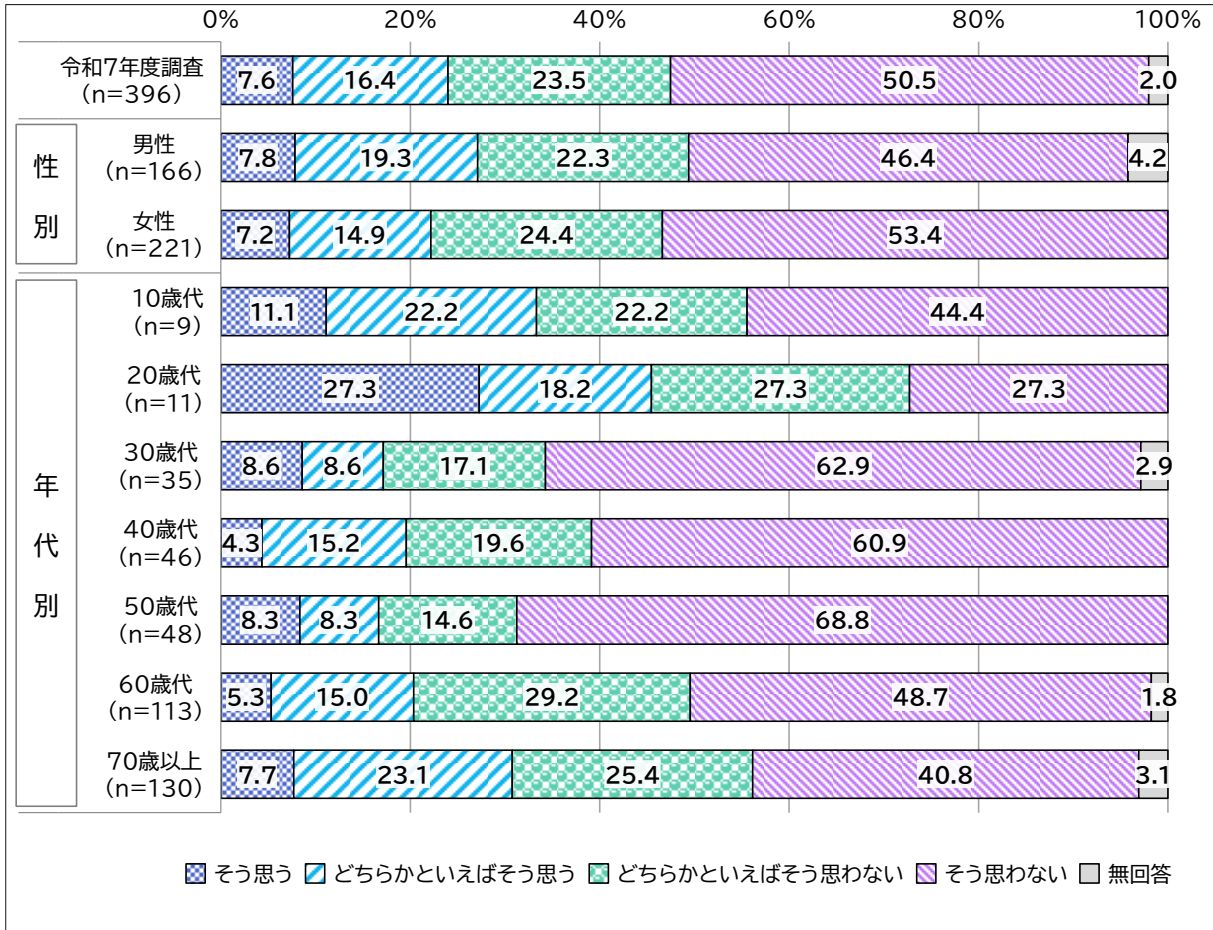
(4) 女性は結婚によって、経済的に安定を得る方が良い

- 性別でみると、男女ともに「そう思わない」が最も高く、特に女性は5割を超えています。また、男性は女性と比べて『そう思う』が高く、『そう思わない』が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 年代別でみると、どの年代も『そう思わない』が『そう思う』を上回っており、特に30歳代では8割を超えています。また、70歳以上では『そう思う』が4割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。



(5) 組織のリーダーは男性の方が向いている

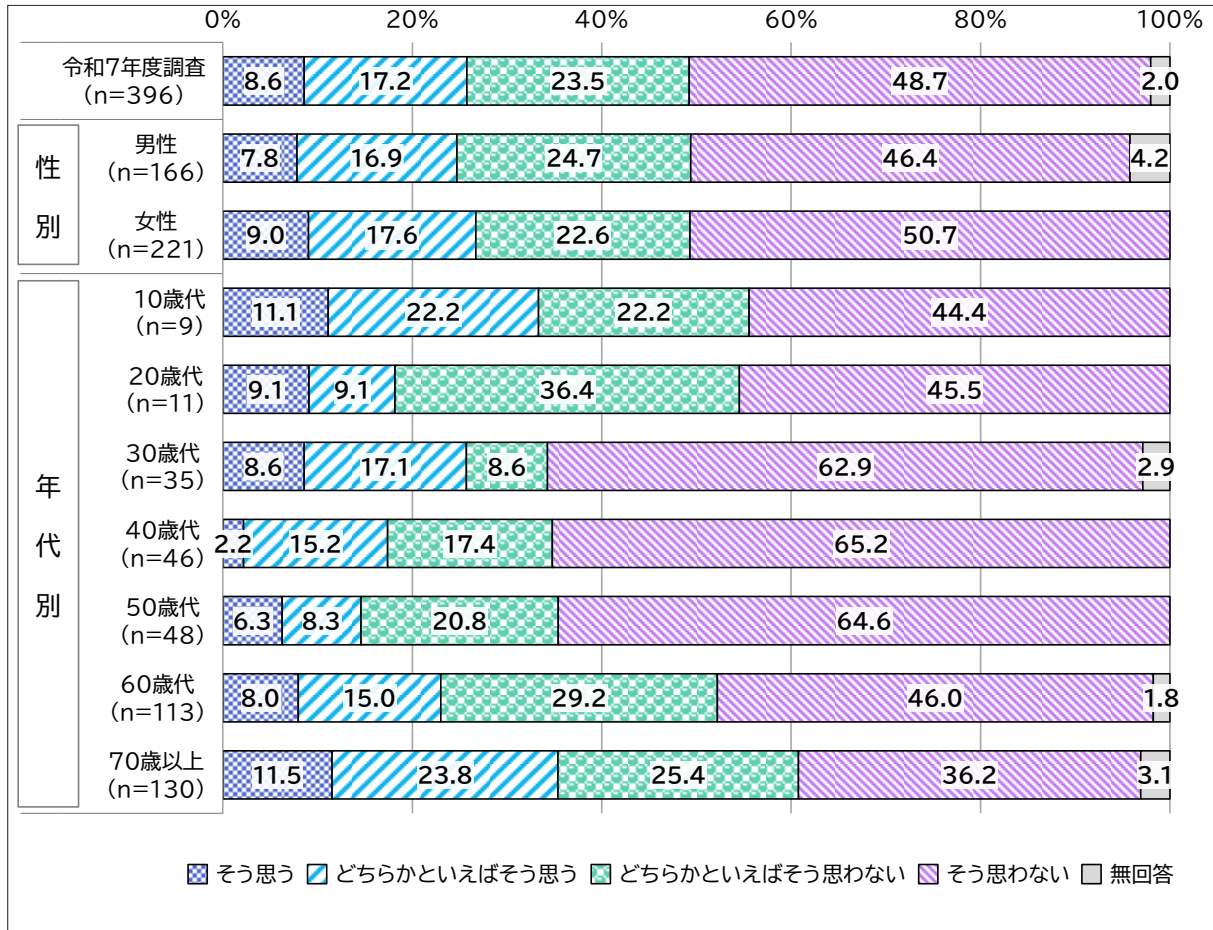
- 性別で見ると、男女ともに『そう思わない』が6割を超えており、『そう思う』を上回っています。
- 年代別で見ると、どの年代も『そう思わない』が『そう思う』を上回っており、特に30歳代～50歳代では8割を超えています。また、20歳代及び70歳以上では『そう思う』が3割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。



(6) 大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい

○性別で見ると、男女ともに『そう思わない』が7割を超えており、『そう思う』を上回っています。

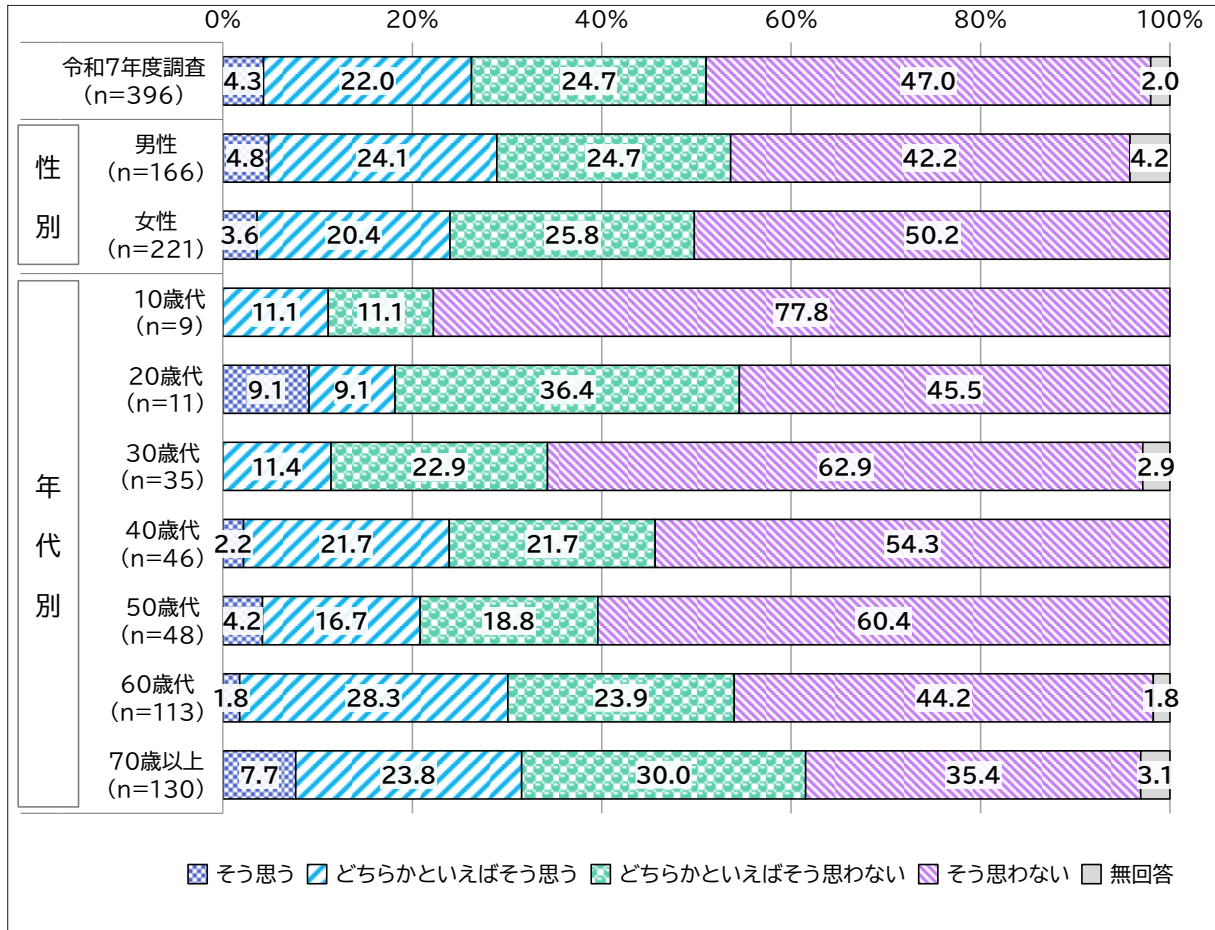
○年代別で見ると、どの年代も『そう思わない』が『そう思う』を上回っており、特に20歳代及び40歳代～50歳代では8割を超えています。



(7) 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ

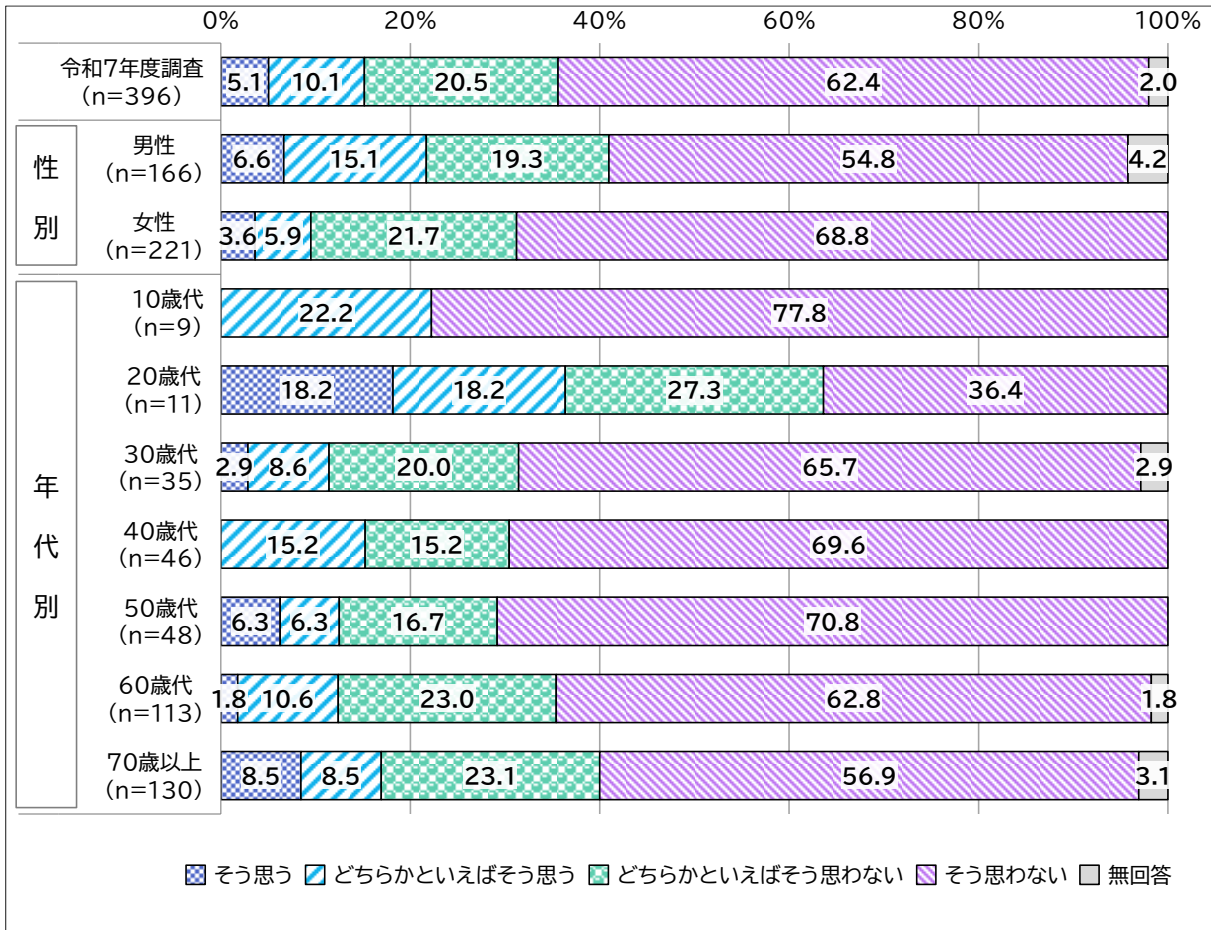
○性別で見ると、男女ともに『そう思わない』が6割を超えており、『そう思う』を上回っています。

○年代別で見ると、どの年代も『そう思わない』が『そう思う』を上回っており、特に20歳代～30歳代では8割を超えています。



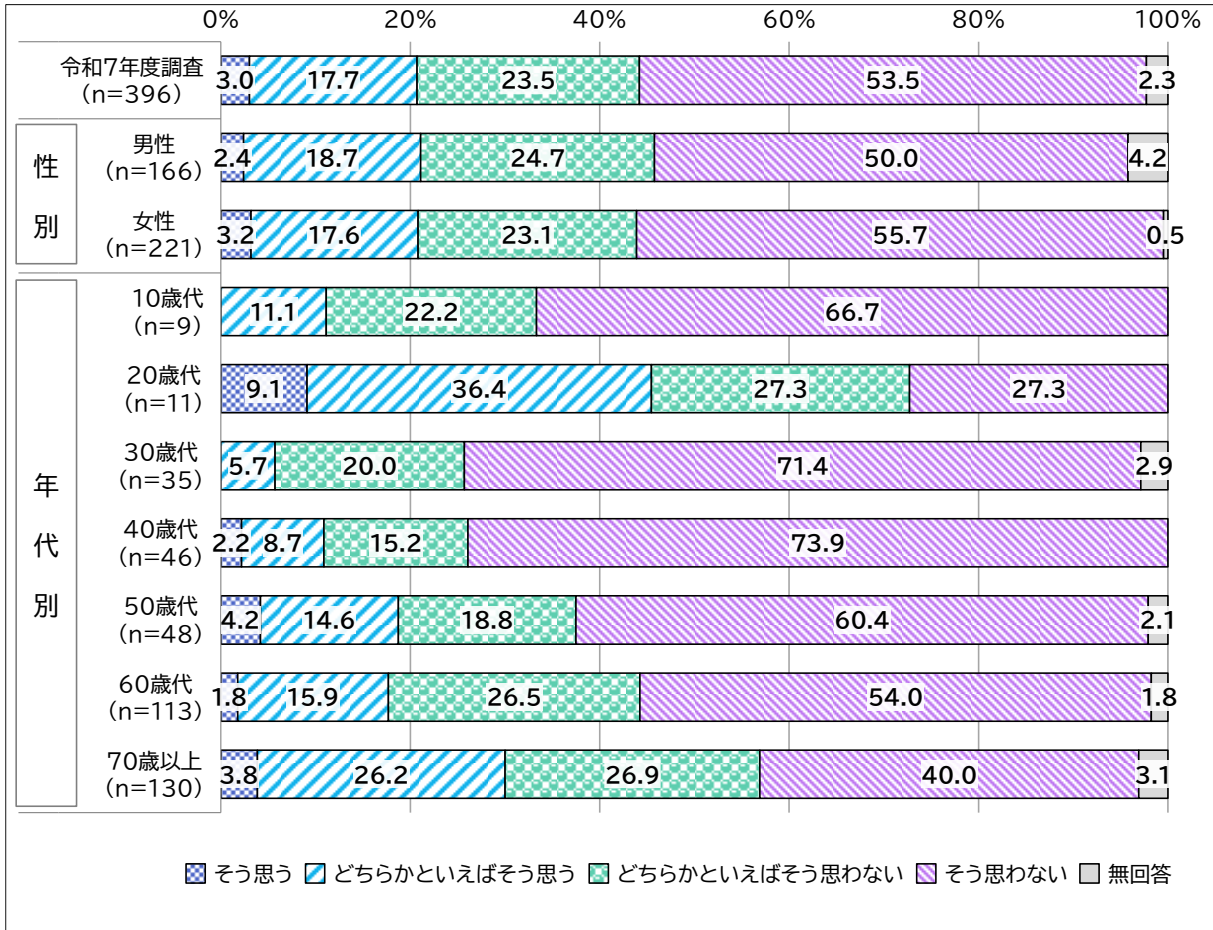
(8) 家を継ぐのは男性であるべきだ

- 性別で見ると、男女ともに『そう思わない』が『そう思う』を上回っており、特に女性は9割を超えています。また、男性は女性と比べて『そう思う』が高く、『そう思わない』が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 年代別で見ると、どの年代も『そう思わない』が『そう思う』を上回っており、特に30歳代以上では8割を超えています。また、20歳代では『そう思う』が3割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。



(9) 共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病すべきだ

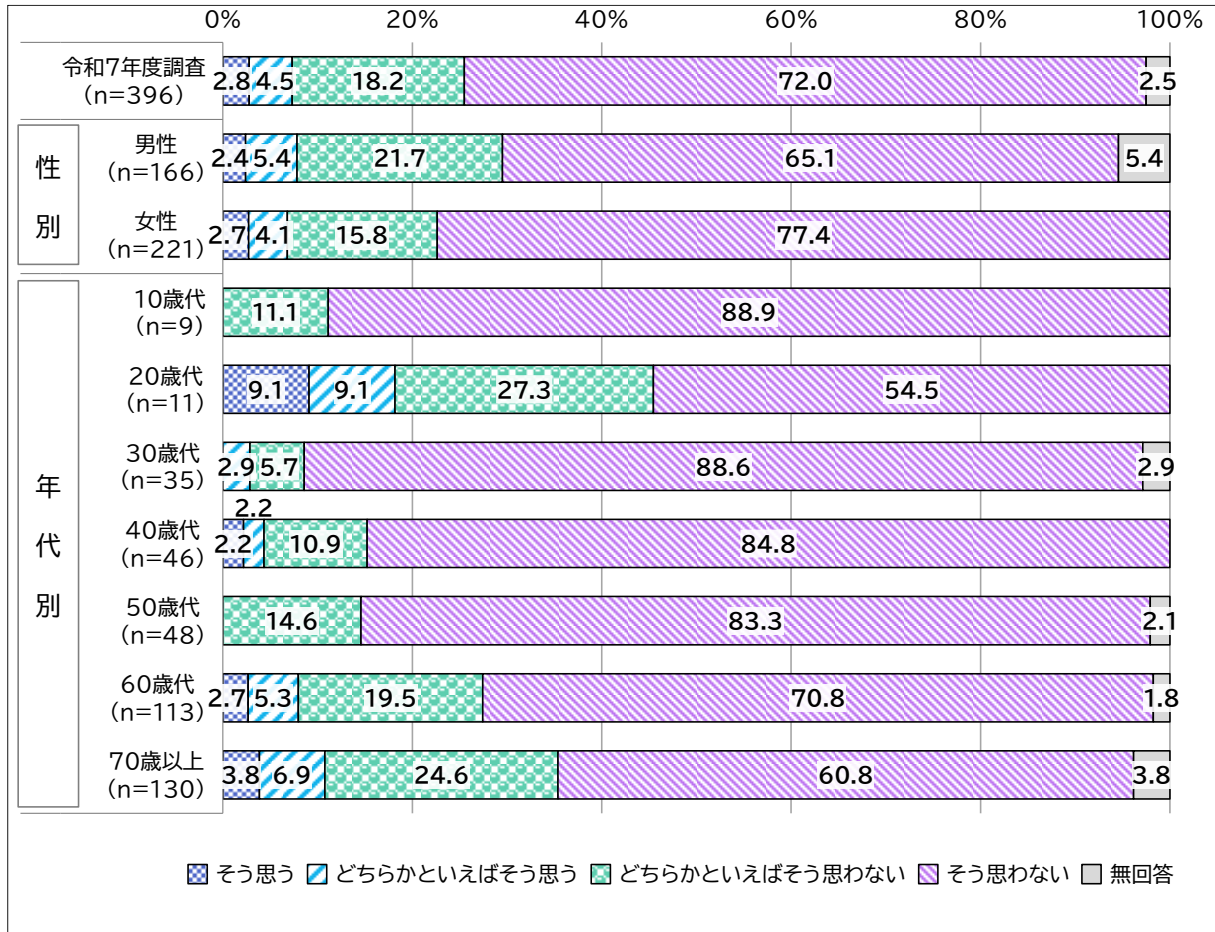
- 性別で見ると、男女ともに『そう思わない』が7割を超えており、『そう思う』を上回っています。
- 年代別で見ると、どの年代も『そう思わない』が『そう思う』を上回っており、特に30歳代では9割を超えています。また、20歳代及び70歳以上では『そう思う』が3割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。



(10) 学級委員長や生徒会長は男子が、副委員長や副会長は女子の方が向いている

○性別でみると、男女ともに『そう思わない』が8割を超えており、『そう思う』を大きく上回っています。

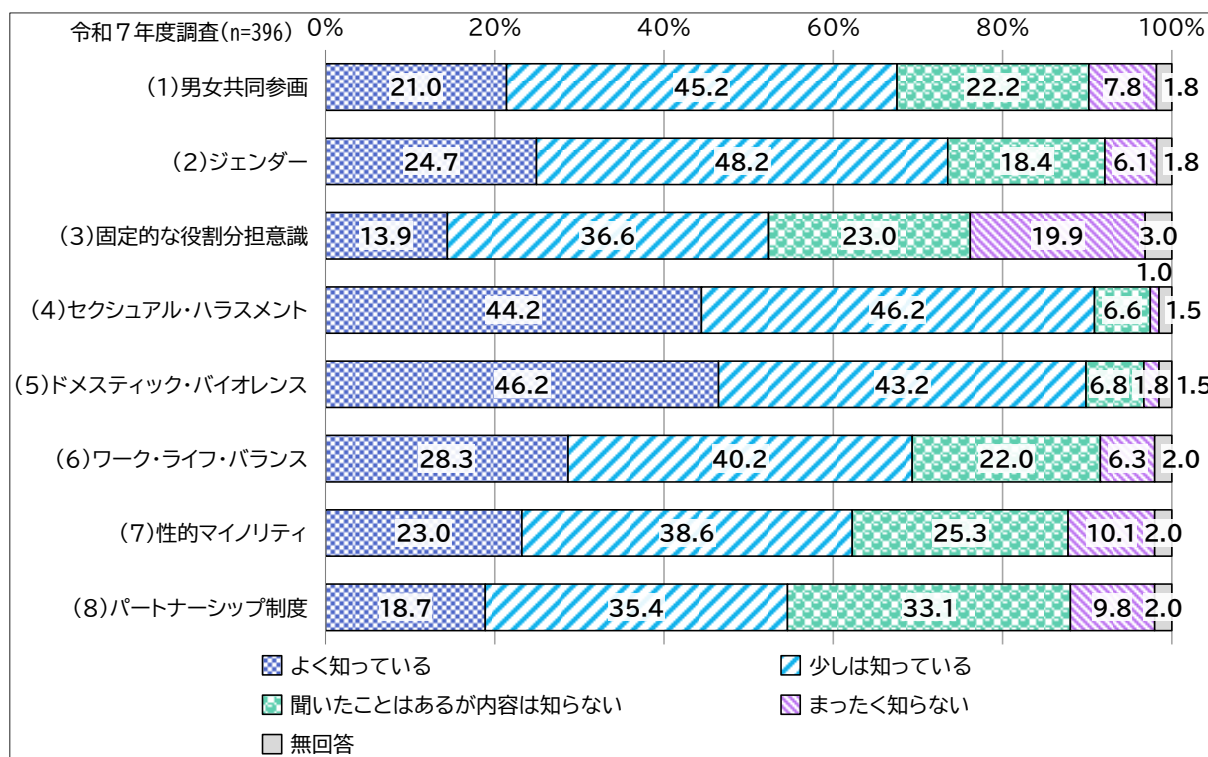
○年代別でみると、どの年代も『そう思わない』が『そう思う』を上回っており、特に30歳代～60歳代では9割を超えています。



3. 男女共同参画に関連する用語の認知度について

問6 あなたは、次の用語について知っていますか。(単数回答)

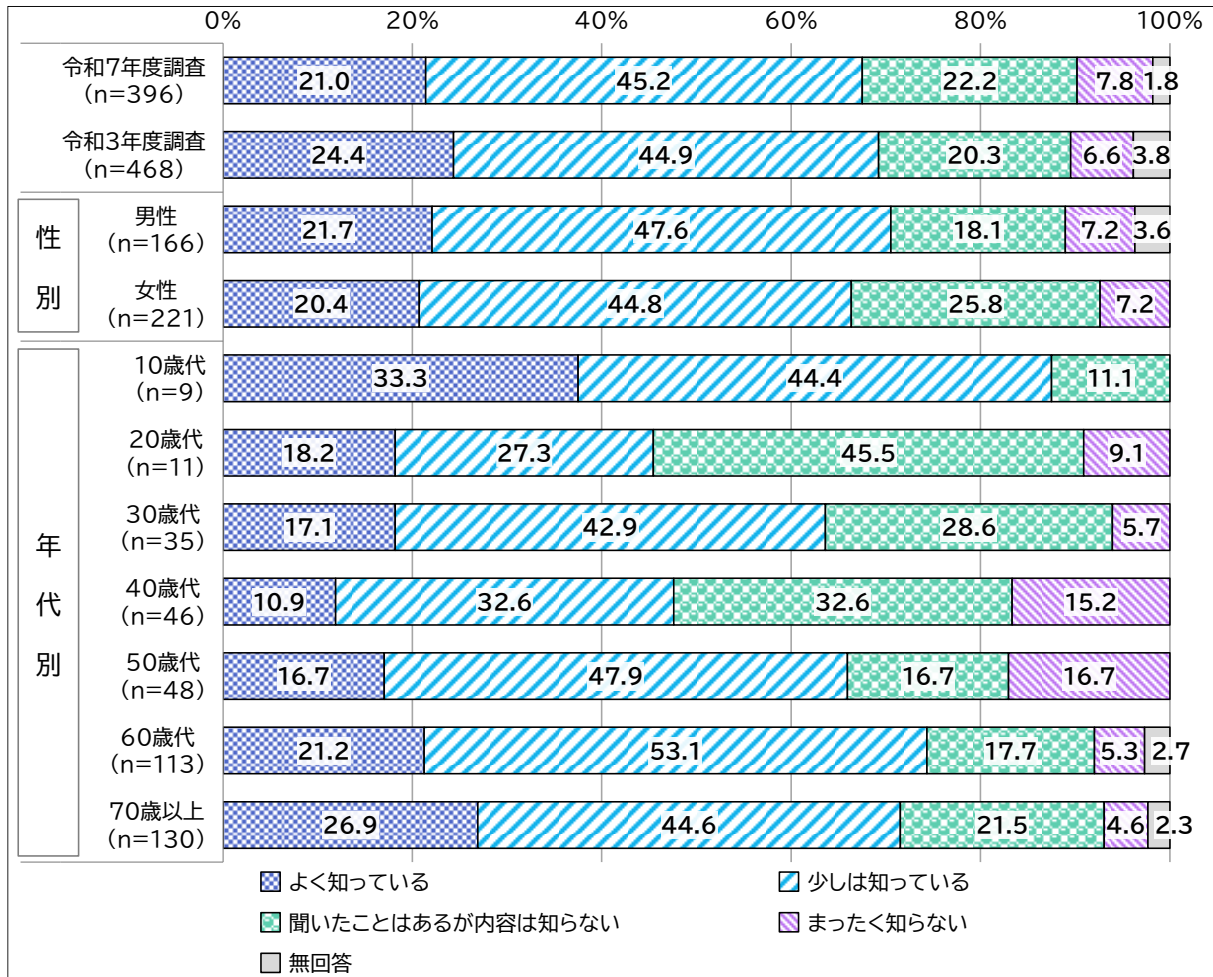
- 男女共同参画に関連する用語の認知度について、『知っている：よく知っている＋少しは知っている』が最も高いのは、「セクシュアル・ハラスメント」90.4%、次いで「ドメスティック・バイオレンス」89.4%、「ジェンダー」72.9%となっています。また、「男女共同参画」「ワーク・ライフ・バランス」「性的マイノリティ」も6割を超えています。
- 「聞いたことはあるが内容は知らない」が最も高いのは、「パートナーシップ制度」33.1%となっており、「男女共同参画」「固定的な役割分担意識」「ワーク・ライフ・バランス」「性的マイノリティ」も2割を超えています。
- 「まったく知らない」が最も高いのは、「固定的な役割分担意識」19.9%となっています。
- 「聞いたことはあるが内容は知らない」「まったく知らない」を合わせた割合が最も高いのは、「固定的な役割分担意識」「パートナーシップ制度」がともに42.9%となっており、「男女共同参画」「性的マイノリティ」も3割を超えています。



(1) 男女共同参画

○性別でみると、男女ともに『知っている』が6割を超えています。

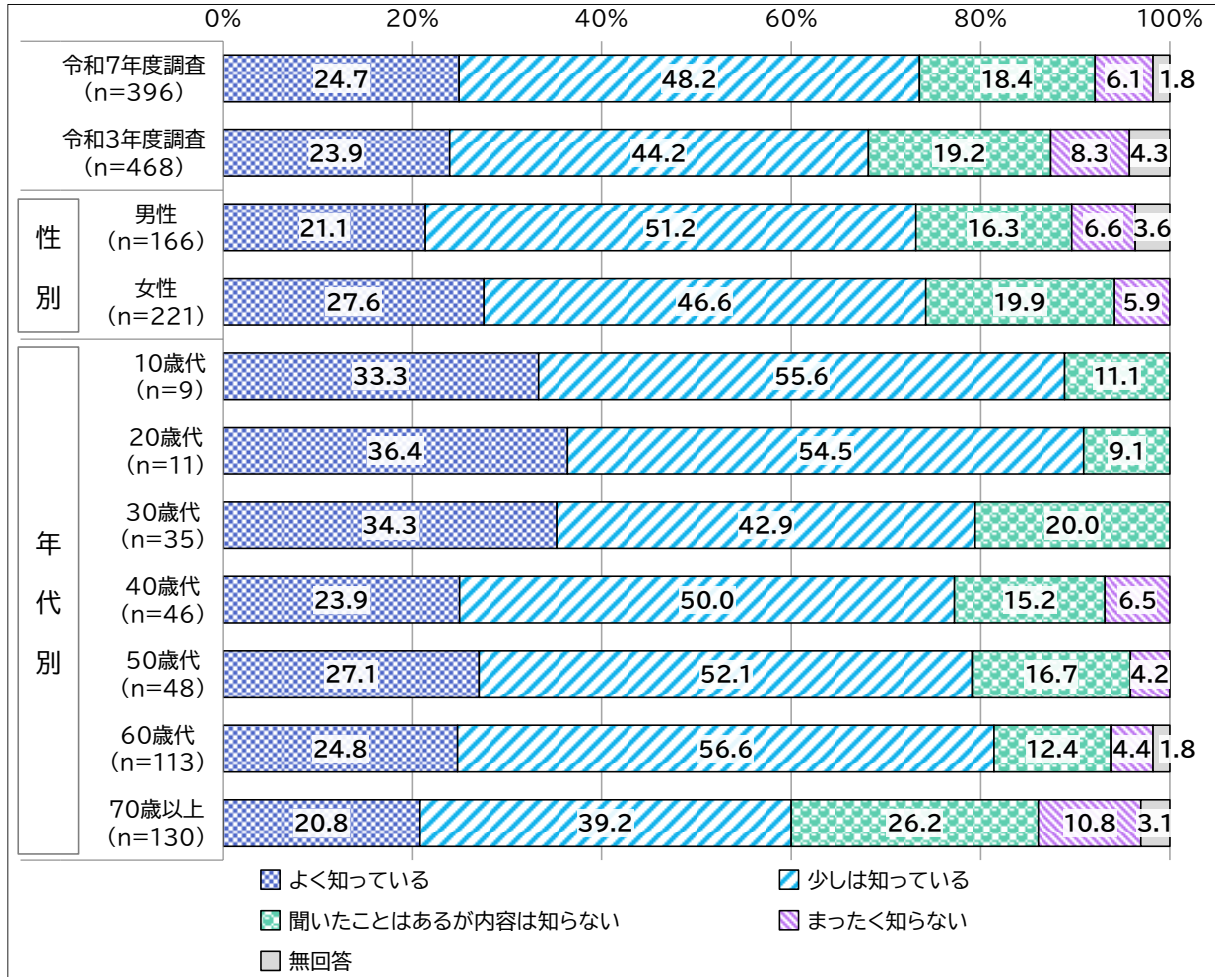
○年代別でみると、20歳代及び40歳代では「聞いたことはあるが内容は知らない」「まったく知らない」を合わせた割合が『知っている』を上回っていますが、それ以外の年代は『知っている』が6割を超えています。



(2) ジェンダー（社会的、文化的につくられた性差）

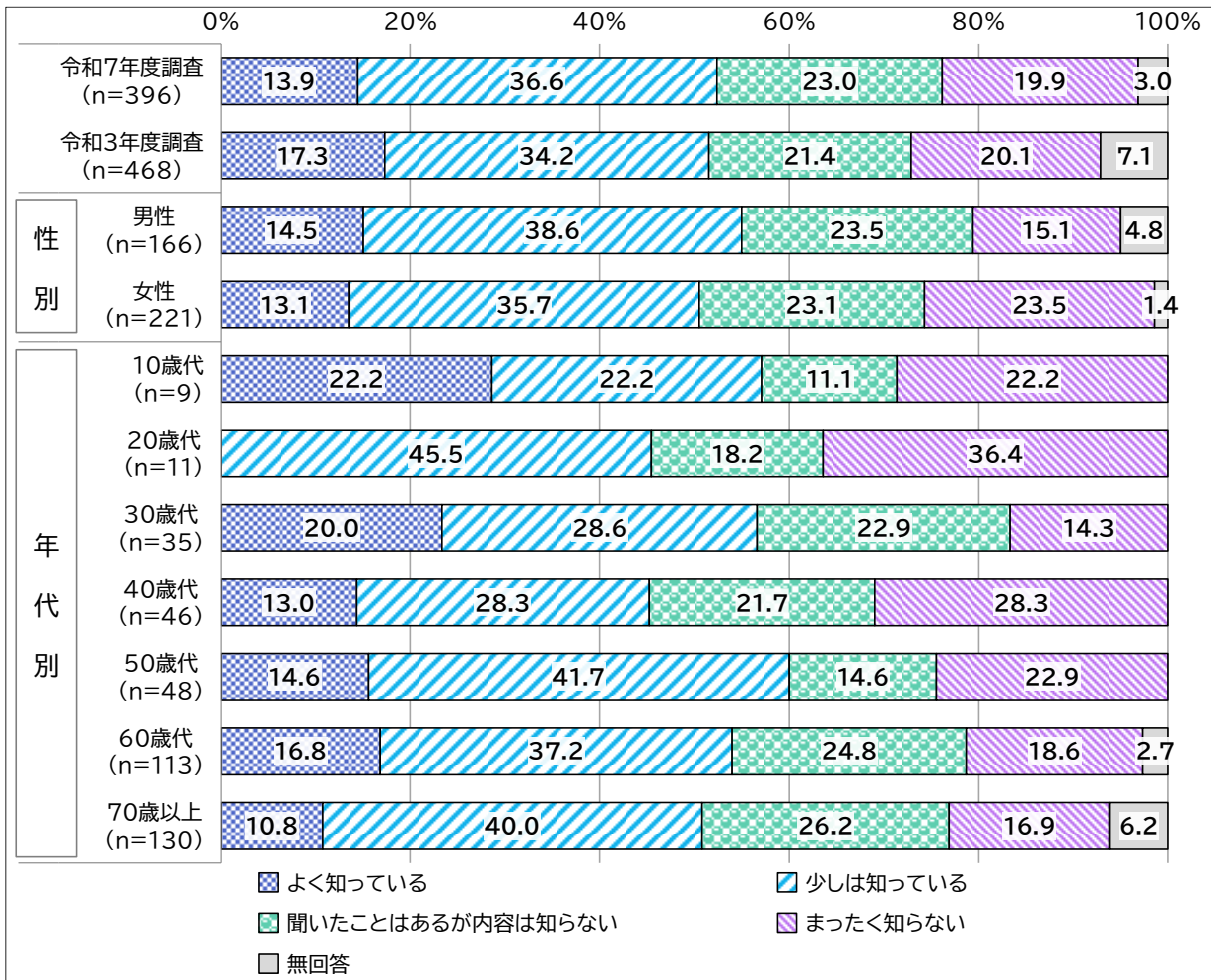
○性別でみると、男女ともに『知っている』が7割を超えています。

○年代別でみると、どの年代も『知っている』が高く、特に20歳代及び60歳代では8割を超えています。一方、70歳以上では「聞いたことはあるが内容は知らない」「まったく知らない」を合わせた割合が3割を超えており、他の年代と比べて高くなっています。



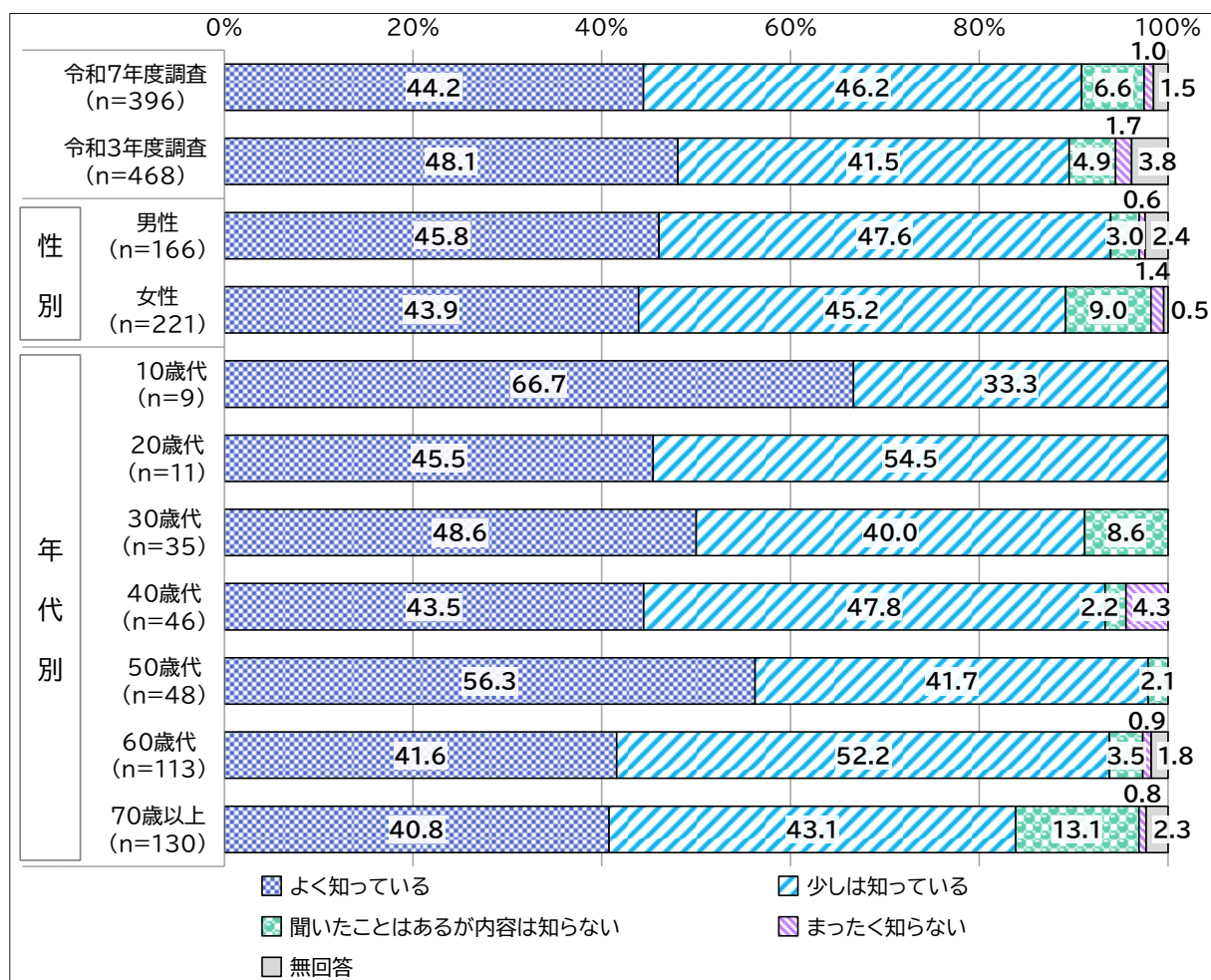
(3) 固定的な役割分担意識

- 性別で見ると、男女ともに『知っている』が5割前後となっていますが、女性は『知っている』と「聞いたことはあるが内容は知らない」「まったく知らない」を合わせた割合が同程度となっています。
- 年代別で見ると、20歳代及び40歳代では「聞いたことはあるが内容は知らない」「まったく知らない」を合わせた割合が5割を超えており、『知っている』を上回っていますが、それ以外の年代は『知っている』が高くなっています。



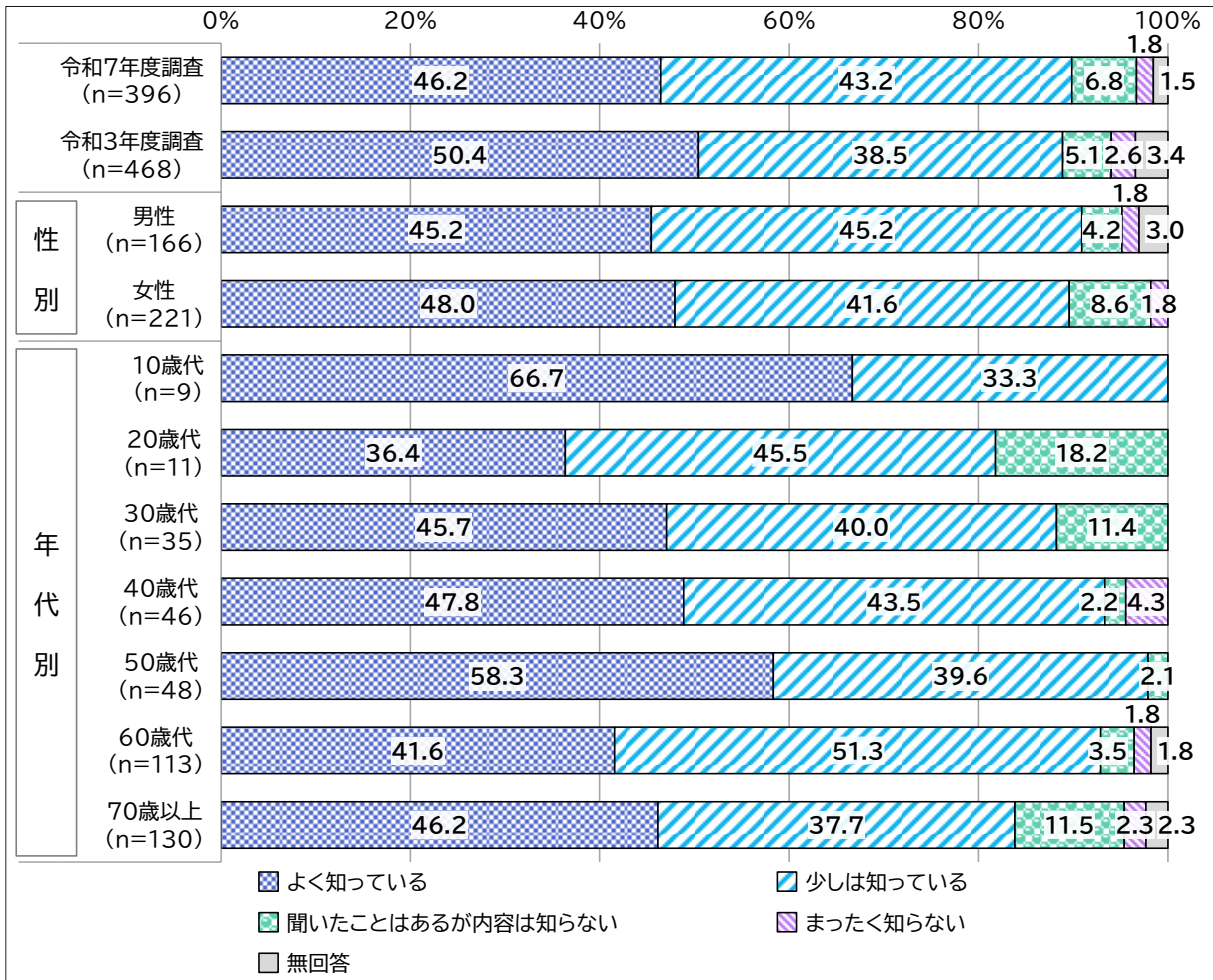
(4) セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）

○性別及び年代別で見ると、いずれも8割以上が『知っている』と回答しています。



(5) ドメスティック・バイオレンス（DV：夫婦、恋人間の暴力）

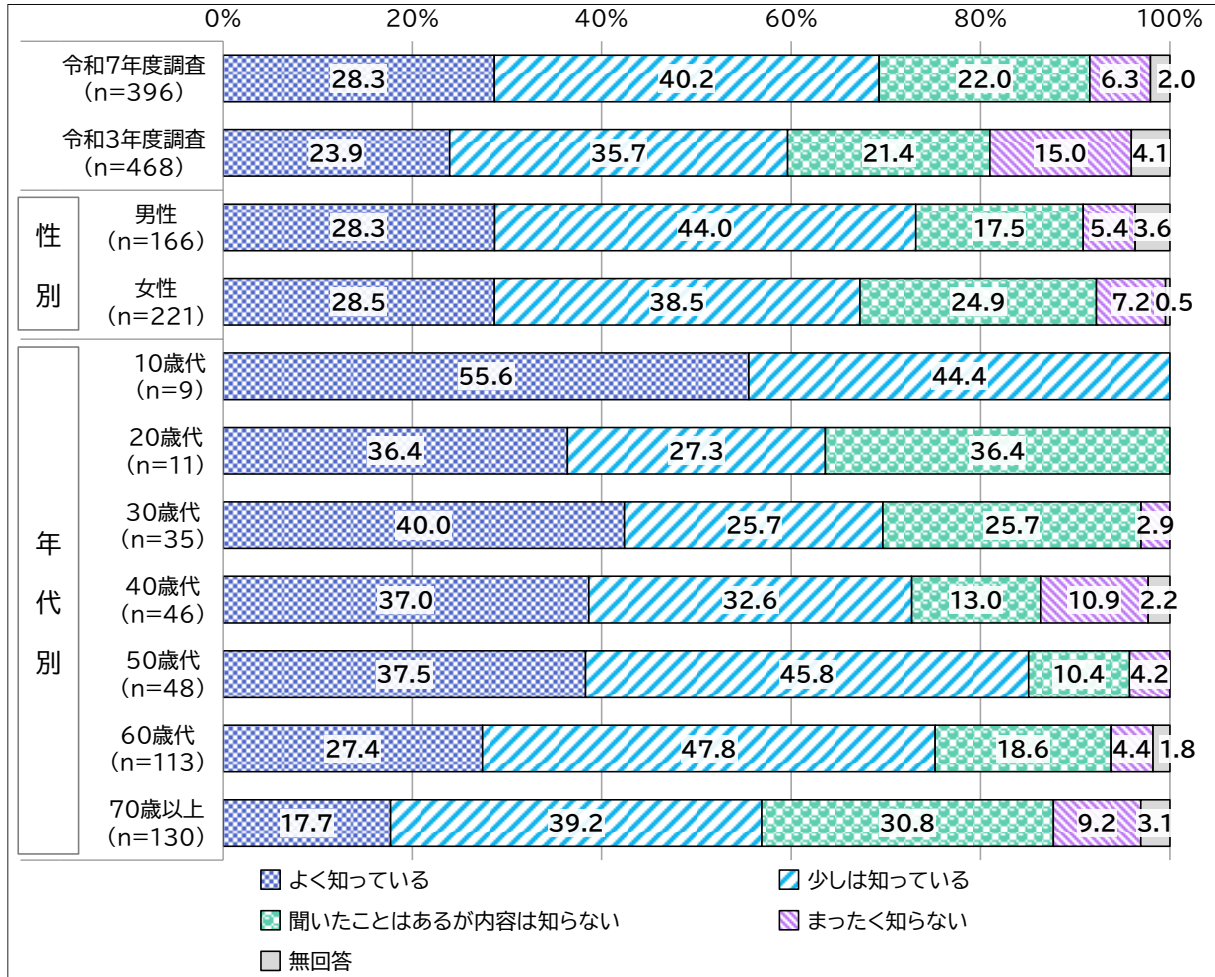
○性別及び年代別で見ると、いずれも8割以上が『知っている』と回答しています。



(6) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

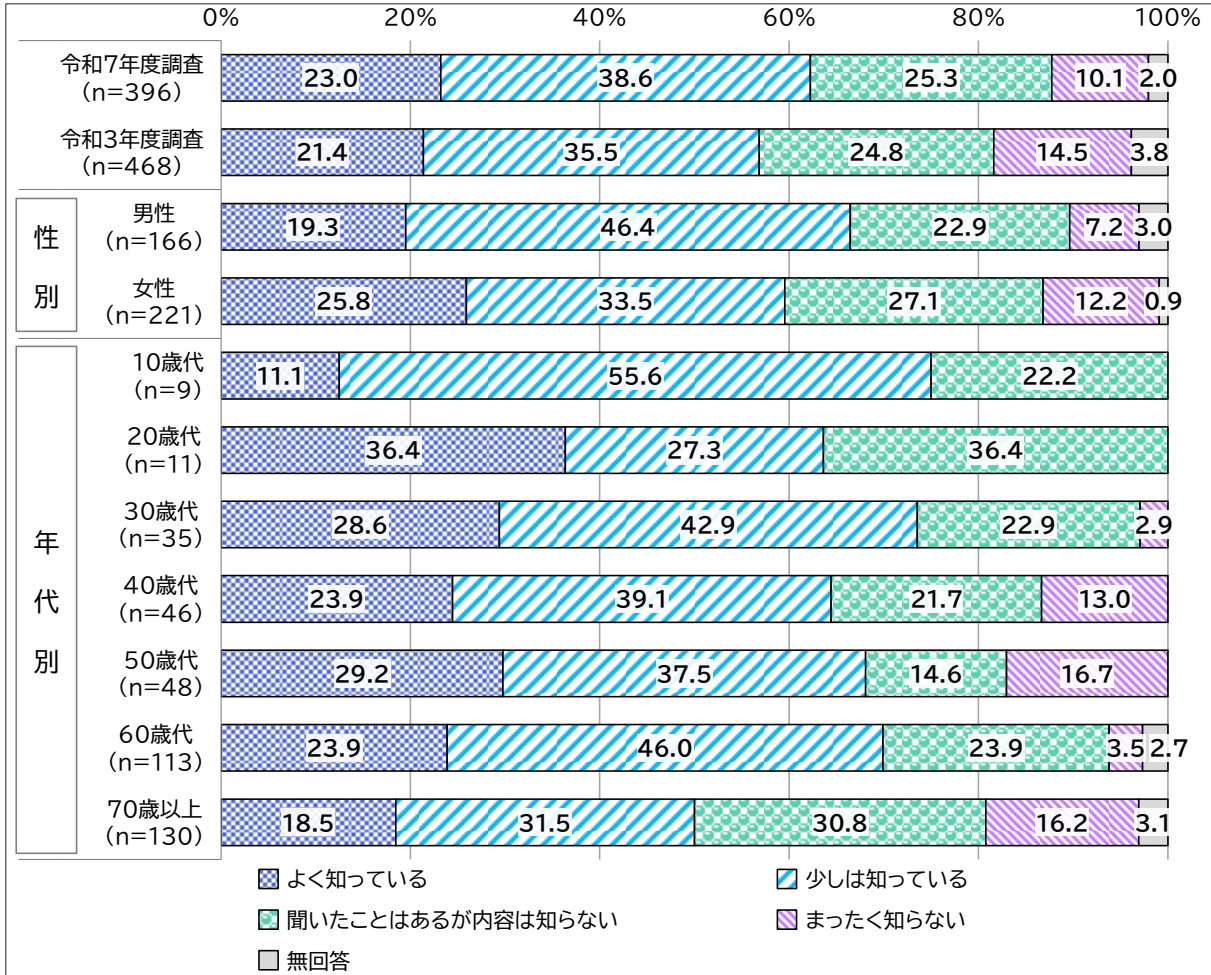
○性別で見ると、男女ともに『知っている』が6割を超えています。

○年代別で見ると、どの年代も『知っている』が高く、特に 50 歳代では8割を超えています。一方、20 歳代及び 70 歳以上では「聞いたことはあるが内容は知らない」「まったく知らない」を合わせた割合が3割を超えています。



(7) 性的マイノリティ

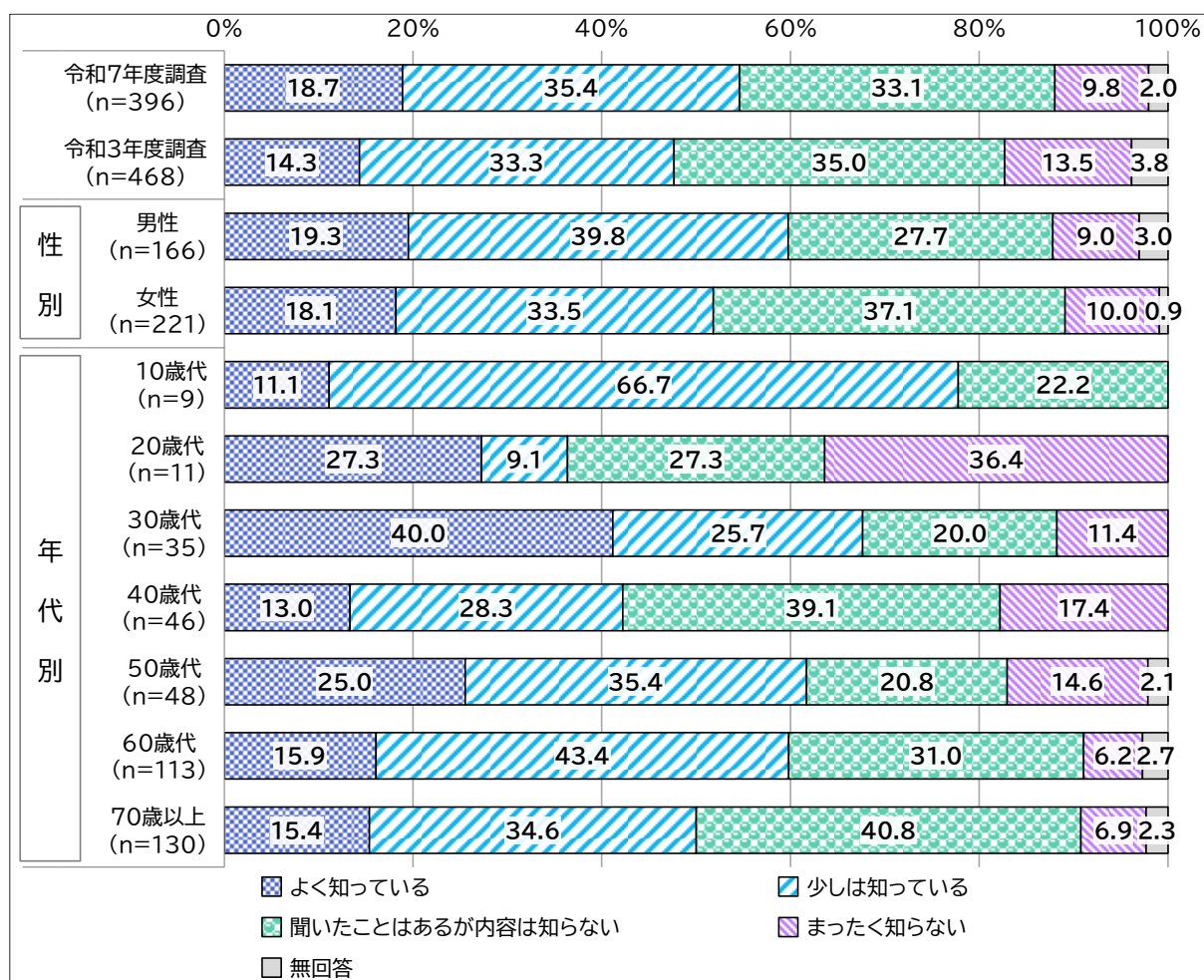
- 性別でみると、男女ともに6割前後が『知っている』と回答していますが、「聞いたことはあるが内容は知らない」「まったく知らない」を合わせた割合も3割台となっています。
- 年代別でみると、どの年代も『知っている』が高く、特に30歳代では7割を超えています。一方、70歳以上では「聞いたことはあるが内容は知らない」「まったく知らない」を合わせた割合が4割を超えています。



(8) パートナーシップ制度

○性別で見ると、男女ともに『知っている』が5割を超えていますが、女性は男性と比べて「聞いたことはあるが内容は知らない」「まったく知らない」を合わせた割合が10.4ポイント高くなっています。

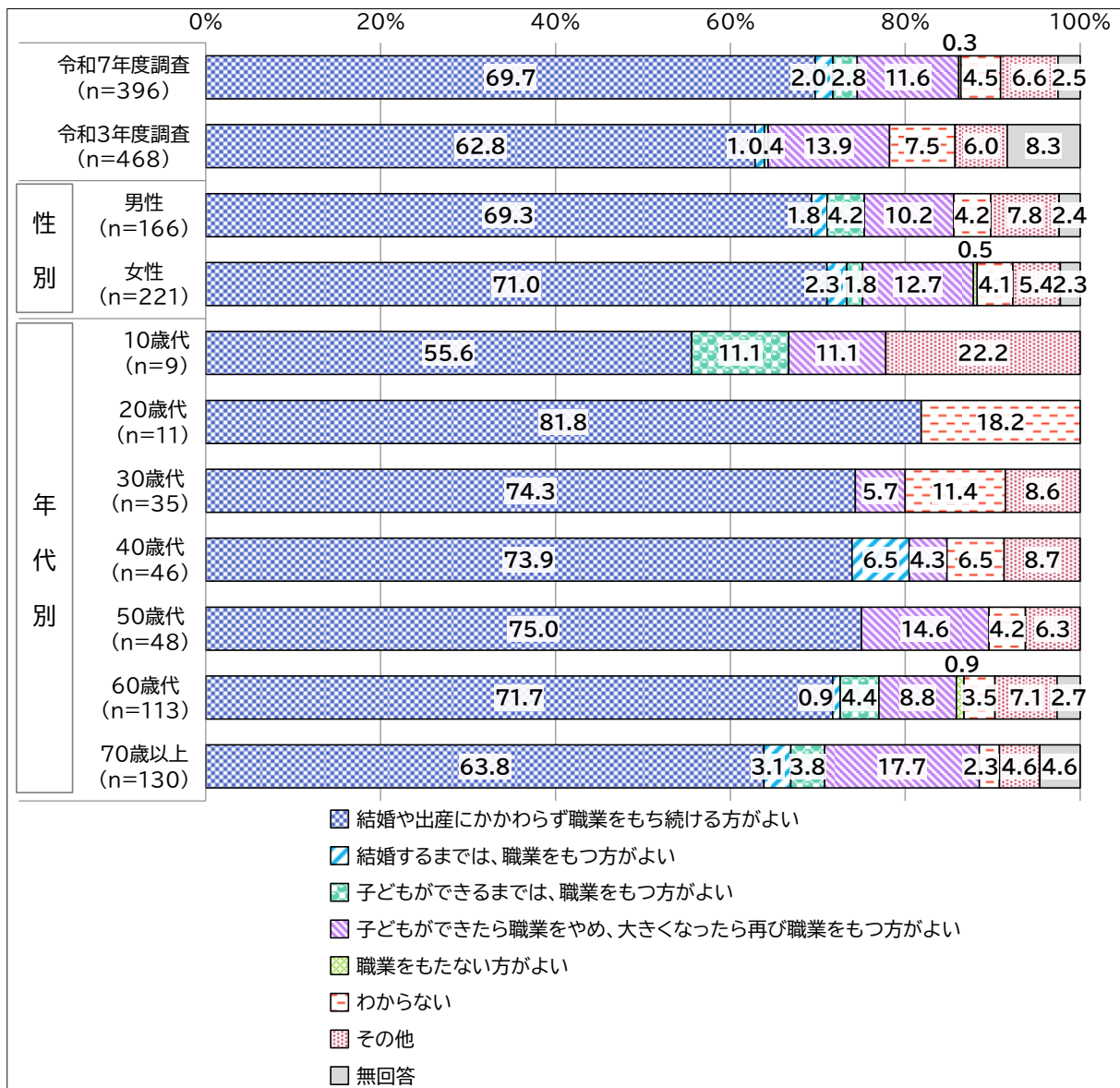
○年代別で見ると、20歳代及び40歳代では「聞いたことはあるが内容は知らない」「まったく知らない」を合わせた割合が5割を超えており、『知っている』を上回っていますが、それ以外の年代は『知っている』が高くなっています。



4. 職業について

問7 女性が働くことについてどのように思いますか。(単数回答)

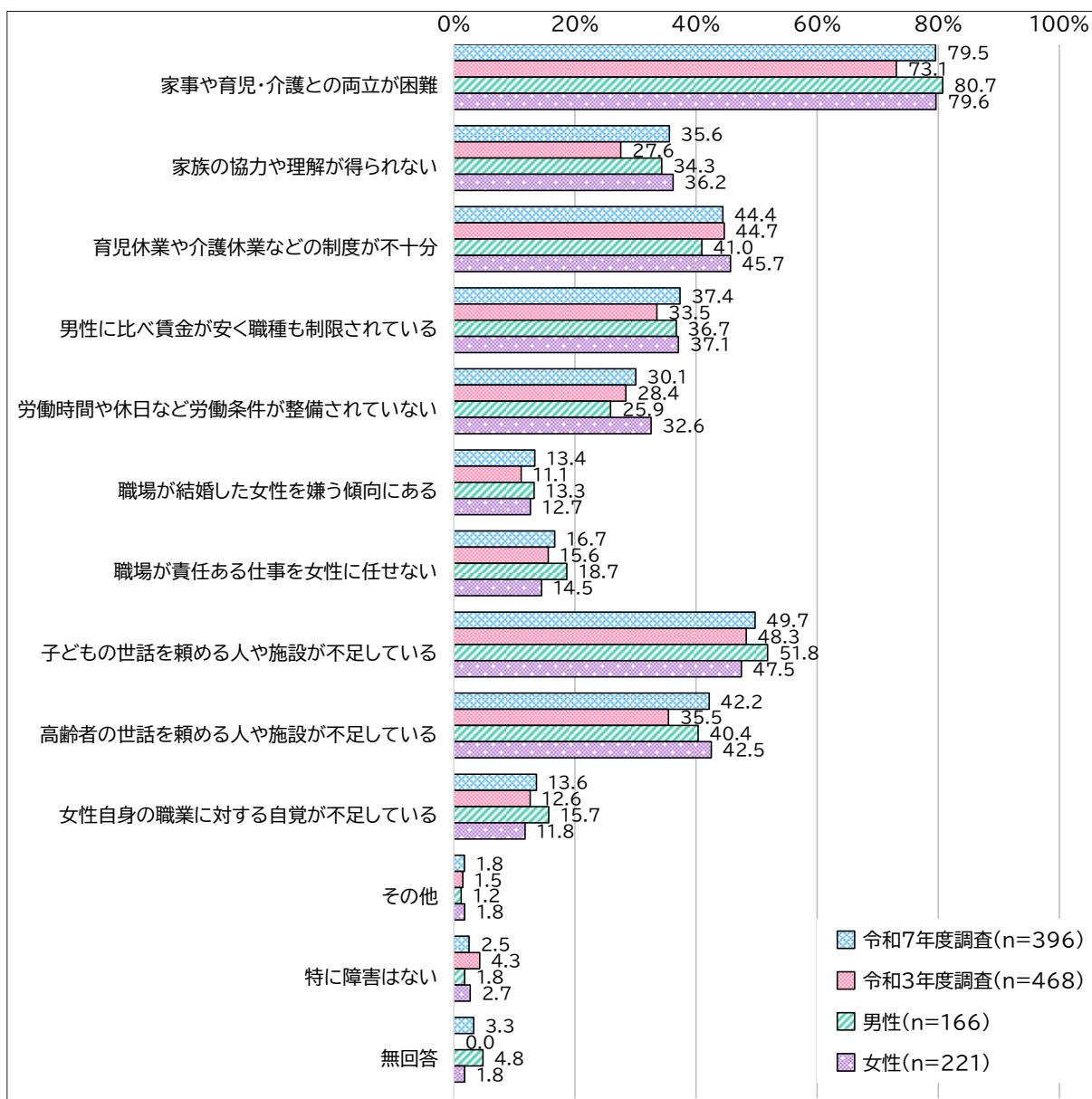
- 女性が職業を持つことにおける考え方については、「結婚や出産にかかわらず職業をもち続ける方がよい」が69.7%と最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」11.6%、「その他」6.6%となっています。
- 性別でも、男女ともに7割前後が「結婚や出産にかかわらず職業をもち続ける方がよい」と回答しています。
- 年代別でみると、どの年代も「結婚や出産にかかわらず職業をもち続ける方がよい」が最も高く、特に20歳代～60歳代では7割を超えています。



問8 女性が働き続ける上で、障害となっていることはどのようなことだと思いますか。(複数回答)

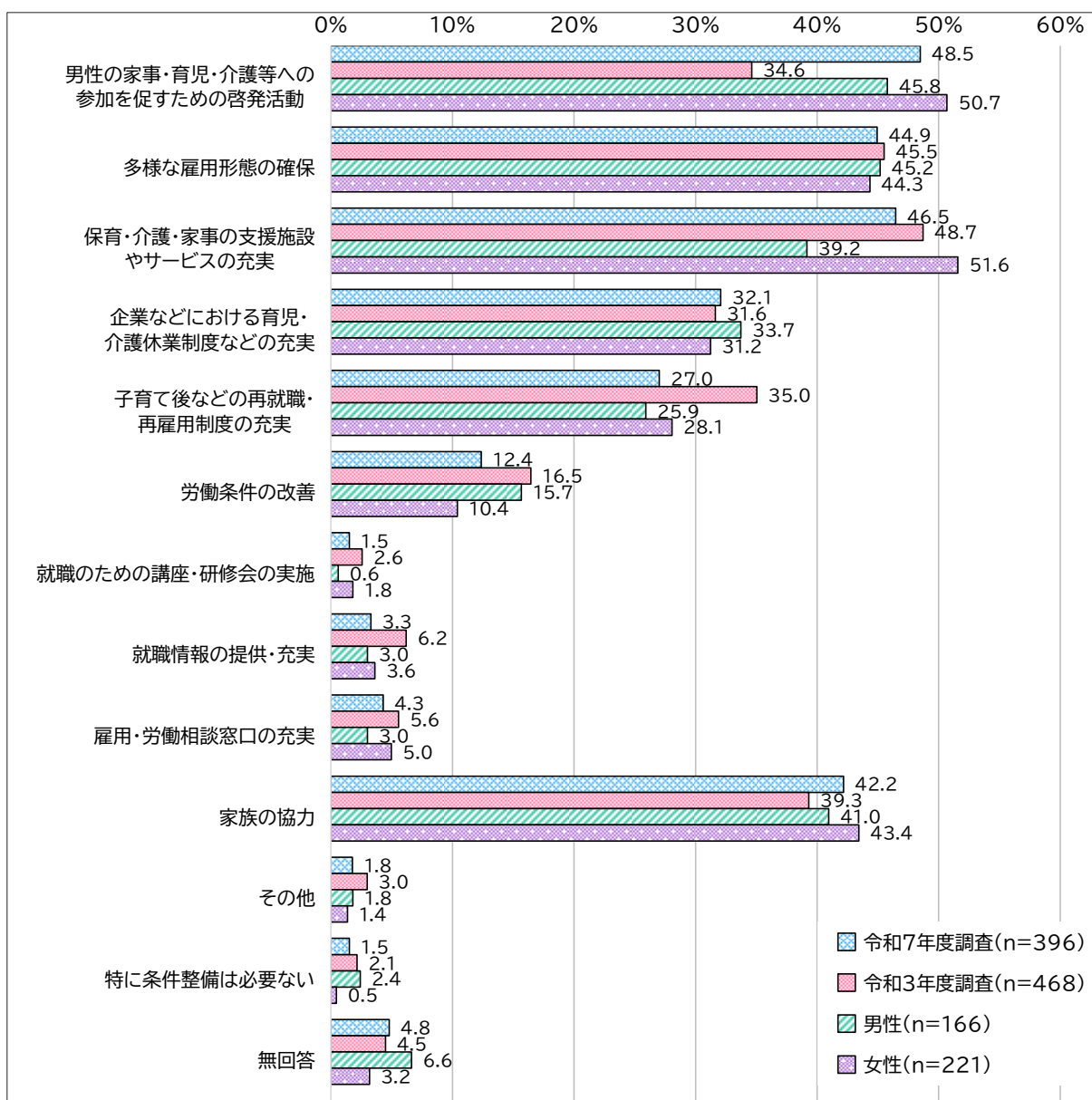
○女性の就業継続を妨げる要因については、「家事や育児・介護との両立が困難」が79.5%と最も高く、次いで「子どもの世話を頼める人や施設が不足している」49.7%、「育児休業や介護休業などの制度が不十分」44.4%となっており、「高齢者の世話を頼める人や施設が不足している」も4割を超えています。

○性別でも、男女ともに8割前後が「家事や育児・介護との両立が困難」と回答しています。



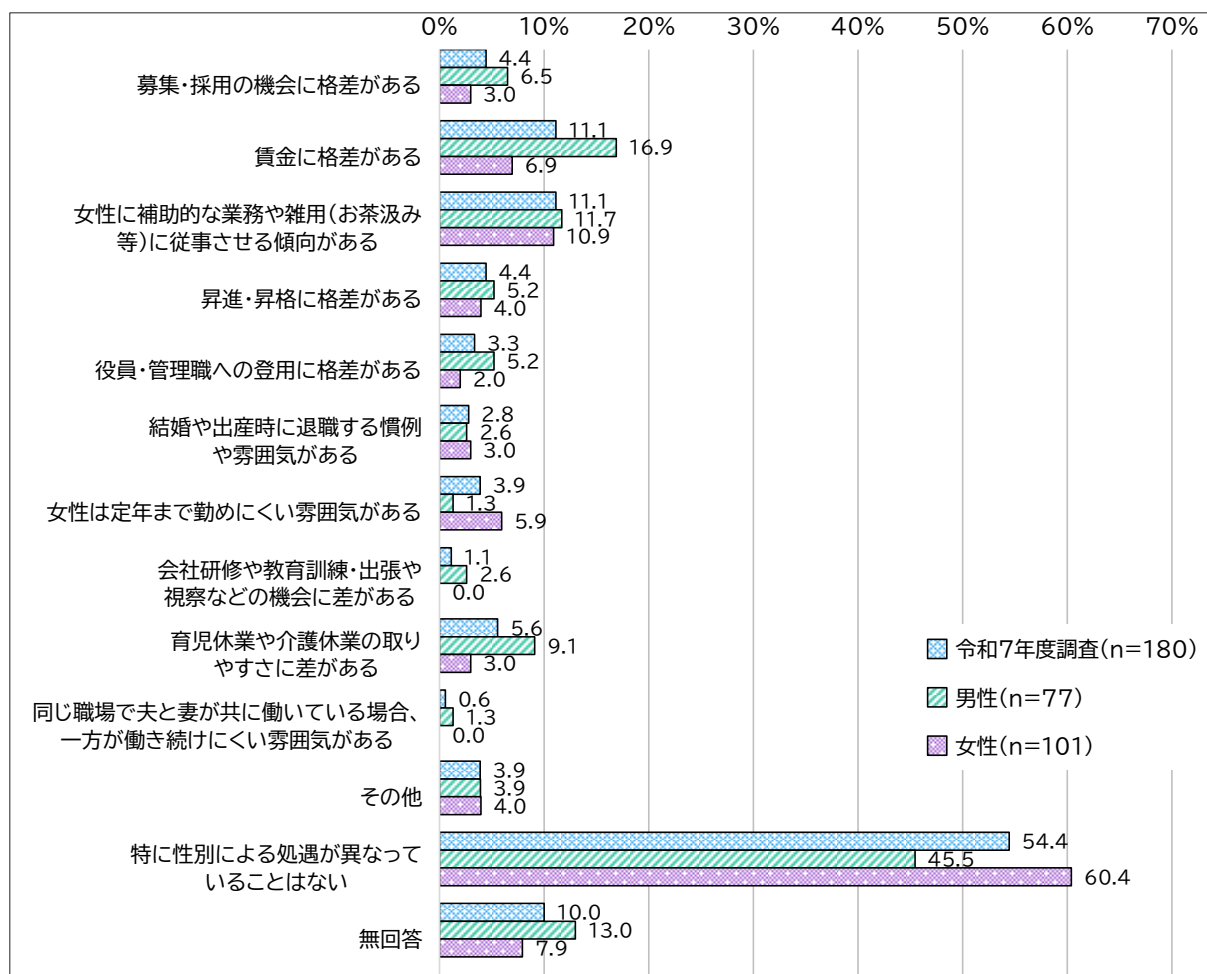
**問9 あなたは女性が働き続けるために、どのような条件整備が必要だと思いますか。
(複数回答)**

- 女性の就業継続のために必要な条件については、「男性の家事・育児・介護等への参加を促すための啓発活動」が48.5%と最も高く、次いで「保育・介護・家事の支援施設やサービスの充実」46.5%、「多様な雇用形態の確保」44.9%となっており、「家族の協力」も4割を超えています。
- 前回調査との比較では、「男性の家事・育児・介護等への参加を促すための啓発活動」が13.9ポイント高くなっています。
- 性別でみると、男性は「男性の家事・育児・介護等への参加を促すための啓発活動」、女性は「保育・介護・家事の支援施設やサービスの充実」が最も高くなっています。また、女性は男性と比べて「保育・介護・家事の支援施設やサービスの充実」が12.4ポイント高くなっています。



問10 あなたの職場では、性別によって処遇が異なりますか。（複数回答）

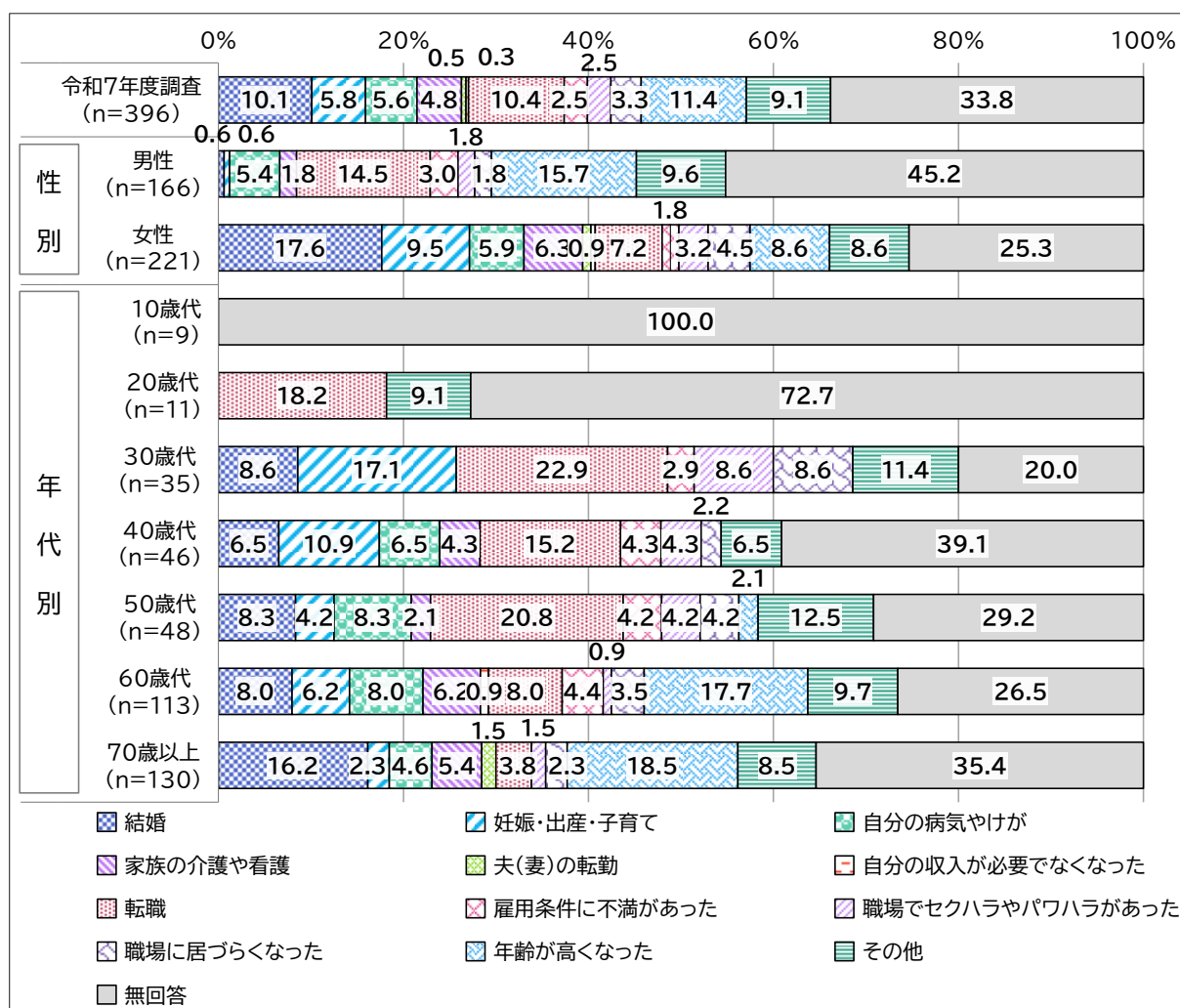
- 職場での性別による処遇の差の存在については、「特に性別による処遇が異なっていることはない」が54.4%と最も高く、次いで「賃金に格差がある」「女性に補助的な業務や雑用（お茶汲み等）に従事させる傾向がある」11.1%、「育児休業や介護休業の取りやすさに差がある」5.6%となっています。
- 性別でみると、男女ともに「特に性別による処遇が異なっていることはない」が最も高く、女性は男性と比べて14.9ポイント高くなっています。



【一度でも退職したことがある方のみ】

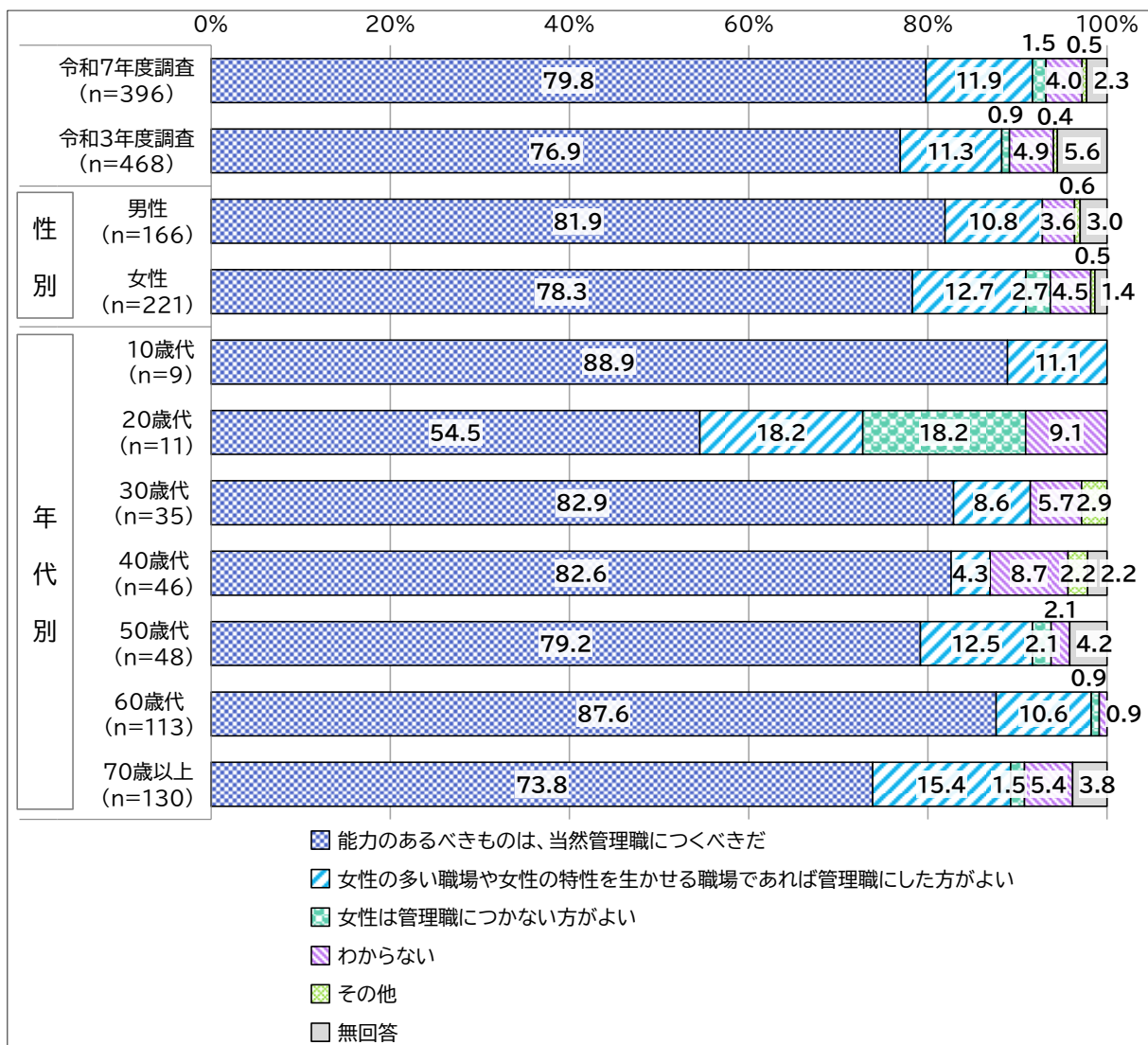
問11 あなたがその仕事をやめた主な理由は何ですか。何度か退職した場合は、最も新しいことについてお答えください。(単数回答)

- 仕事をやめた理由については、「年齢が高くなった」が11.4%と最も高く、次いで「転職」10.4%、「結婚」10.1%となっています。
- 性別で見ると、男性は「年齢が高くなった」、女性は「結婚」が最も高くなっています。また、女性は男性と比べて「結婚」が17.0ポイント高くなっています。
- 年代別で見ると、50歳代までは「転職」、60歳代以上では「年齢が高くなった」が最も高くなっています。



問12 あなたは女性が管理職につくことについてどう思いますか。(単数回答)

- 女性の管理職登用については、「能力のあるべきものは、当然管理職につくべきだ」が79.8%と最も高く、次いで「女性の多い職場や女性の特性を生かせる職場であれば管理職にした方がよい」11.9%、「わからない」4.0%となっています。
- 性別でみると、男女ともに8割前後が「能力のあるべきものは、当然管理職につくべきだ」と回答しています。
- 年代別でみると、どの年代も「能力のあるべきものは、当然管理職につくべきだ」が最も高く、ほとんどの年代の7割以上がそう回答していますが、20歳代ではその割合が5割台と低くなっており、反対に「女性は管理職につかない方がよい」が他の年代に比べて高くなっています。

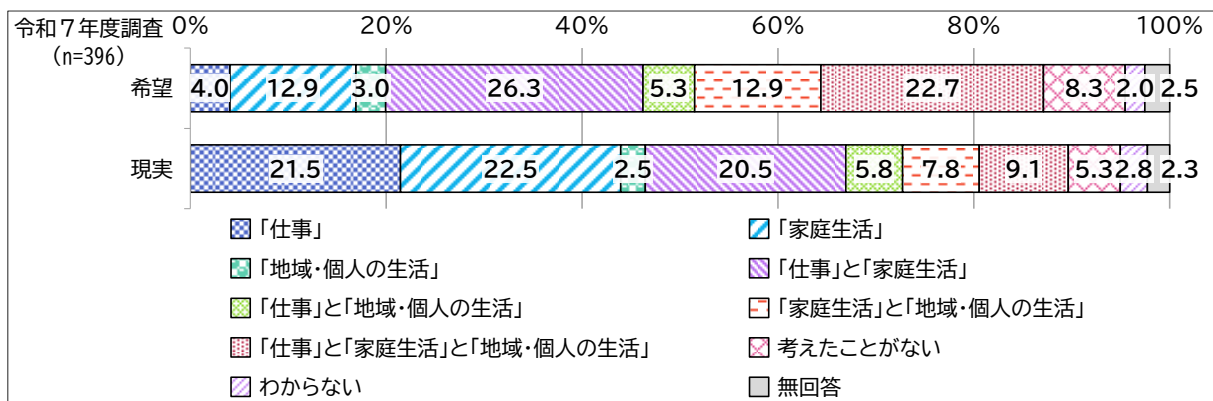


5. 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について

問13 「仕事」、「家庭生活」(家事・育児・介護等)、「地域・個人の生活」(地域活動・趣味・付き合い等)について、優先したいものはどれですか。

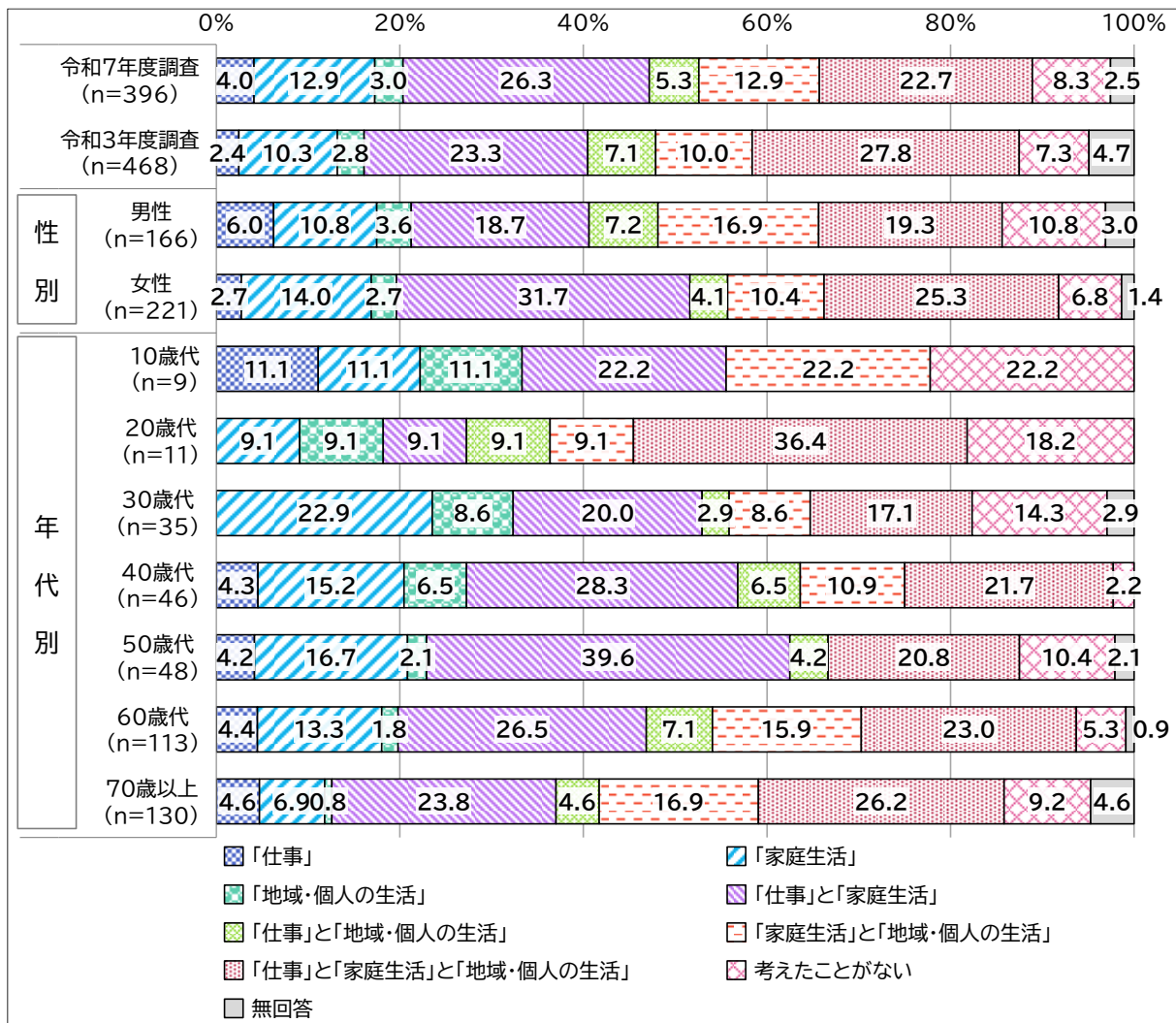
問14 問13では希望をお聞きしましたが、あなたの生活の中で「仕事」、「家庭生活」(家事・育児・介護等)、「地域・個人の生活」(地域活動・趣味・付き合い等)について、現実に優先しているものはどれですか。(単数回答)

- 生活の中での優先度について尋ねたところ、希望では『「仕事」と「家庭生活」』が26.3%と最も高く、次いで『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」』22.7%、「家庭生活」『「家庭生活」と「地域・個人の生活」』12.9%となっています。
- 現実では、「家庭生活」が22.5%と最も高く、次いで「仕事」21.5%、『「仕事」と「家庭生活」』20.5%となっています。
- 希望と現実との比較をみると、希望では現実と比べて『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」』が、現実では希望と比べて「仕事」が10ポイント以上高くなっています。



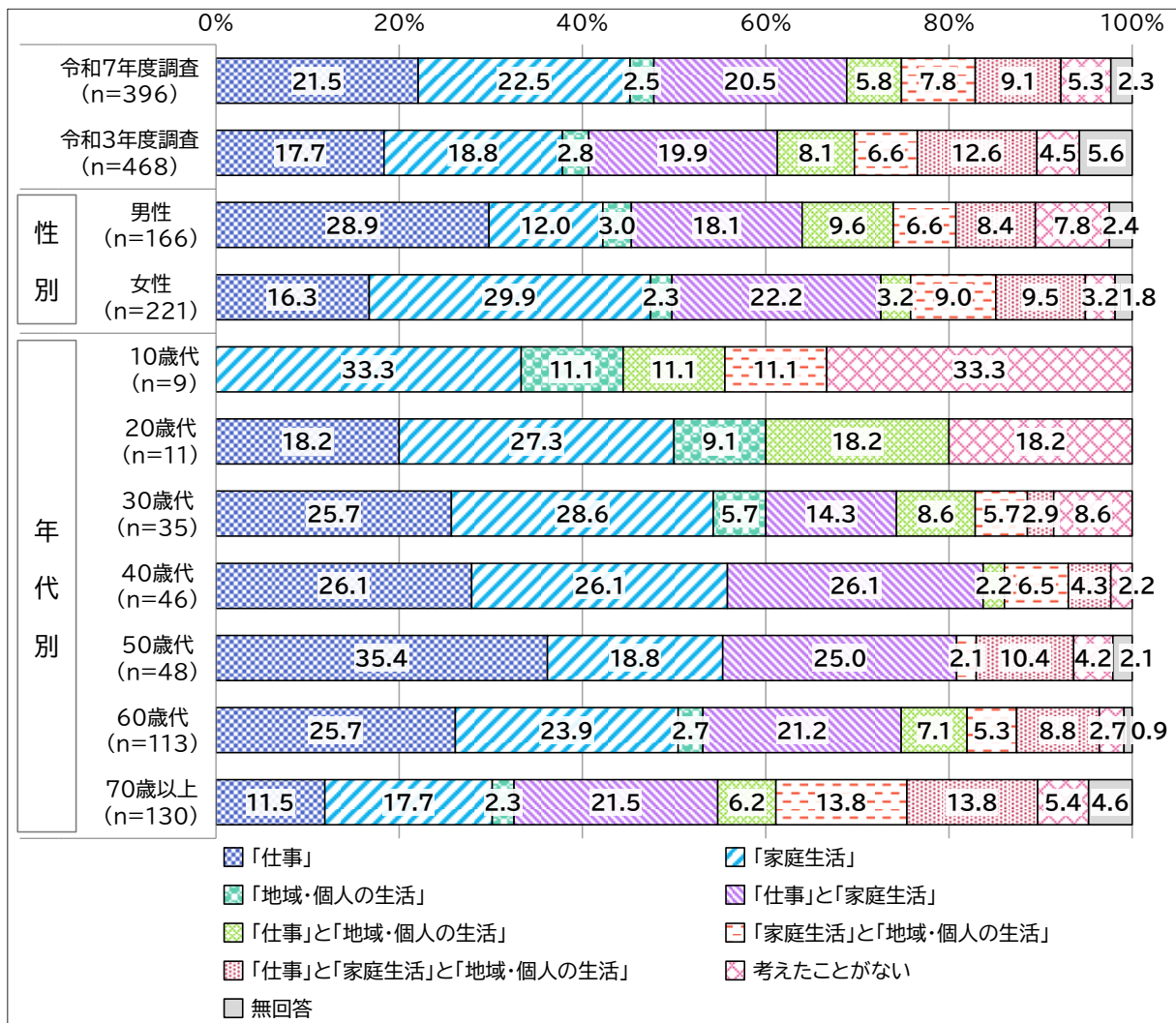
◆優先したいもの（希望）

- 優先したいもの（希望）では、『「仕事」と「家庭生活」』が26.3%と最も高く、次いで『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」』22.7%、「家庭生活」と『「家庭生活」と「地域・個人の生活」』がともに12.9%となっています。
- 性別でみると、男性は『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」』、女性は『「仕事」と「家庭生活」』が最も高くなっています。また、女性は男性と比べて『「仕事」と「家庭生活」』が13.0ポイント高くなっています。
- 年代別でみると、20歳代及び70歳以上では『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」』、30歳代では「家庭生活」、それ以外の年代は『「仕事」と「家庭生活」』が最も高くなっています。



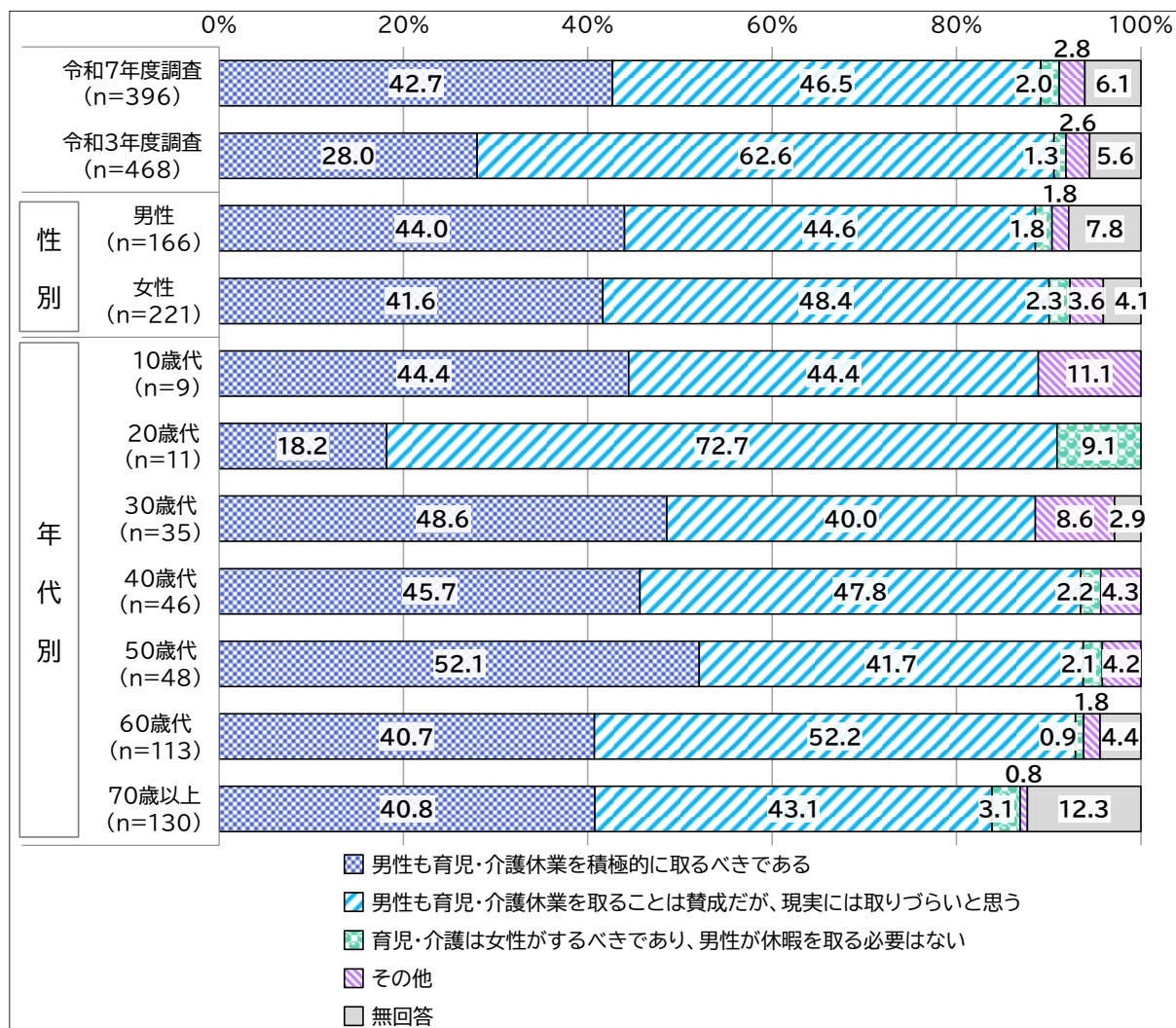
◆優先しているもの（現実）

- 優先しているもの（現実）では、「家庭生活」が22.5%と最も高く、次いで「仕事」21.5%、『「仕事」と「家庭生活」』20.5%となっています。
- 性別でみると、男性は「仕事」、女性は「家庭生活」が最も高くなっています。また、男性は女性と比べて「仕事」が高く、「家庭生活」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 年代別でみると、20歳代～30歳代では「家庭生活」、40歳代では「仕事」「家庭生活」、『「仕事」と「家庭生活」』、50歳代～60歳代では「仕事」、70歳以上では『「仕事」と「家庭生活」』が最も高くなっています。



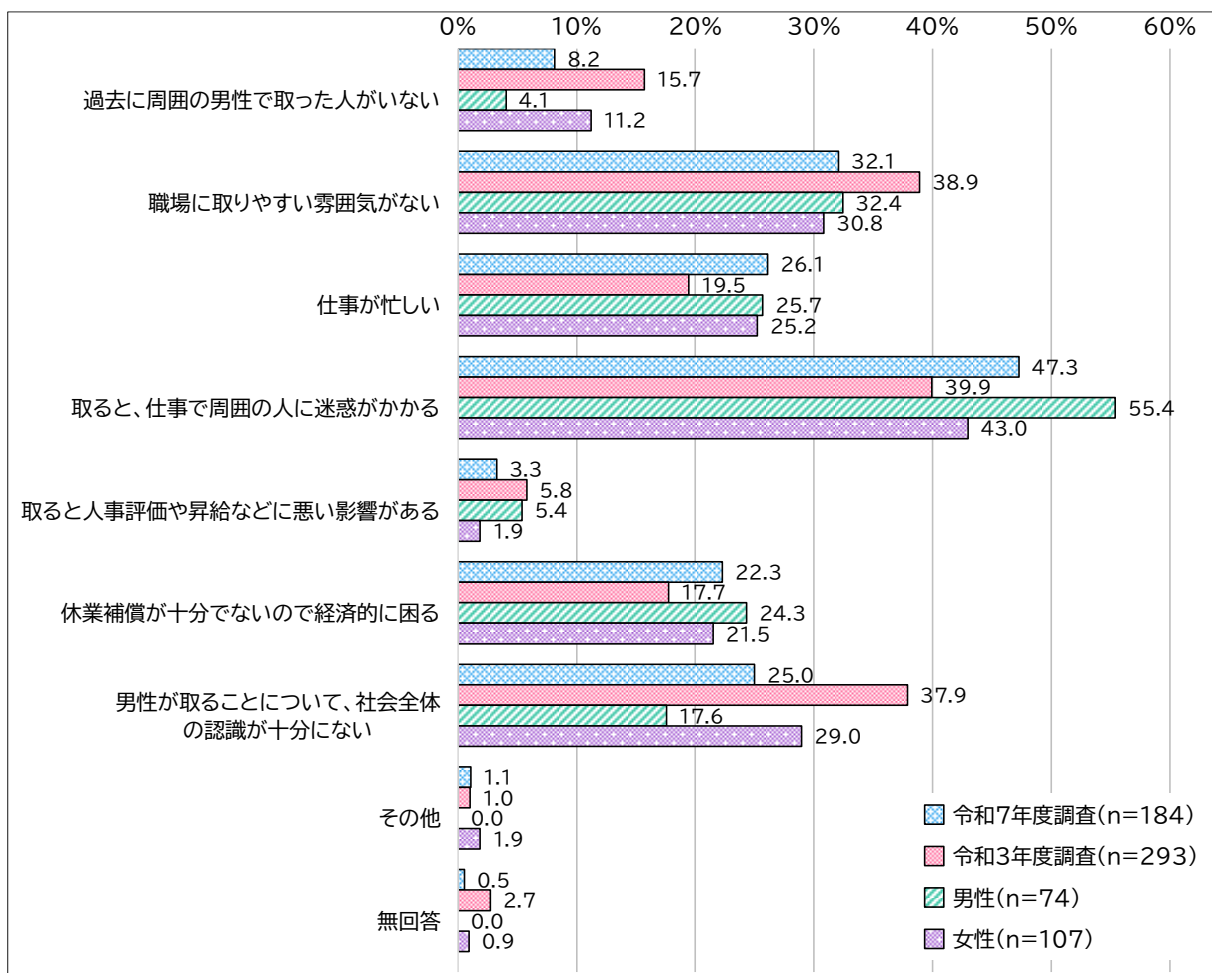
問15 男性も育児・介護休業を取ることができますが、このことについてあなたはどのように思いますか。(単数回答)

- 男性の育児・介護休業取得については、「男性も育児・介護休業を取るとは賛成だが、現実には取りづらいと思う」が46.5%と最も高く、次いで「男性も育児・介護休業を積極的に取るべきである」42.7%、「その他」2.8%となっています。
- 前回調査との比較をみると、「男性も育児・介護休業を積極的に取るべきである」が高く、「男性も育児・介護休業を取るとは賛成だが、現実には取りづらいと思う」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 性別でみると、男女ともに「男性も育児・介護休業を積極的に取るべきである」「男性も育児・介護休業を取るとは賛成だが、現実には取りづらいと思う」がともに4割を超えています。
- 年代別でみると、30歳代以上では「男性も育児・介護休業を積極的に取るべきである」「男性も育児・介護休業を取るとは賛成だが、現実には取りづらいと思う」がともに4割を超えていますが、20歳代では「男性も育児・介護休業を取るとは賛成だが、現実には取りづらいと思う」が最も高く、7割を超えています。



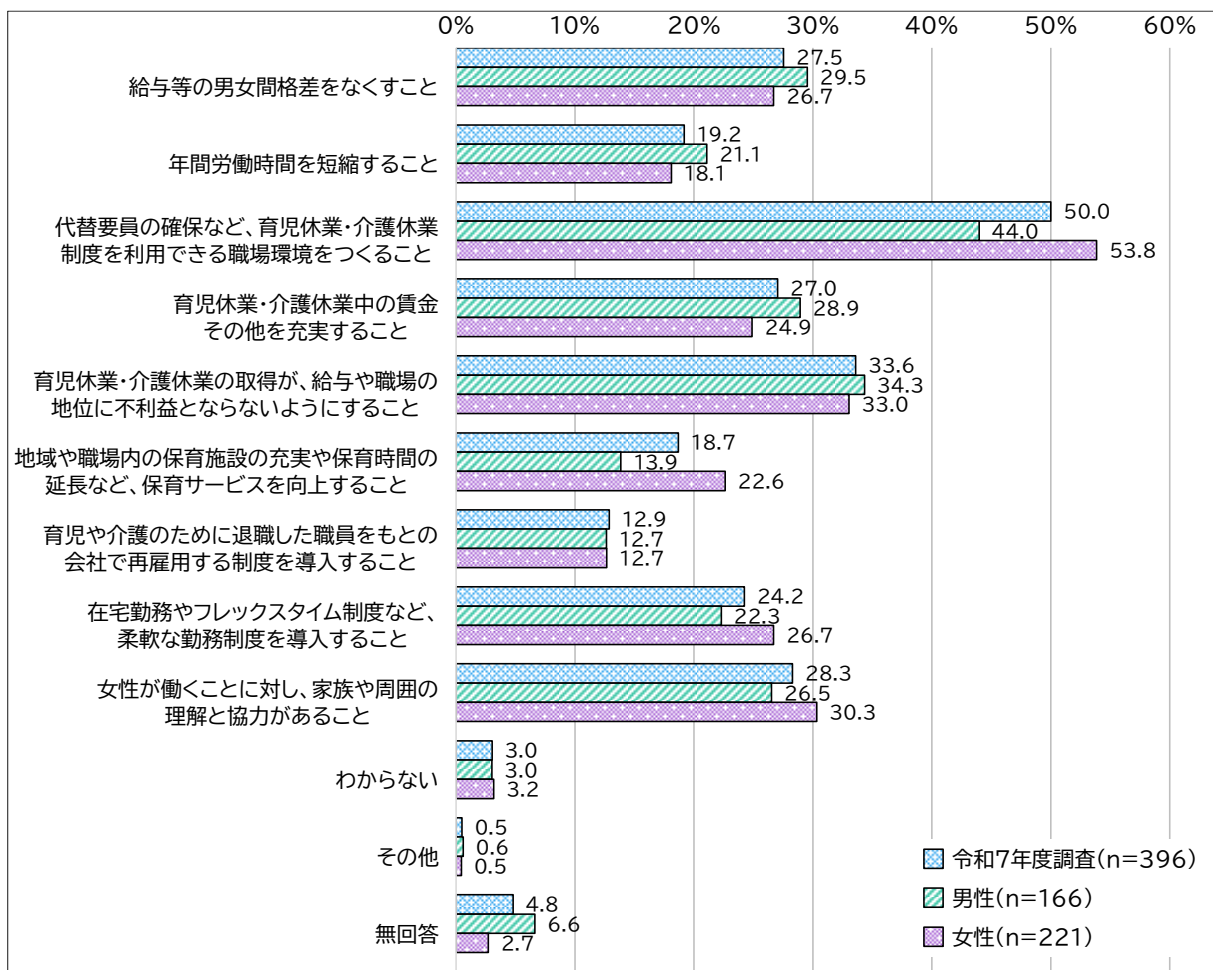
問16 現実に取りづらい理由は何だと思いますか。(複数回答)

- 男性の育児休業や介護休業取得を妨げる要因については、「取ると、仕事で周囲の人に迷惑がかかる」が47.3%と最も高く、次いで「職場に取りやすい雰囲気がない」32.1%、「仕事が忙しい」26.1%となっています。
- 前回調査との比較をみると、「男性が取ることについて、社会全体の認識が十分でない」が12.9ポイント低くなっています。
- 性別でみると、男女ともに「取ると、仕事で周囲の人に迷惑がかかる」が最も高くなっています。また、男性は女性と比べて「取ると、仕事で周囲の人に迷惑がかかる」が高く、「男性が取ることについて、社会全体の認識が十分でない」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。



問17 男女が共に仕事と家庭の両立をしていくためには、どのような条件が必要だと思いますか。(複数回答)

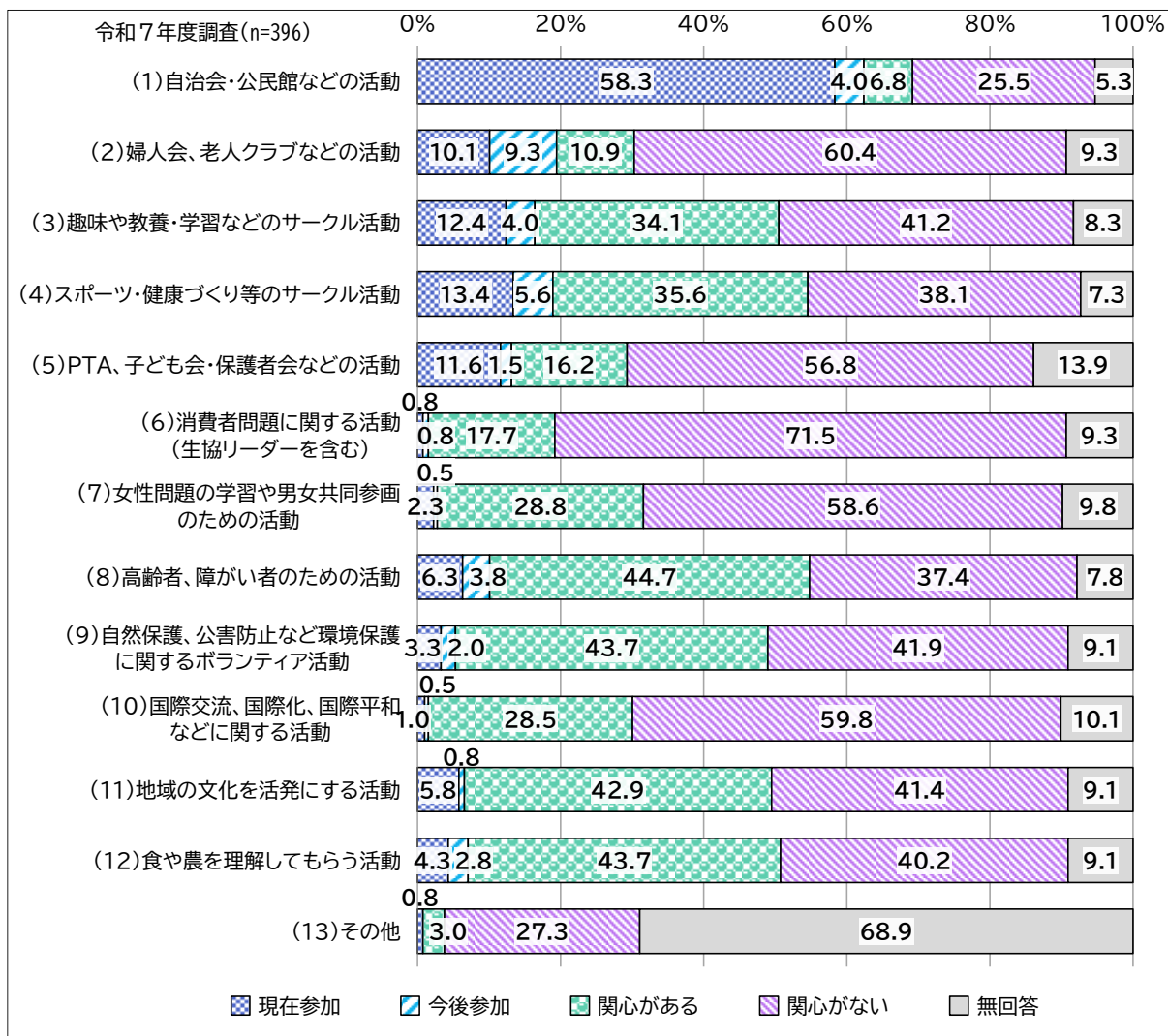
- 男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために必要な条件については、「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が50.0%と最も高く、次いで「育児休業・介護休業の取得が、給与や職場の地位に不利益とならないようにすること」33.6%、「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」28.3%となっています。
- 性別でみると、男女ともに「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が最も高く、女性は男性と比べて約10ポイント高くなっています。



6. 地域・社会活動の参加について

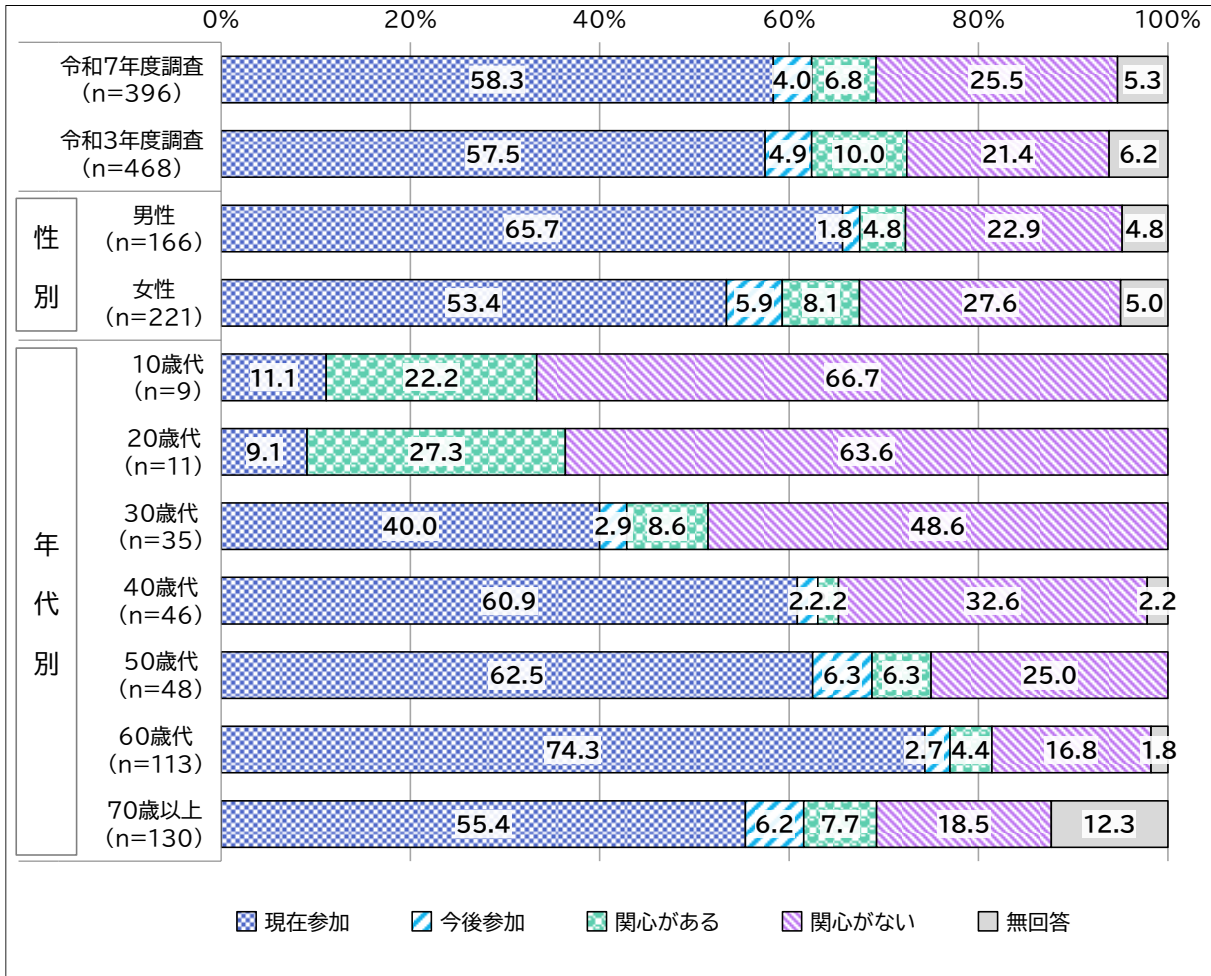
問18 地域・社会活動の参加についてお伺いします。(単数回答)

○地域・社会活動の参加について、「自治会・公民館などの活動」では「現在参加」、「高齢者、障がい者のための活動」「自然保護、公害防止など環境保護に関するボランティア活動」「地域の文化を活発にする活動」「食や農を理解してもらう活動」では「関心がある」、それ以外の活動では「関心がない」が最も高くなっています。また、今後の参加意向「今後参加」については、どの活動も1割以下となっています。



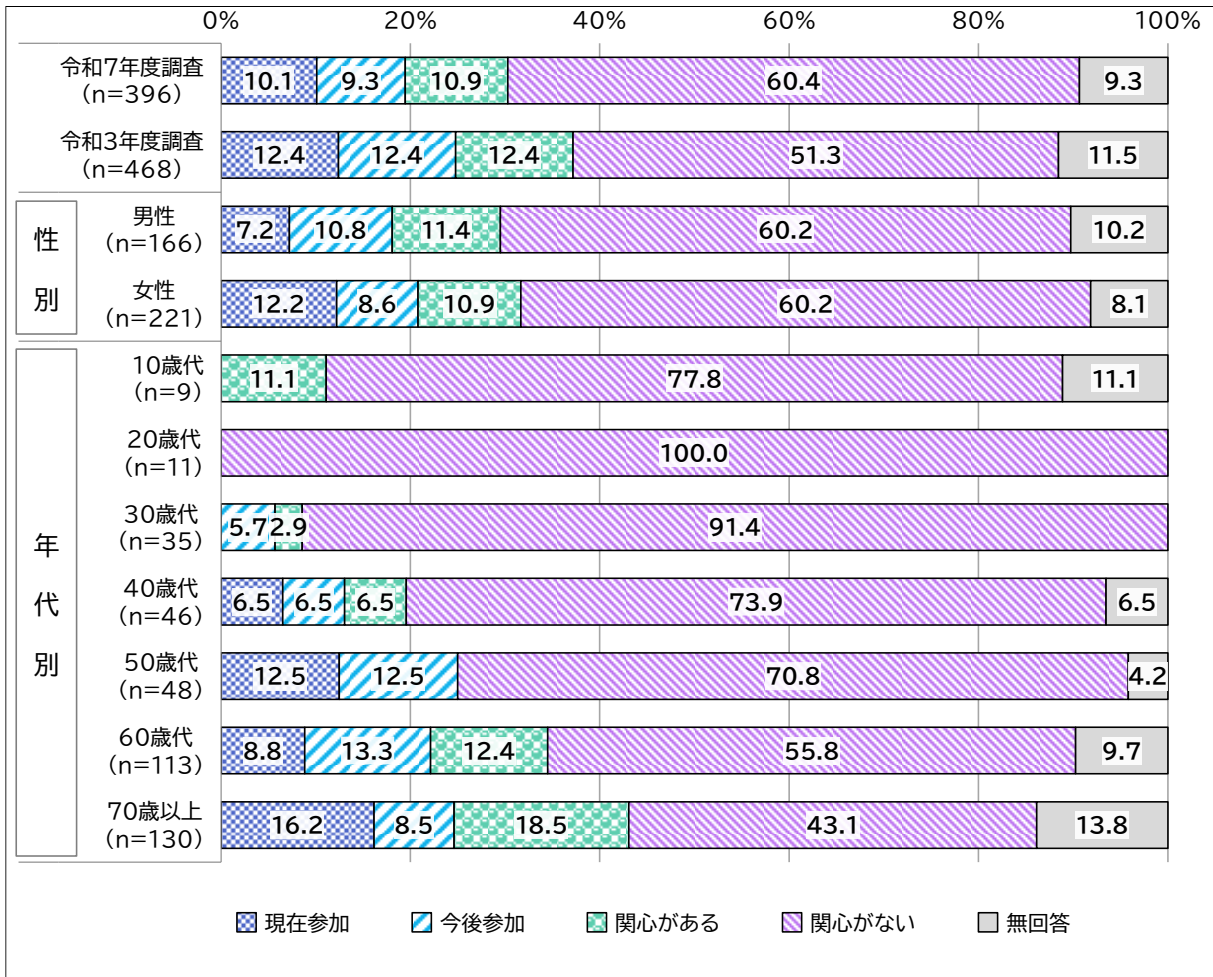
(1) 自治会・公民館などの活動

- 自治会・公民館などの活動については、「現在参加」が 58.3%と最も高く、次いで「関心がない」25.5%、「関心がある」6.8%となっています。
- 性別でみると、男女ともに「現在参加」が最も高く、男性は女性と比べて参加率が 12.3 ポイント高くなっています。
- 年代別でみると、20 歳代～30 歳代では「関心がない」、40 歳代以上では「現在参加」が最も高く、特に 60 歳代では参加率が 7 割を超えています。また、20 歳代では「関心がある」が 2 割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。



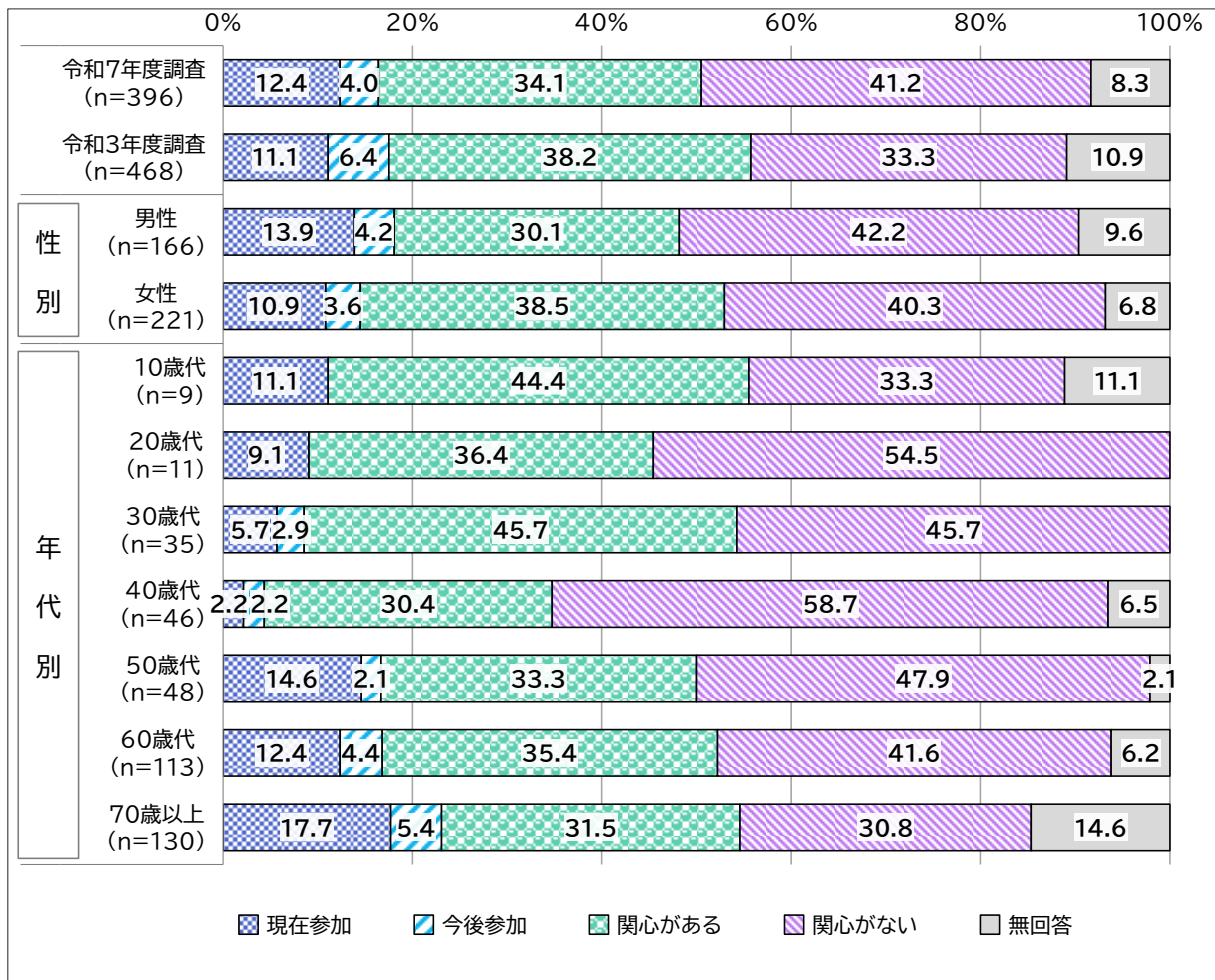
(2) 婦人会、老人クラブなどの活動

- 婦人会、老人クラブなどの活動については、「関心がない」が60.4%と最も高く、次いで「関心がある」10.9%、「現在参加」10.1%となっています。
- 前回調査との比較では、「関心がない」が約10ポイント高くなっています。
- 性別でみると、男女ともに6割が「関心がない」と回答しています。
- 年代別でみると、どの年代も「関心がない」が最も高く、特に20歳代～30歳代では9割を超えています。また、参加率が最も高い年代は、70歳以上（16.2%）、次いで50歳代（12.5%）となっています。



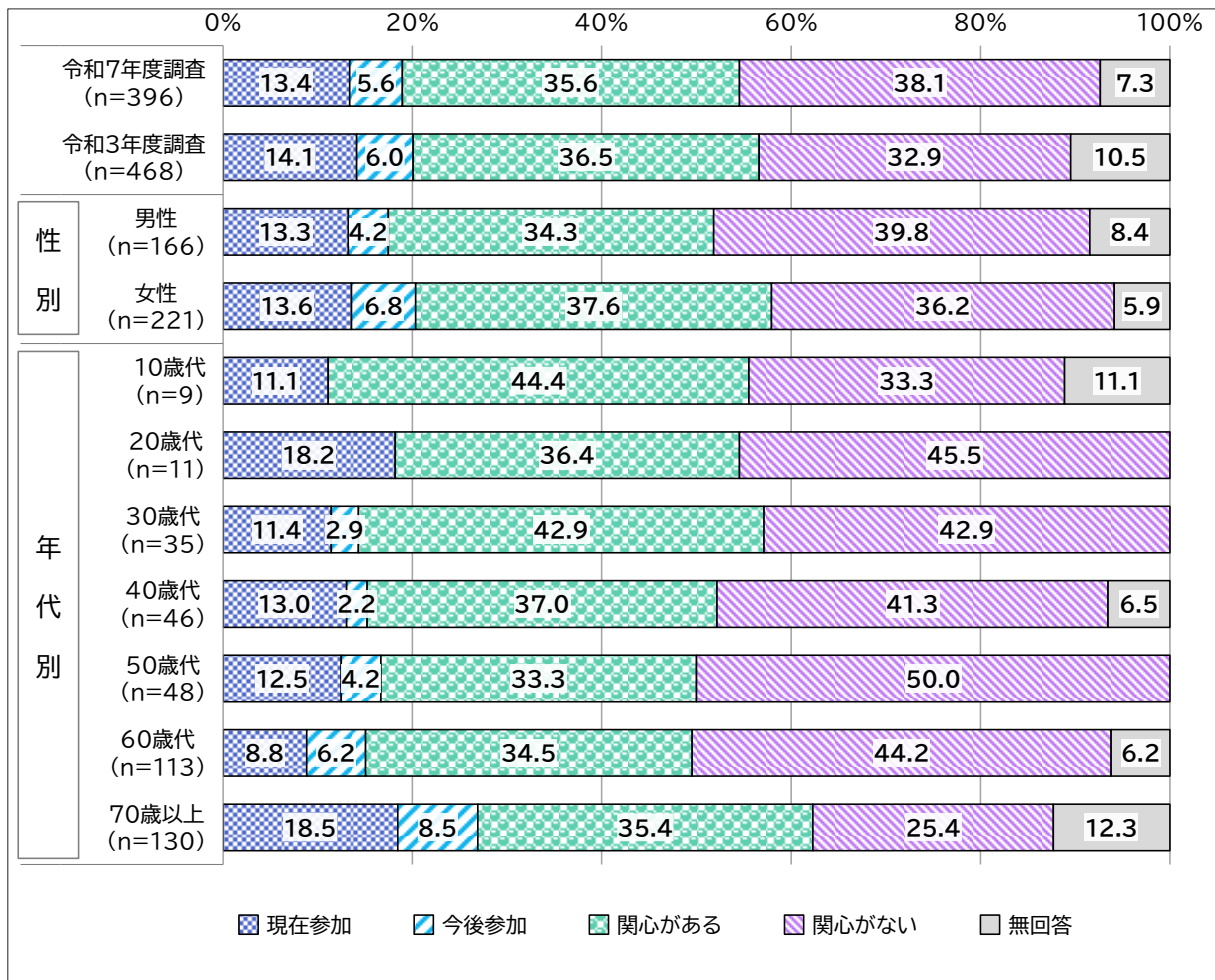
(3) 趣味や教養・学習などのサークル活動

- 趣味や教養・学習などのサークル活動については、「関心がない」が41.2%と最も高く、次いで「関心がある」34.1%、「現在参加」12.4%となっています。
- 性別でみると、男女ともに「関心がない」が最も高く、4割を超えています。3割は「関心がある」と回答しています。
- 年代別でみると、30歳代では「関心がある」「関心がない」が同率で最も高く、70歳以上では「関心がある」、それ以外の年代では「関心がない」が最も高くなっています。また、参加率が最も高い年代は、70歳以上(17.7%)、次いで50歳代(14.6%)、60歳代(12.4%)となっています。



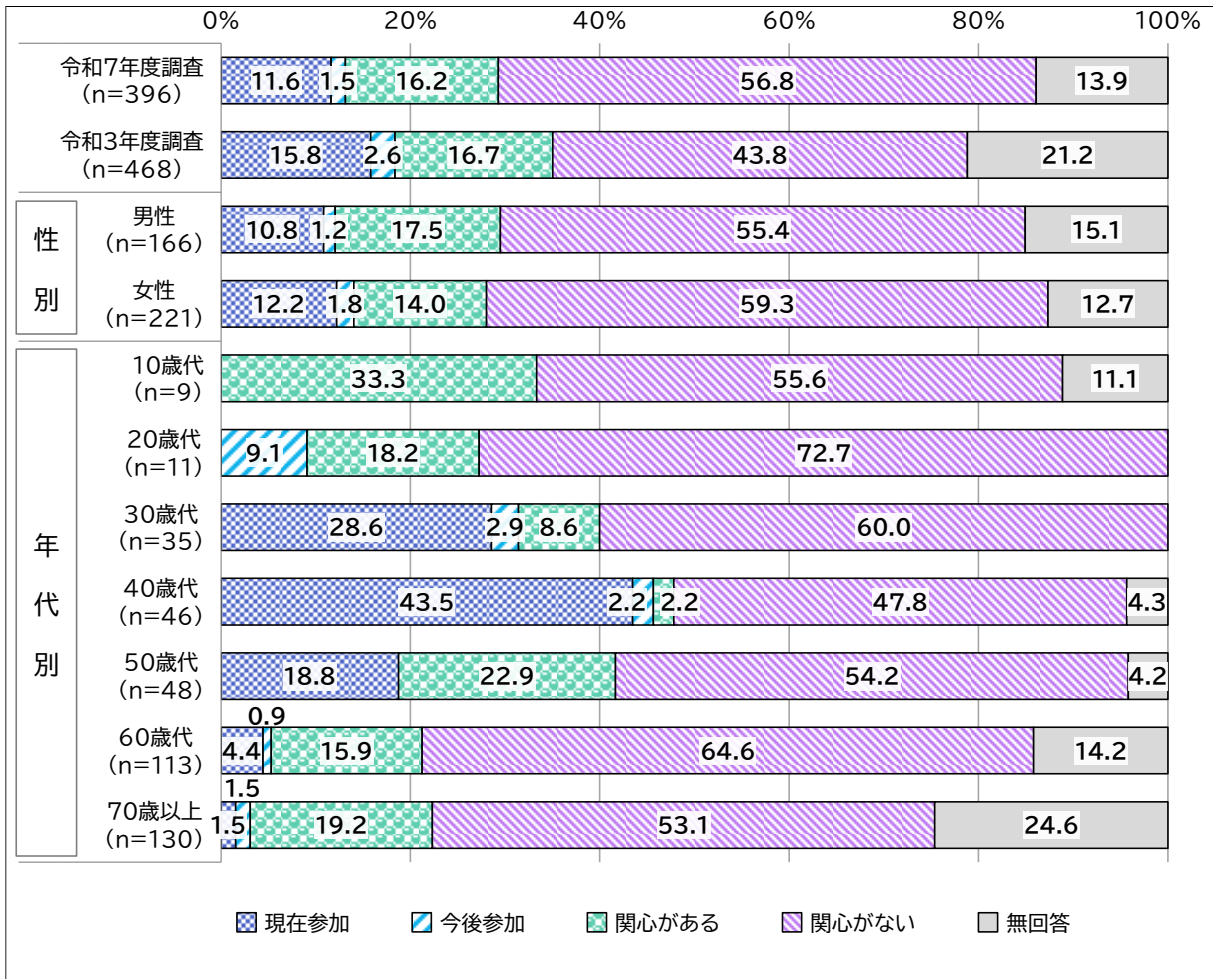
(4) スポーツ・健康づくり等のサークル活動

- スポーツ・健康づくり等のサークル活動については、「関心がない」が38.1%と最も高く、次いで「関心がある」35.6%となっており、「関心がある」「関心がない」が同程度の割合となっています。
- 性別でみると、男性は「関心がない」、女性は「関心がある」が最も高くなっています。
- 年代別でみると、30歳代では「関心がある」「関心がない」が同率で最も高く、70歳以上では「関心がある」、それ以外の年代では「関心がない」が最も高くなっています。また、参加率が最も高い年代は、70歳以上（18.5%）、次いで20歳代（18.2%）、40歳代（13.0%）となっています。



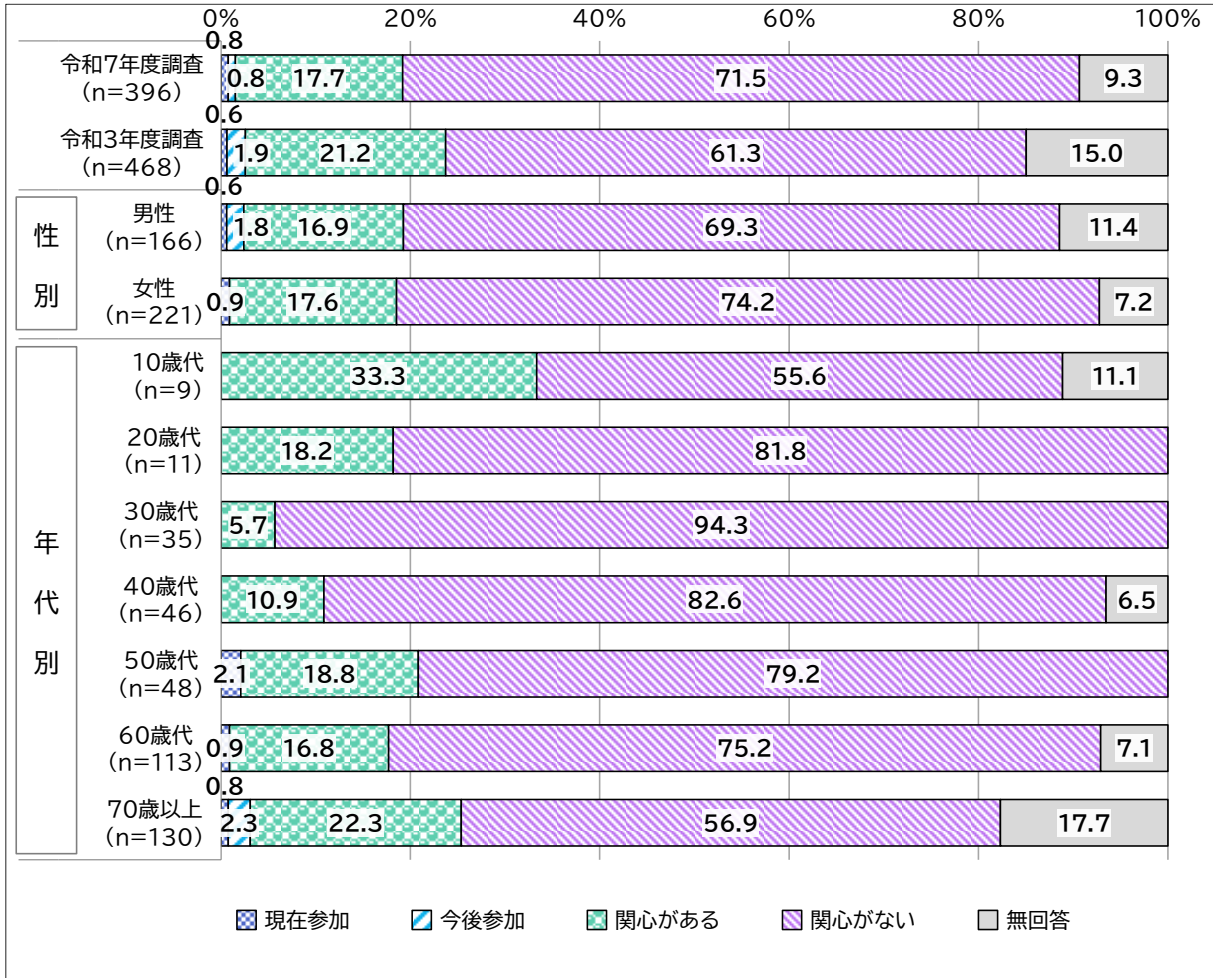
(5) PTA、子ども会・保護者会などの活動

- PTA、子ども会・保護者会などの活動については、「関心がない」が56.8%と最も高く、次いで「関心がある」16.2%、「現在参加」11.6%となっています。
- 前回調査との比較では、「関心がない」が13.0ポイント高くなっています。
- 性別でみると、男女ともに「関心がない」が最も高く、5割を超えています。
- 年代別でみると、どの年代も「関心がない」が最も高く、特に20歳代では7割を超えています。また、参加率が最も高いのは、40歳代（43.5%）、次いで30歳代（28.6%）、50歳代（18.8%）となっています。



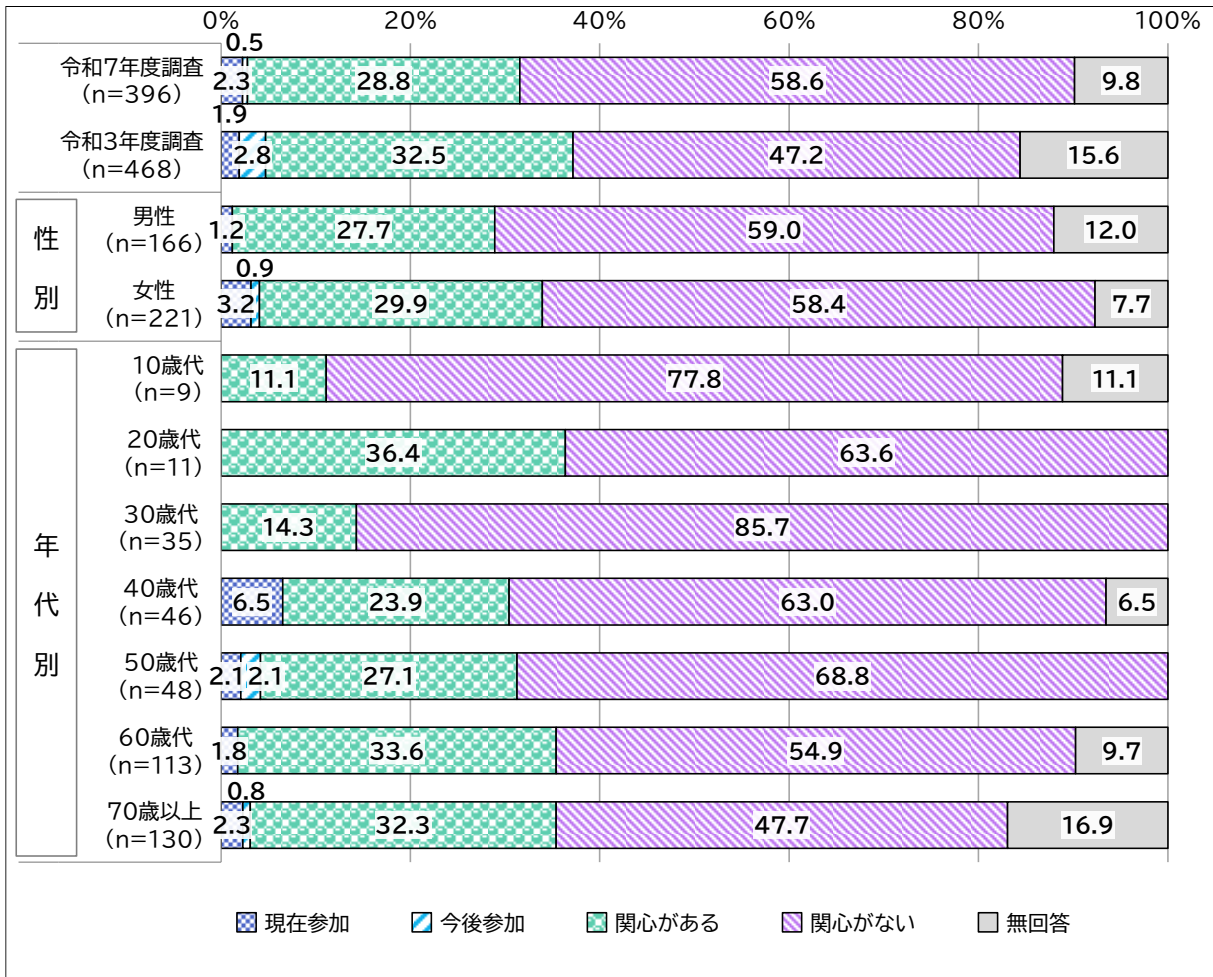
(6) 消費者問題に関する活動（生協リーダーを含む）

- 消費者問題に関する活動については、「関心がない」が71.5%と最も高く、次いで「関心がある」17.7%、「現在参加」「今後参加」がともに0.8%となっています。
- 前回調査との比較では、「関心がない」が10.2ポイント高くなっています。
- 性別でみると、男女ともに7割前後が「関心がない」と回答しています。
- 年代別でみると、どの年代も「関心がない」が最も高く、特に20歳代～40歳代では8割を超えています。また、参加率はどの年代も1割以下となっています。



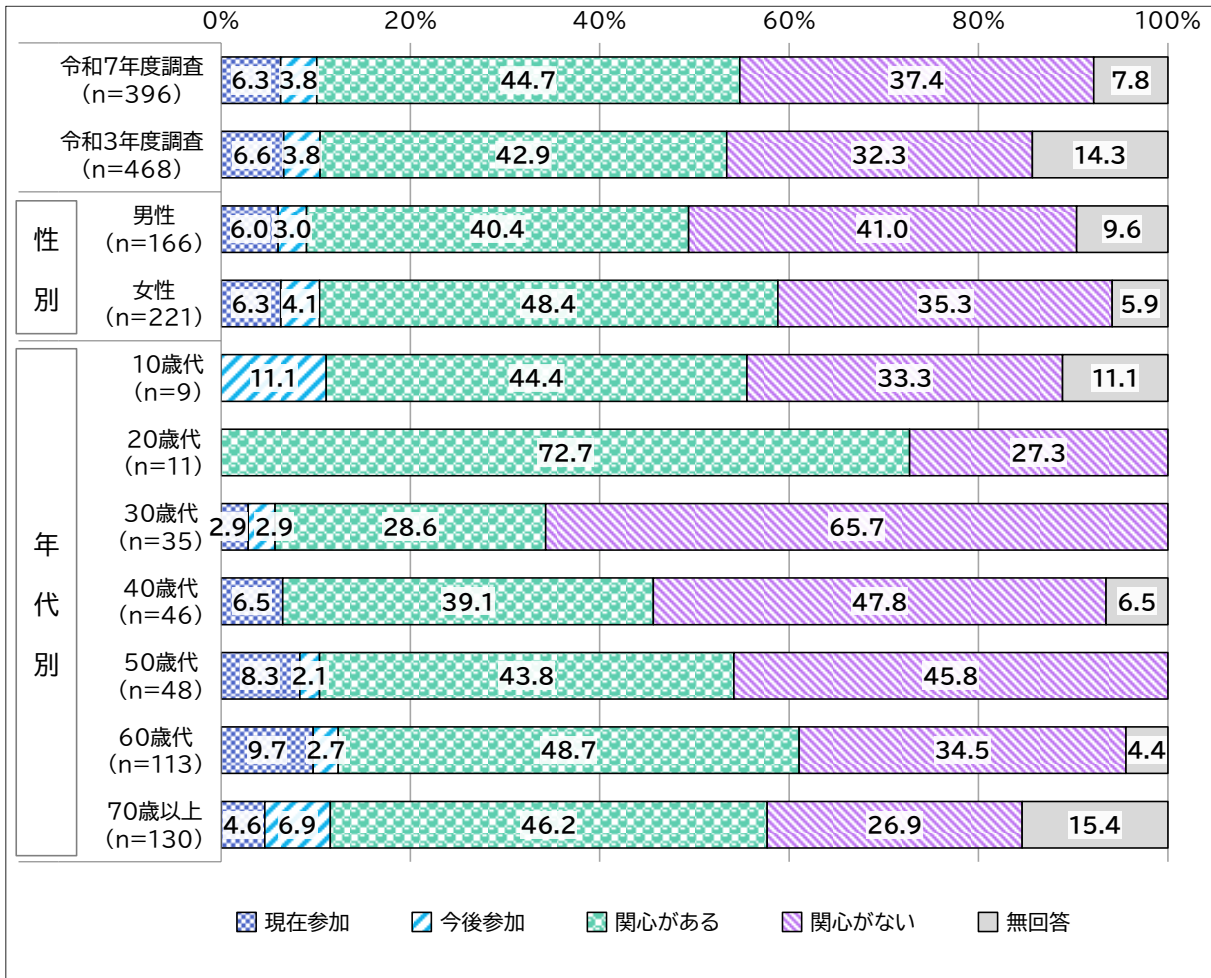
(7) 女性問題の学習や男女共同参画のための活動

- 女性問題の学習や男女共同参画のための活動については、「関心がない」が 58.6%と最も高く、次いで「関心がある」28.8%、「現在参加」2.3%となっています。
- 前回調査との比較では、「関心がない」が 11.4 ポイント高くなっています。
- 性別でみると、男女ともに約 6 割は「関心がない」回答していますが、約 3 割は「関心がある」と回答しています。
- 年代別でみると、どの年代も「関心がない」が最も高く、特に 30 歳代では 8 割を超えています。また、参加率はどの年代も 1 割以下となっています。



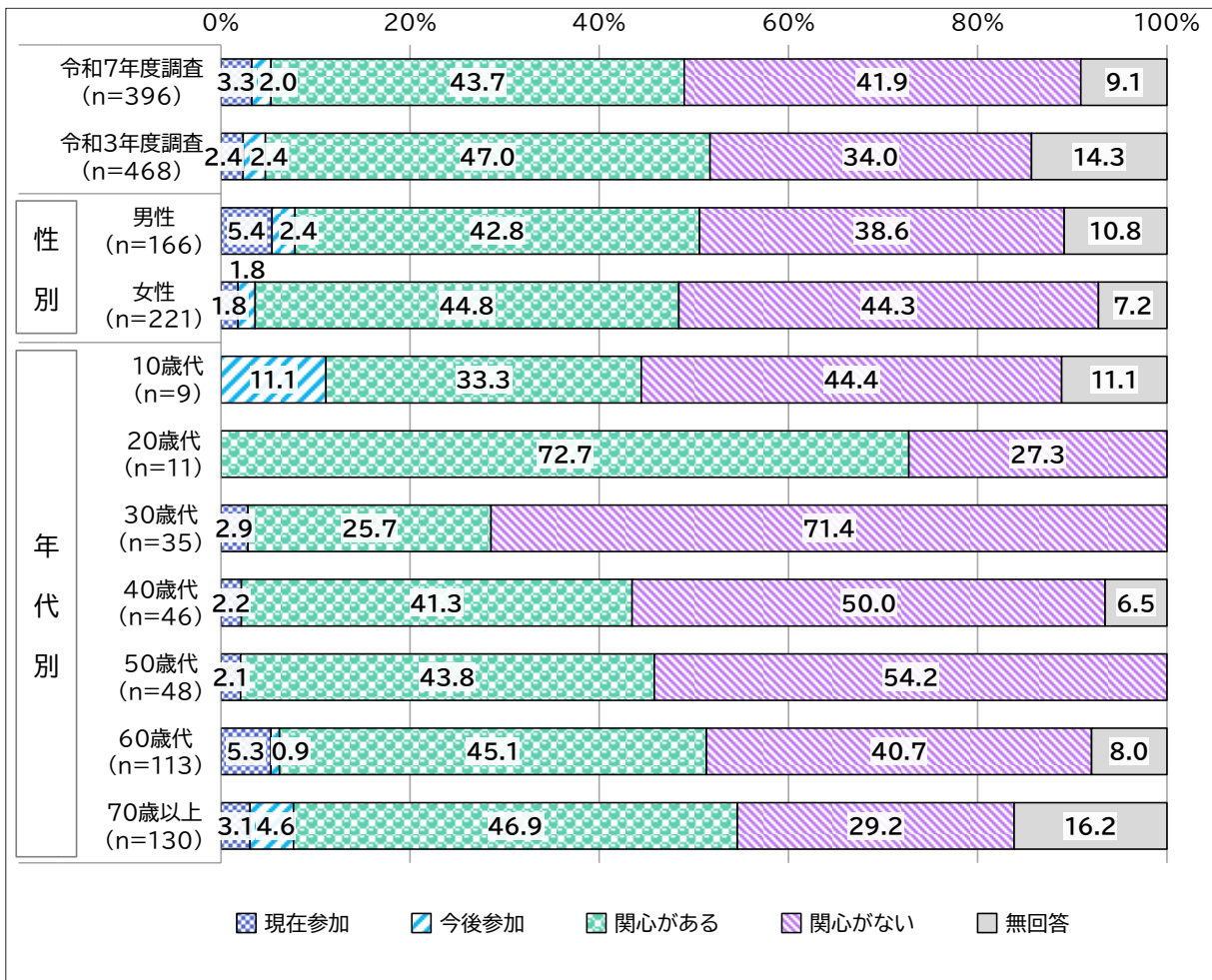
(8) 高齢者、障がい者のための活動

- 高齢者、障がい者のための活動については、「関心がある」が 44.7%と最も高く、次いで「関心がない」37.4%、「現在参加」6.3%となっています。
- 性別でみると、男性は「関心がない」、女性は「関心がある」が最も高くなっています。
- 年代別でみると、30 歳代～50 歳代では「関心がない」が最も高く、それ以外の年代では「関心がある」が最も高くなっています。また、参加率はどの年代も 1 割以下となっています。



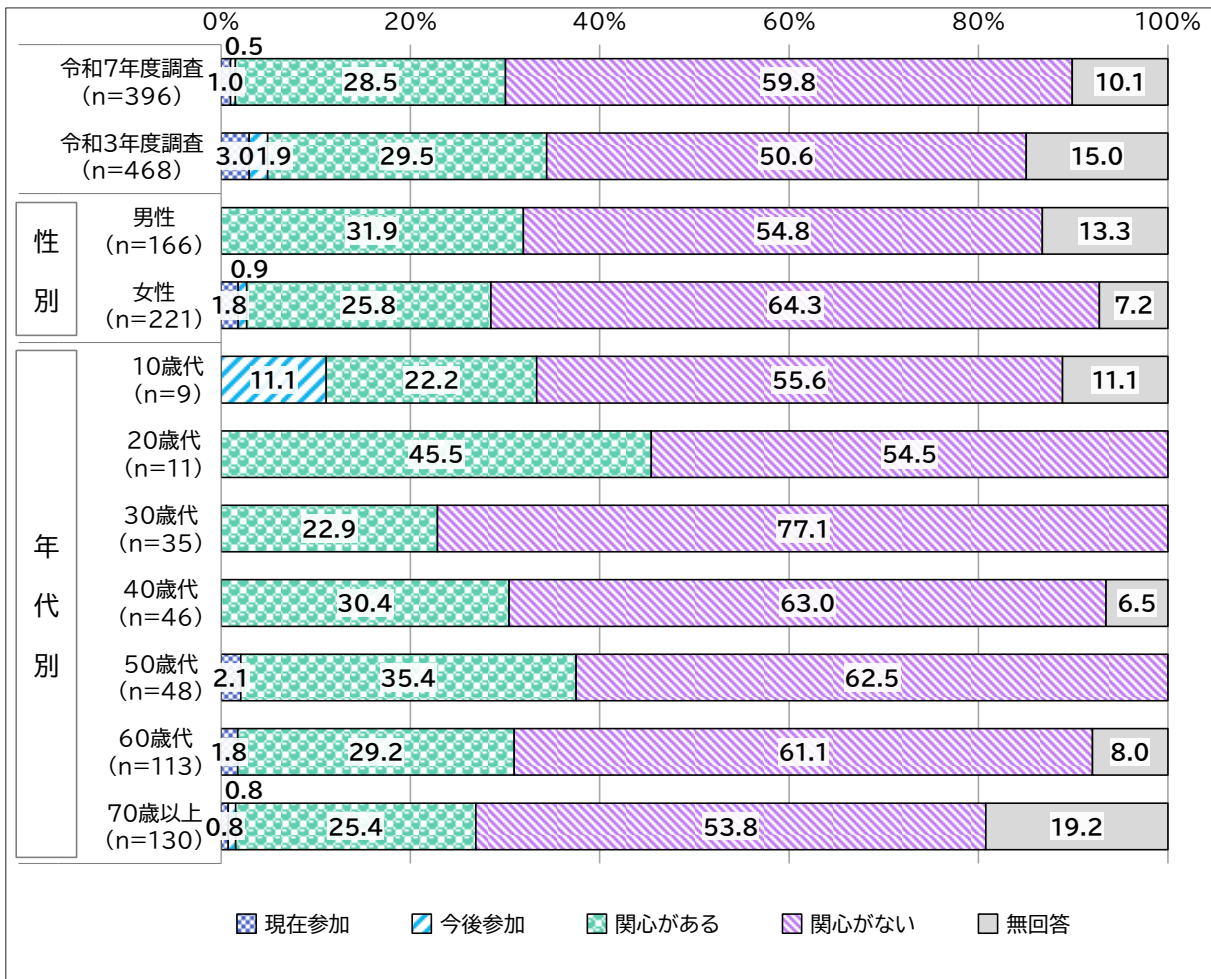
(9) 自然保護、公害防止など環境保護に関するボランティア活動

- 自然保護、公害防止など環境保護に関するボランティア活動については、「関心がある」が43.7%と最も高く、次いで「関心がない」41.9%となっており、「関心がある」「関心がない」が同程度の割合となっています。
- 性別でみると、男女ともに「関心がある」が最も高くなっていますが、4割前後は「関心がない」と回答しています。
- 年代別でみると、30歳代～50歳代では「関心がない」が最も高く、それ以外の年代では「関心がある」が最も高くなっています。また、参加率はどの年代も1割以下となっています。



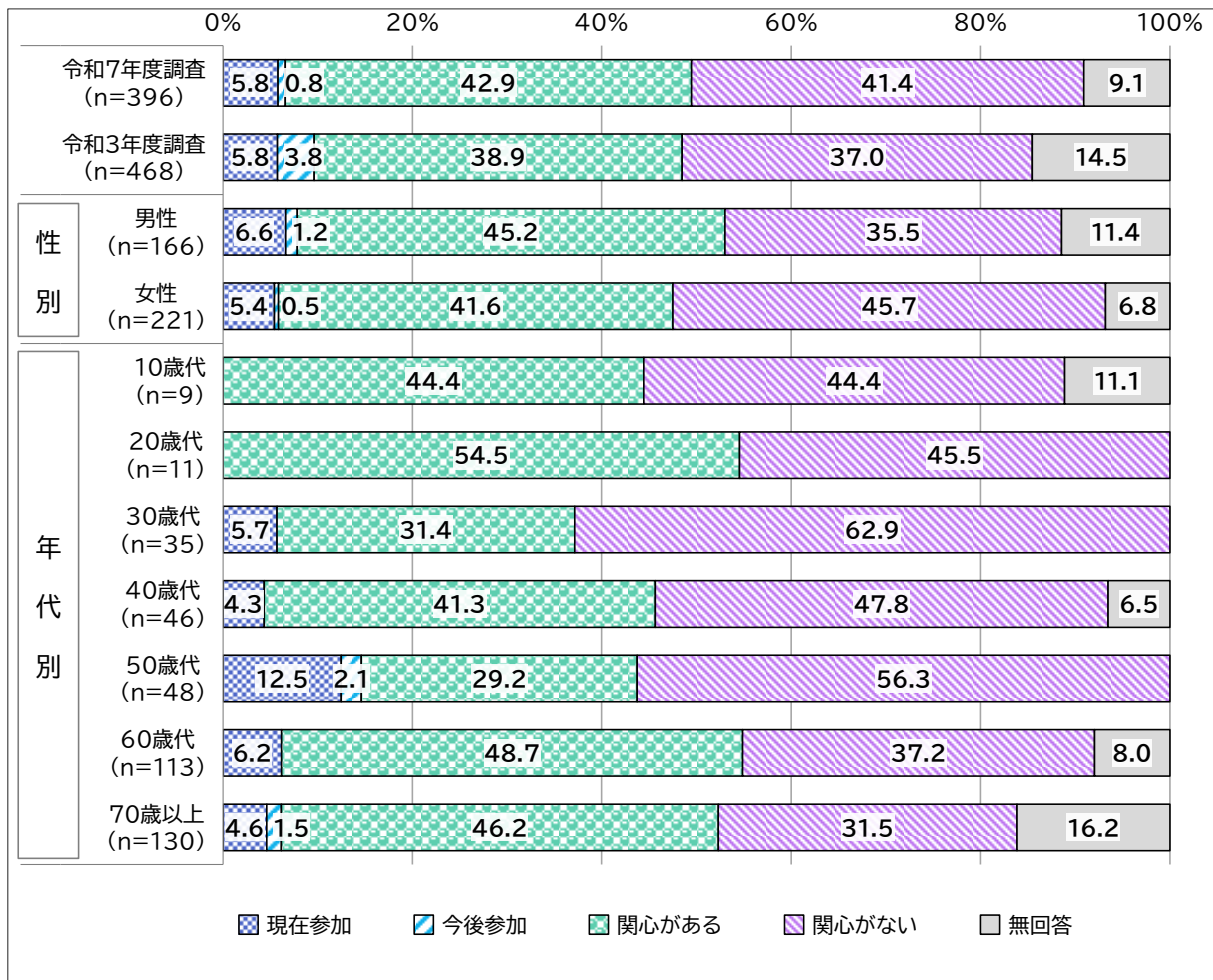
(10) 国際交流、国際化、国際平和などに関する活動

- 国際交流、国際化、国際平和などに関する活動については、「関心がない」が59.8%と最も高く、次いで「関心がある」28.5%、「現在参加」1.0%となっています。
- 前回調査との比較では、「関心がない」が約10ポイント高くなっています。
- 性別でみると、男女ともに「関心がない」が最も高く、女性は男性と比べて約10ポイント高くなっています。
- 年代別でみると、どの年代も「関心がない」が最も高く、特に30歳代では7割を超えています。また、20歳代では「関心がある」が4割を超えており、他の年代に比べて高くなっています。



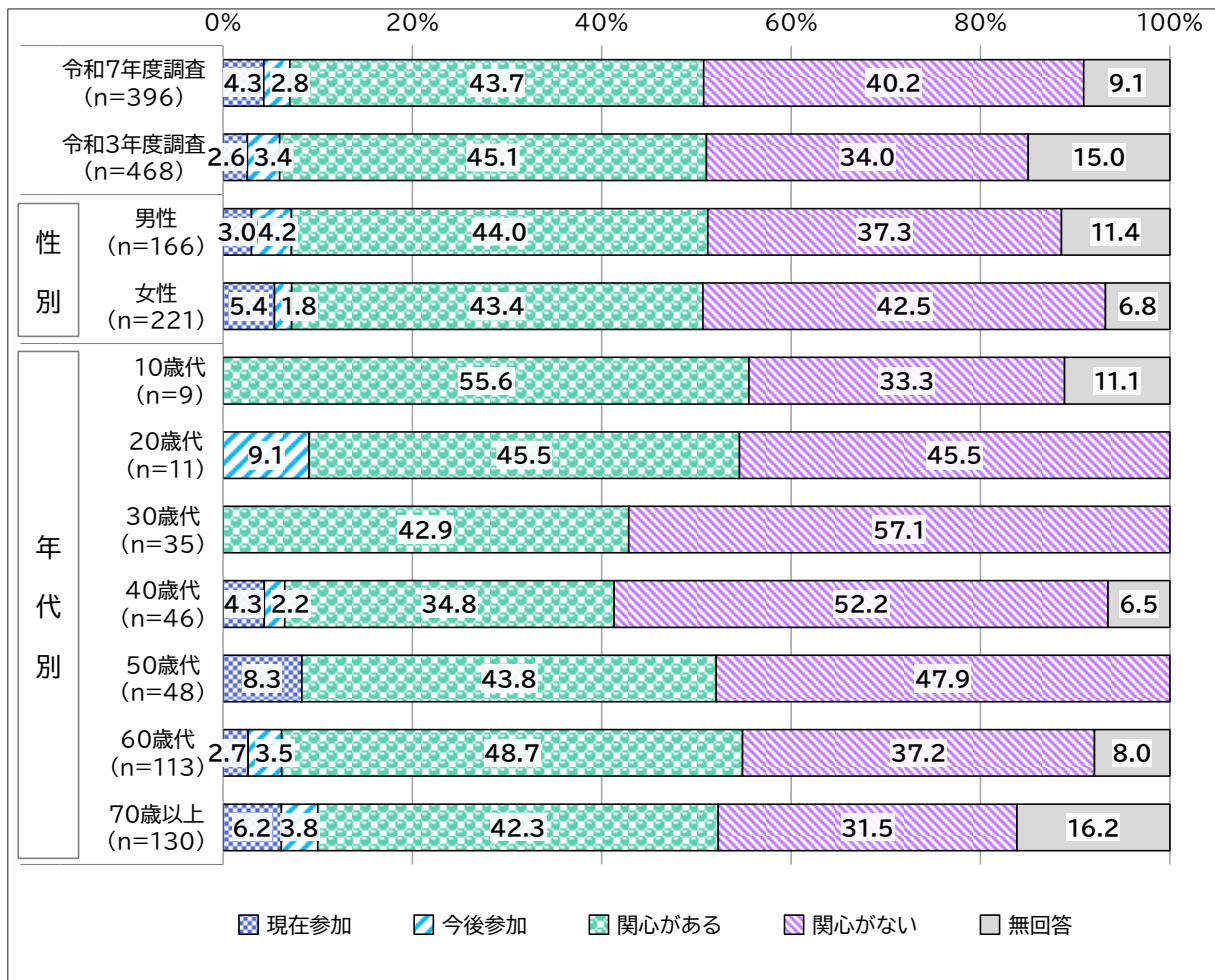
(11) 地域の文化を活発にする活動

- 地域の文化を活発にする活動については、「関心がある」が42.9%と最も高く、次いで「関心がない」41.4%となっており、「関心がある」「関心がない」が同程度の割合となっています。
- 性別で見ると、男性は「関心がある」、女性は「関心がない」が最も高くなっています。また、女性は男性と比べて「関心がない」が10.2ポイント高くなっています。
- 年代別で見ると、30歳代～50歳代では「関心がない」、それ以外の年代では「関心がある」が最も高くなっています。また、参加率が最も高い年代は、50歳代(12.5%)となっています。



(12) 食や農を理解してもらう活動

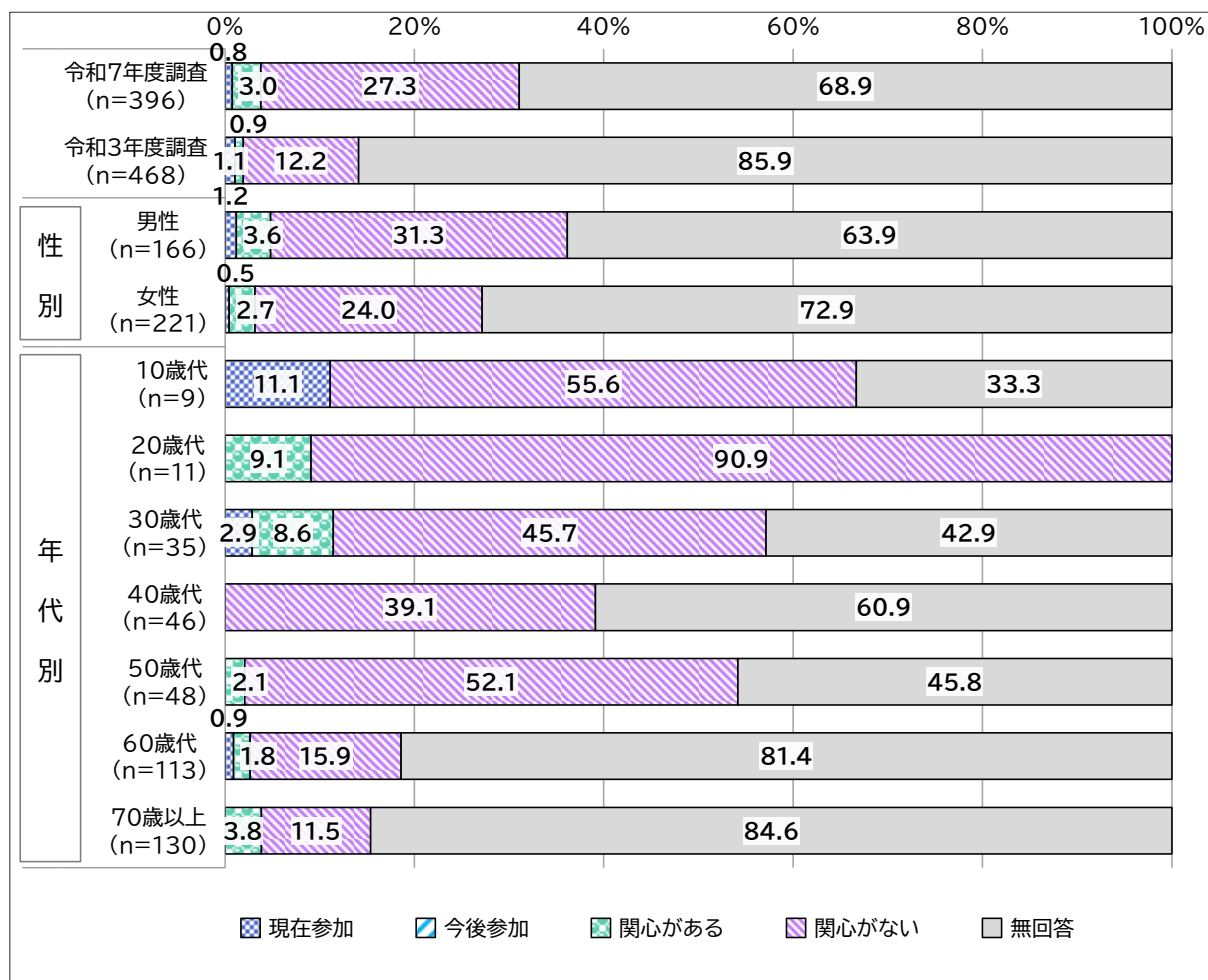
- 食や農を理解してもらう活動については、「関心がある」が43.7%と最も高く、次いで「関心がない」40.2%となっており、「関心がある」「関心がない」が同程度の割合となっています。
- 性別でみると、男女ともに「関心がある」が最も高くなっていますが、4割前後は「関心がない」と回答しています。
- 年代別でみると、20歳代では「関心がある」「関心がない」が同率で最も高く、30歳代～50歳代では「関心がない」、60歳代以上では「関心がある」が最も高くなっています。また、参加率はどの年代も1割以下となっています。



(13) その他

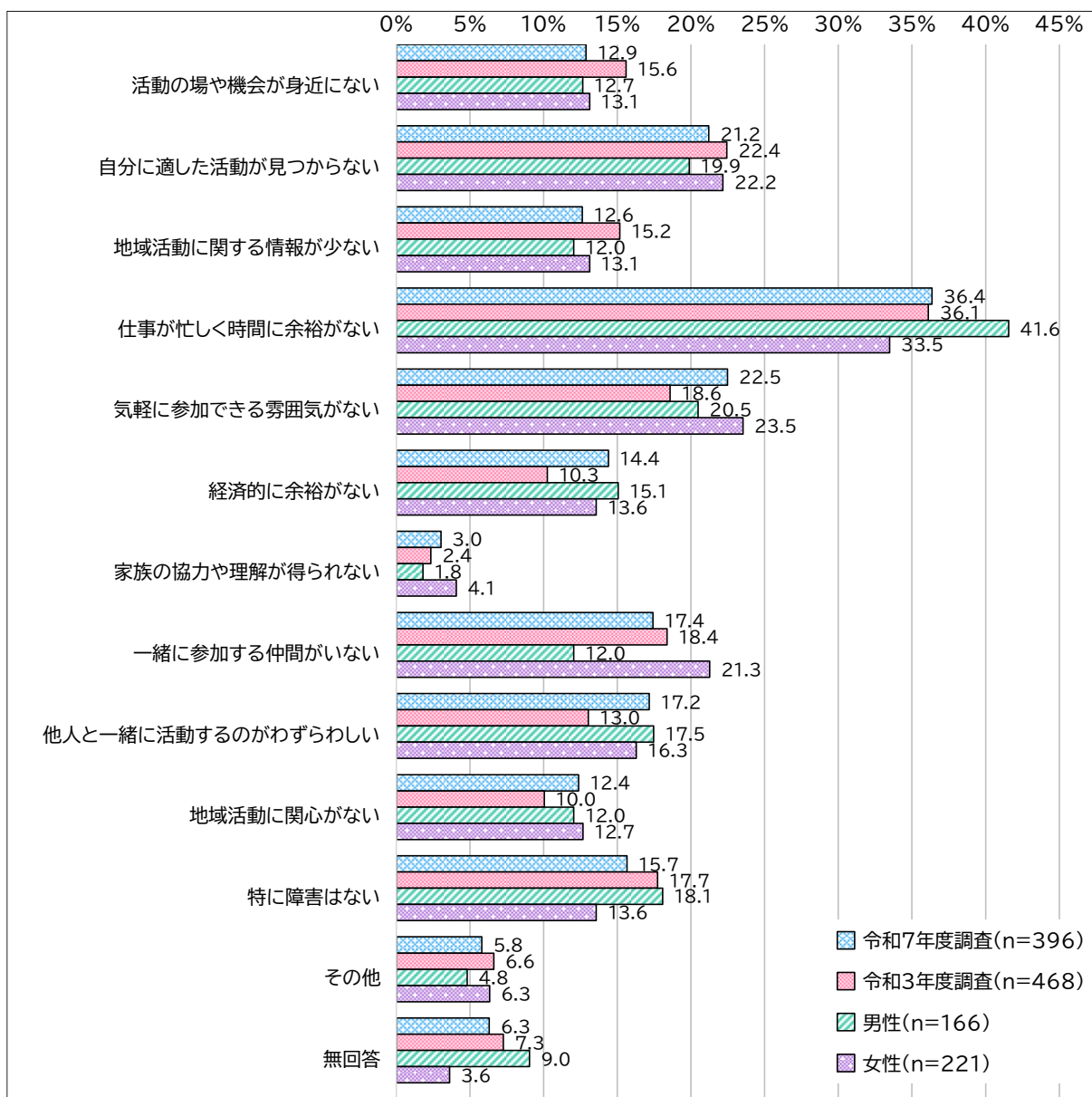
○その他の活動については、「関心がない」が27.3%と最も高く、次いで「関心がある」3.0%、「現在参加」0.8%となっています。

○性別及び年代別で見ると、「関心がない」が最も高く、20歳代では9割を超えています。



問19 あなたが、地域活動に参加するうえで障害となっていることはどのようなことだと思いますか。(複数回答)

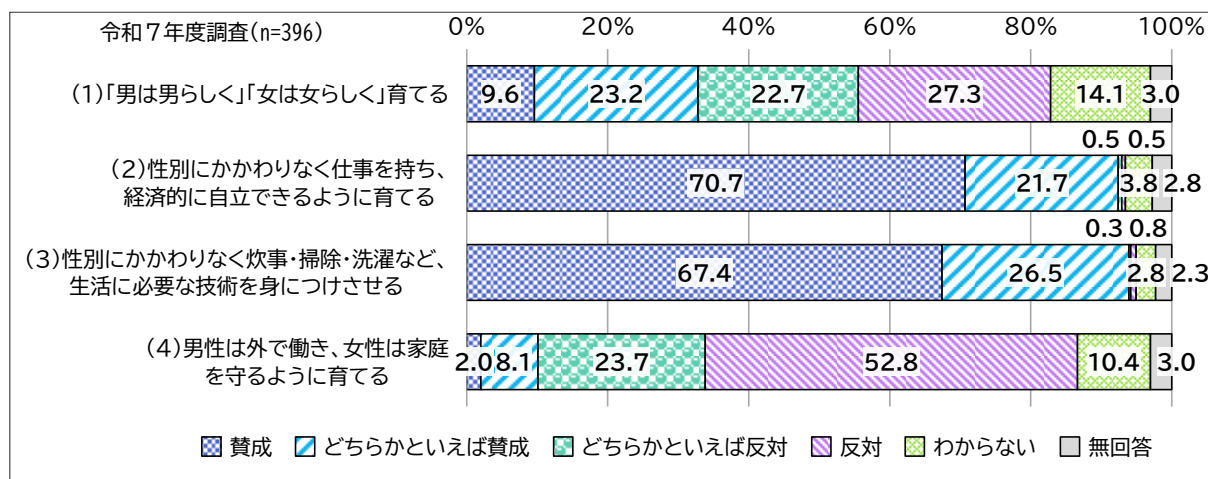
- 地域活動等への参加を妨げている要因については、「仕事が忙しく時間に余裕がない」が36.4%と最も高く、次いで「気軽に参加できる雰囲気がない」22.5%、「自分に適した活動が見つからない」21.2%となっています。
- 性別でみると、男女ともに「仕事が忙しく時間に余裕がない」が最も高くなっています。また、女性は男性と比べて「一緒に参加する仲間がいない」が約10ポイント高くなっています。



7. 子どもの教育について

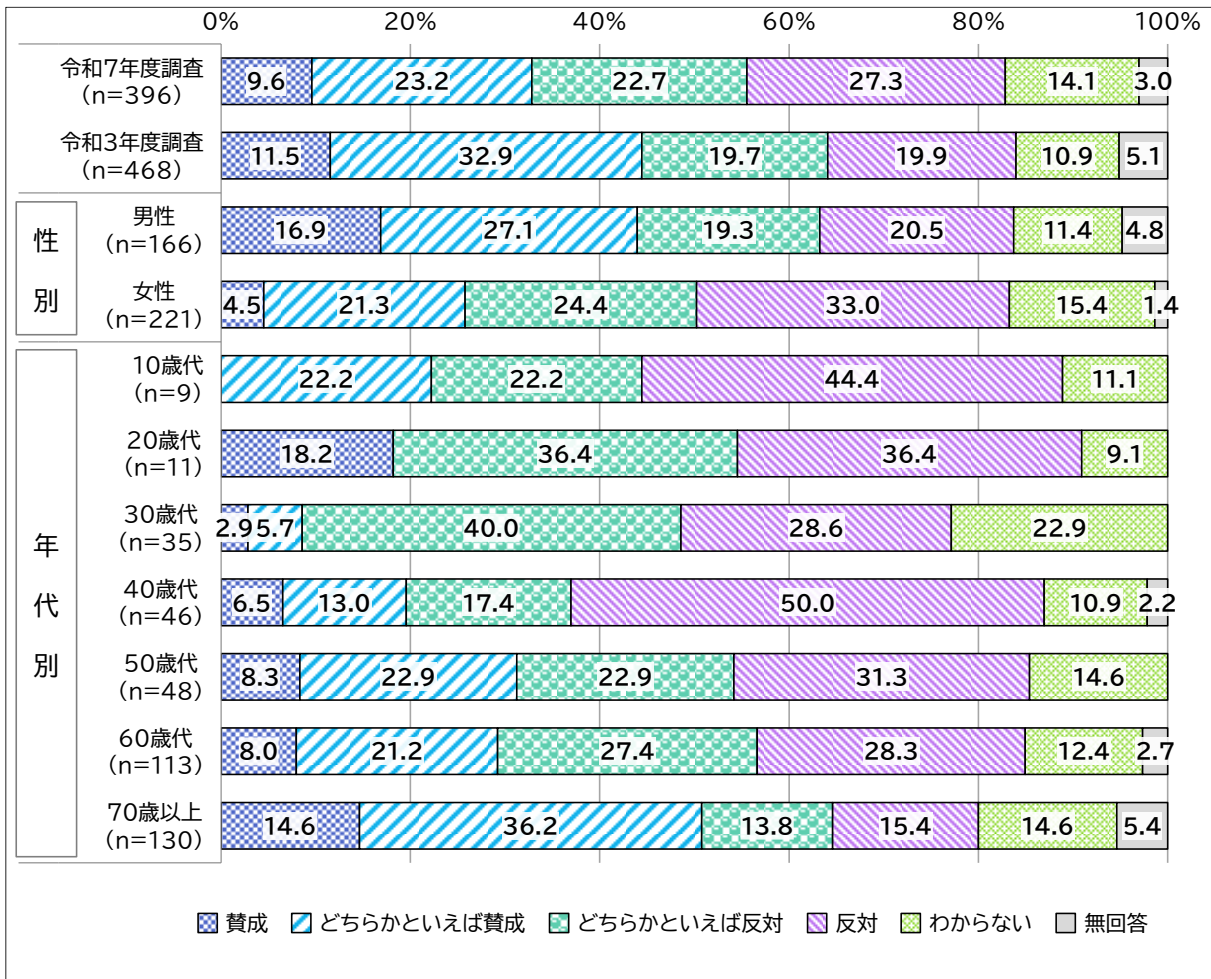
問20 次のようなことがらについて、あなたはどのように思われますか。(単数回答)

○子どもの育て方や教育に対する考え方について尋ねたところ、『「男は男らしく」「女は女らしく」育てる』『男性は外で働き、女性は家庭を守るように育てる』では、『反対：どちらかといえば反対+反対』が『賛成：賛成+どちらかといえば賛成』を上回っています。また、「性別にかかわらず仕事をもち、経済的に自立できるように育てる」「性別にかかわらず炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる」では9割以上が『賛成』と回答しています。



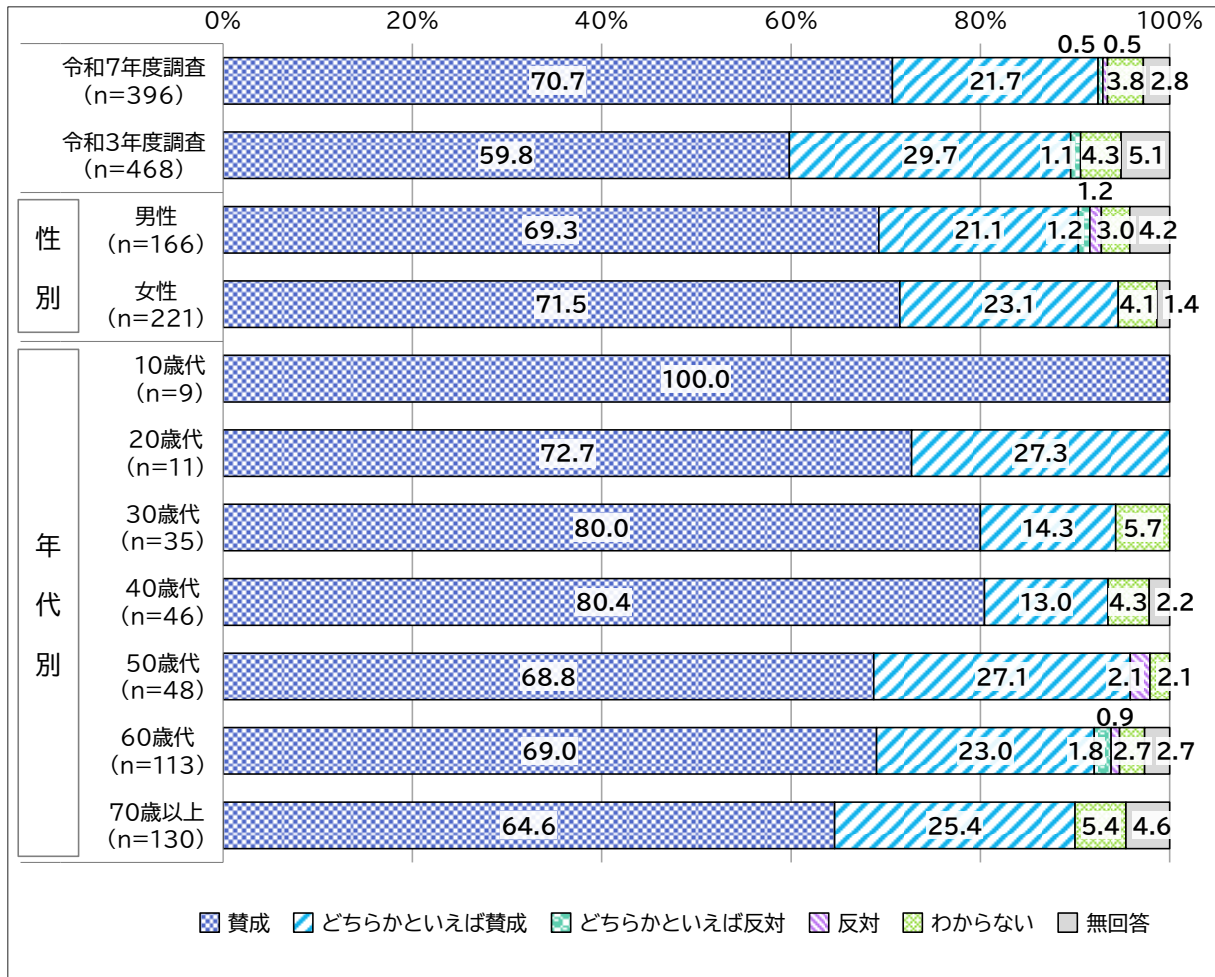
(1) 「男は男らしく」「女は女らしく」育てる

- 「男は男らしく」「女は女らしく」育てるという考え方については、「反対」が 27.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」23.2%、「どちらかといえば反対」22.7%となっており、『反対』が『賛成』を上回っています。
- 前回調査との比較では、『反対』が高く、『賛成』が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 性別でみると、男性は「どちらかといえば賛成」、女性は「反対」が最も高くなっています。また、男性は女性と比べて『賛成』が高く、『反対』が低くなっており、15ポイント以上差が生じています。
- 年代別でみると、60歳代までは『反対』、70歳以上では『賛成』が5割を超えています。



(2) 性別にかかわらず仕事を持ち、経済的に自立できるように育てる

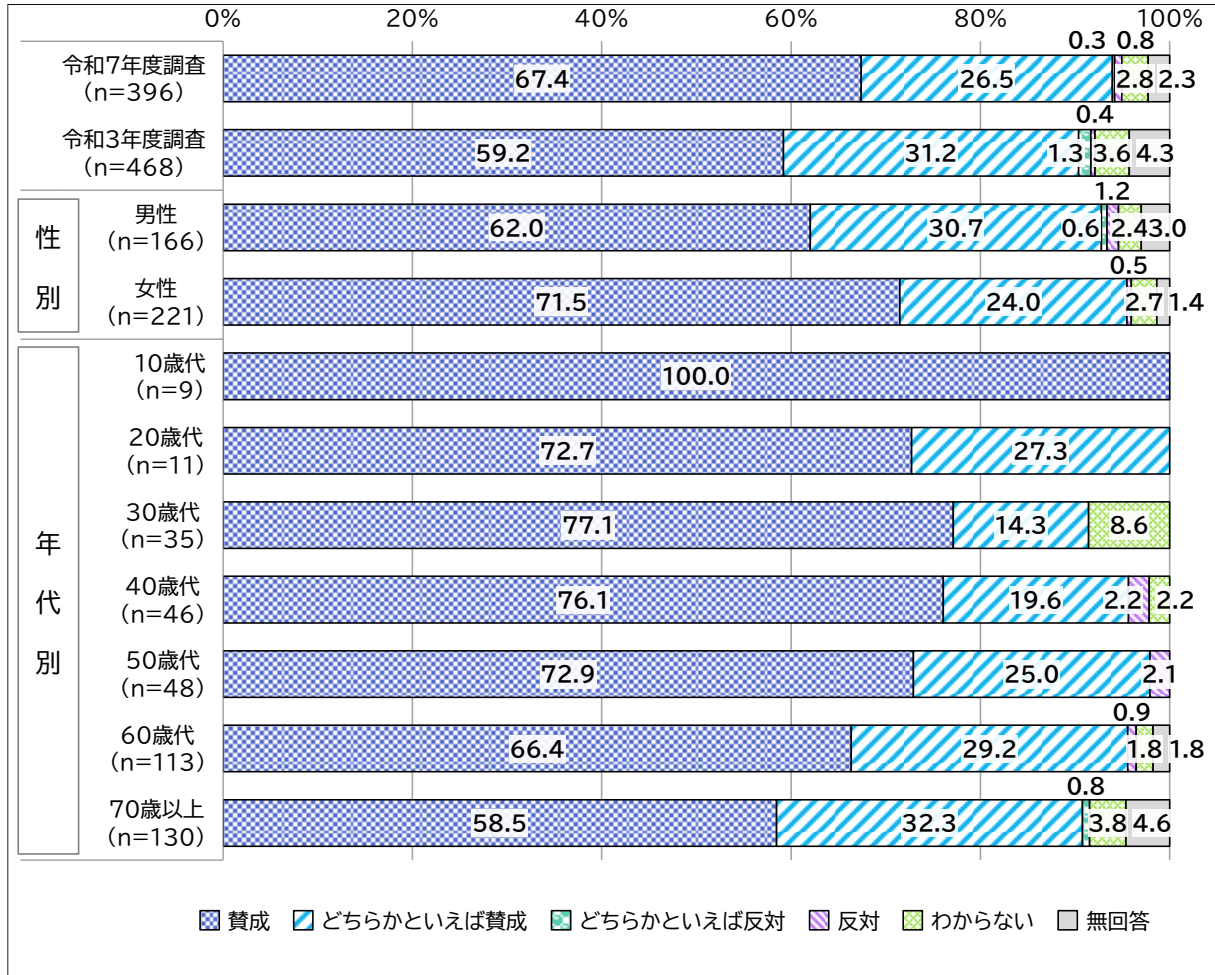
- 性別にかかわらず仕事を持ち、経済的に自立できるように育てるという考え方については、「賛成」が70.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」21.7%となっており、9割が『賛成』と回答しています。
- 前回調査との比較では、「賛成」が10.9ポイント高くなっています。
- 性別及び年代別でも、9割以上が『賛成』と回答しています。



(3) 性別にかかわらず炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる

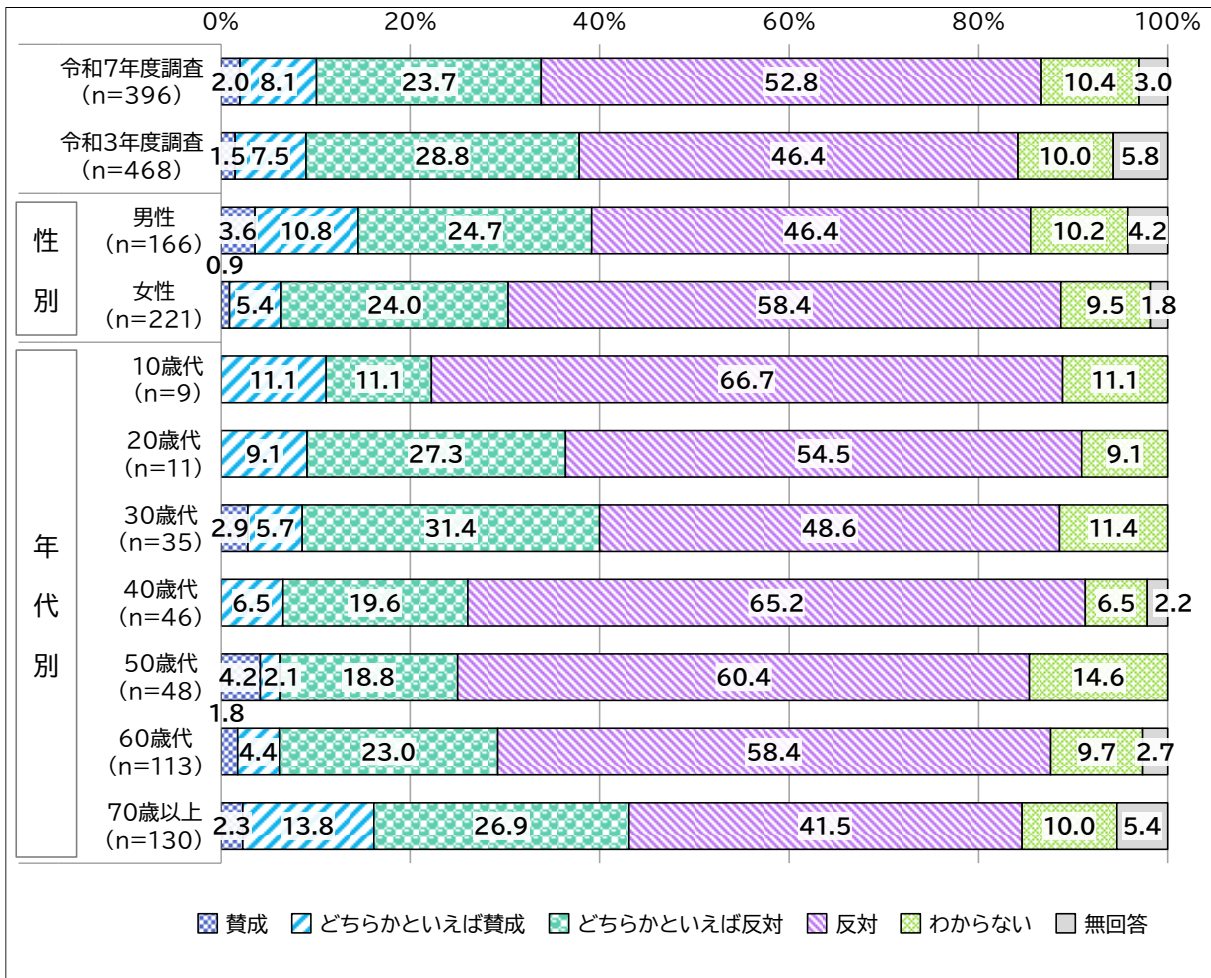
○性別にかかわらず炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせるという考えについては、「賛成」が 67.4%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」26.5%となっており、9割が『賛成』と回答しています。

○性別及び年代別でも、9割以上が『賛成』と回答しています。



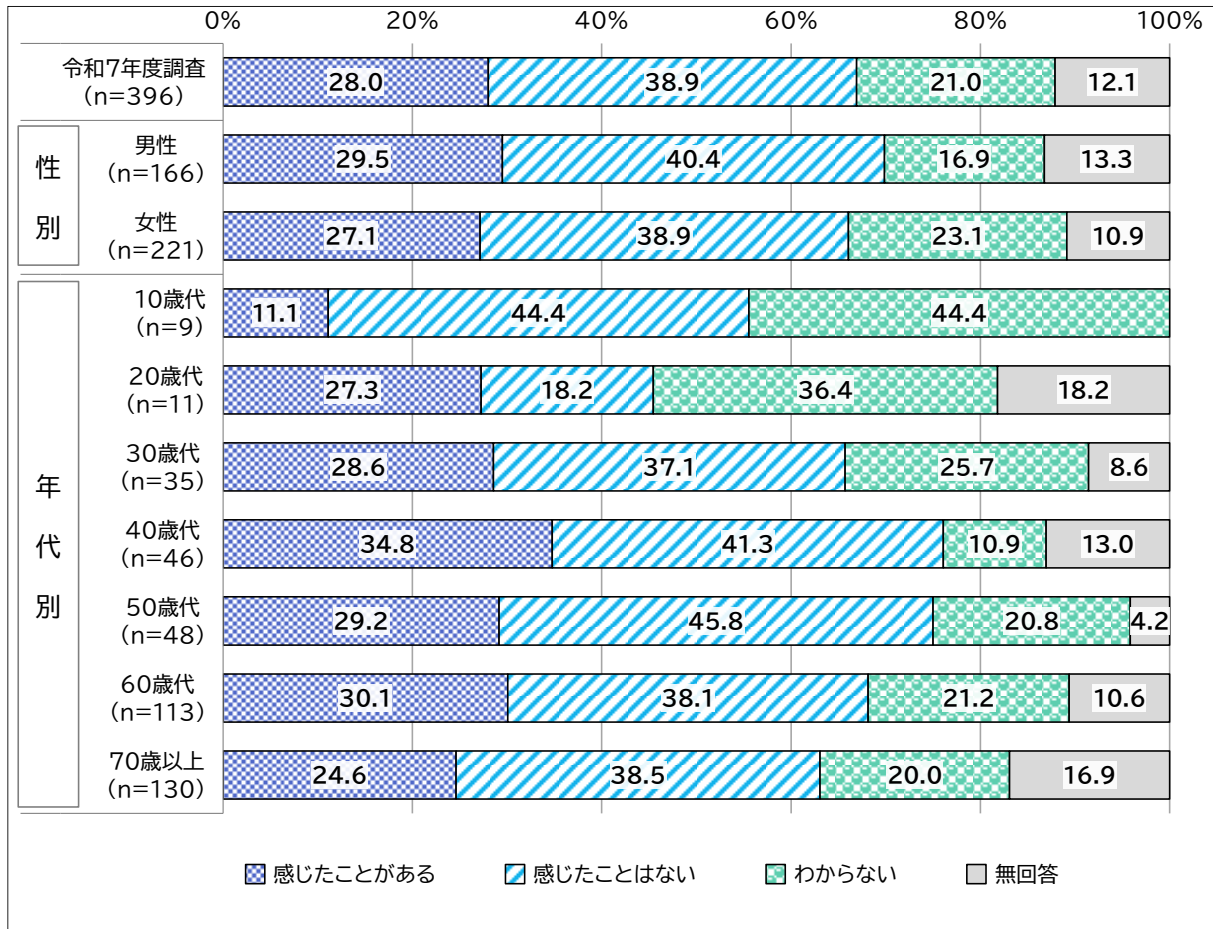
(4) 男性は外で働き、女性は家庭を守るように育てる

- 男性は外で働き、女性は家庭を守るように育てるという考え方については、「反対」が52.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば反対」23.7%、「わからない」10.4%となっており、7割が『反対』と回答しています。
- 性別でみると、男女ともに『反対』が『賛成』を上回っており、女性は男性と比べて『反対』が11.3ポイント高くなっています。
- 年代別でも、どの年代も『反対』が『賛成』を上回っており、20歳代～40歳代及び60歳代では『反対』が8割を超えています。



問21 進路の選択について、性別が影響すると感じたことはありますか。(単数回答)

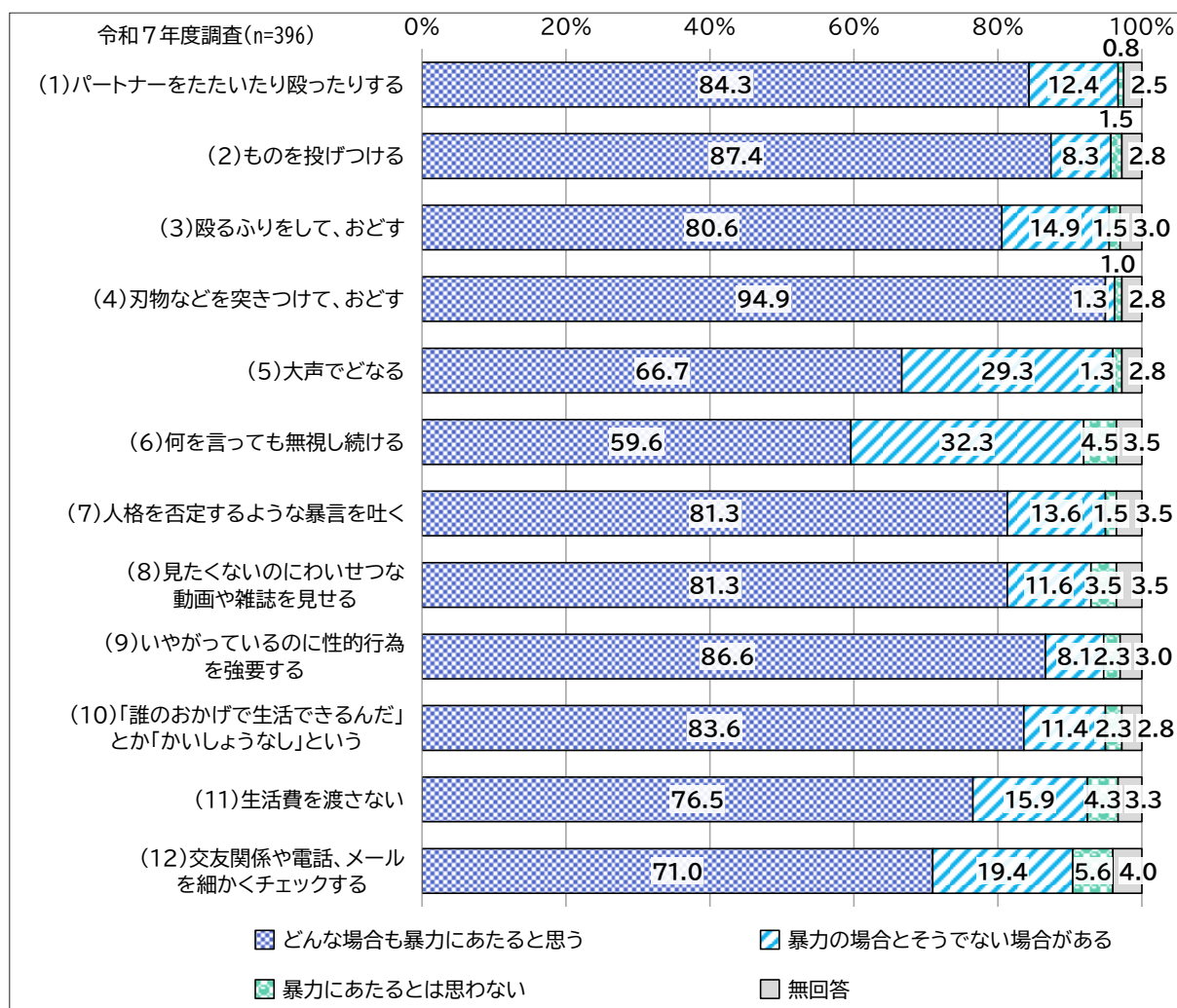
- 進路選択時に、性別が影響すると感じた経験の有無については、「感じたことはない」が38.9%と最も高く、次いで「感じたことがある」28.0%、「わからない」21.0%となっています。
- 性別でみると、男女ともに「感じたことはない」が最も高くなっています。
- 年代別でみると、20歳代では「わからない」、それ以外の年代では「感じたことはない」が最も高くなっています。



8. ドメスティック・バイオレンス(配偶者・恋人間の暴力)について

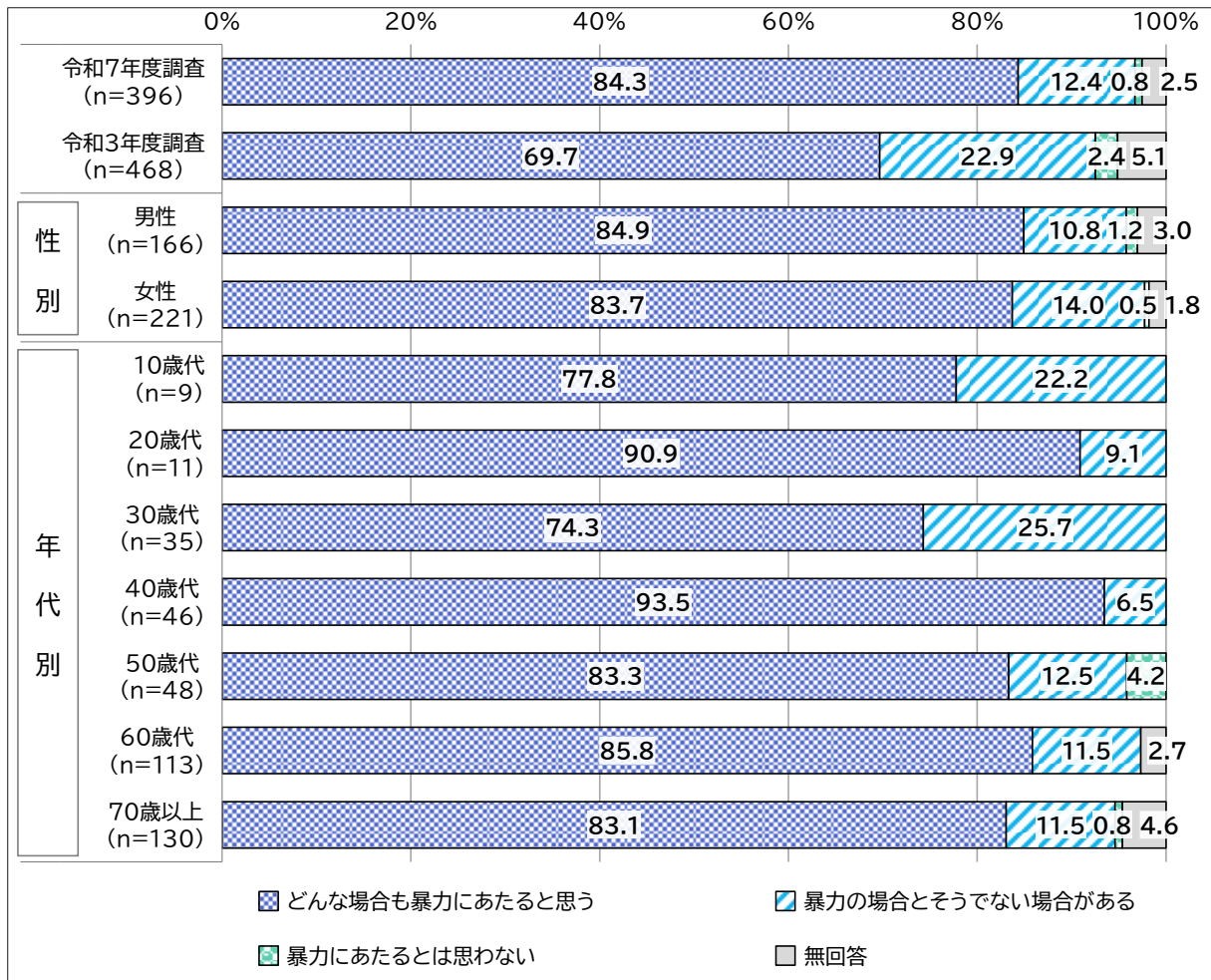
問22 あなたの配偶者または恋人が、次の(1)～(12)にあげるようなことをした場合、それを暴力だと思いませんか。(単数回答)

○配偶者やパートナーから受けた行為が、暴力行為だと感じるか尋ねたところ、いずれも「どんな場合も暴力にあたると思う」が最も高く、特に「刃物などを突きつけて、おどす」は9割を超えています。また、「大声でどなる」「何を言っても無視し続ける」については、3割前後が「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答しており、「暴力にあたるとは思わない」はいずれも1割以下となっています。



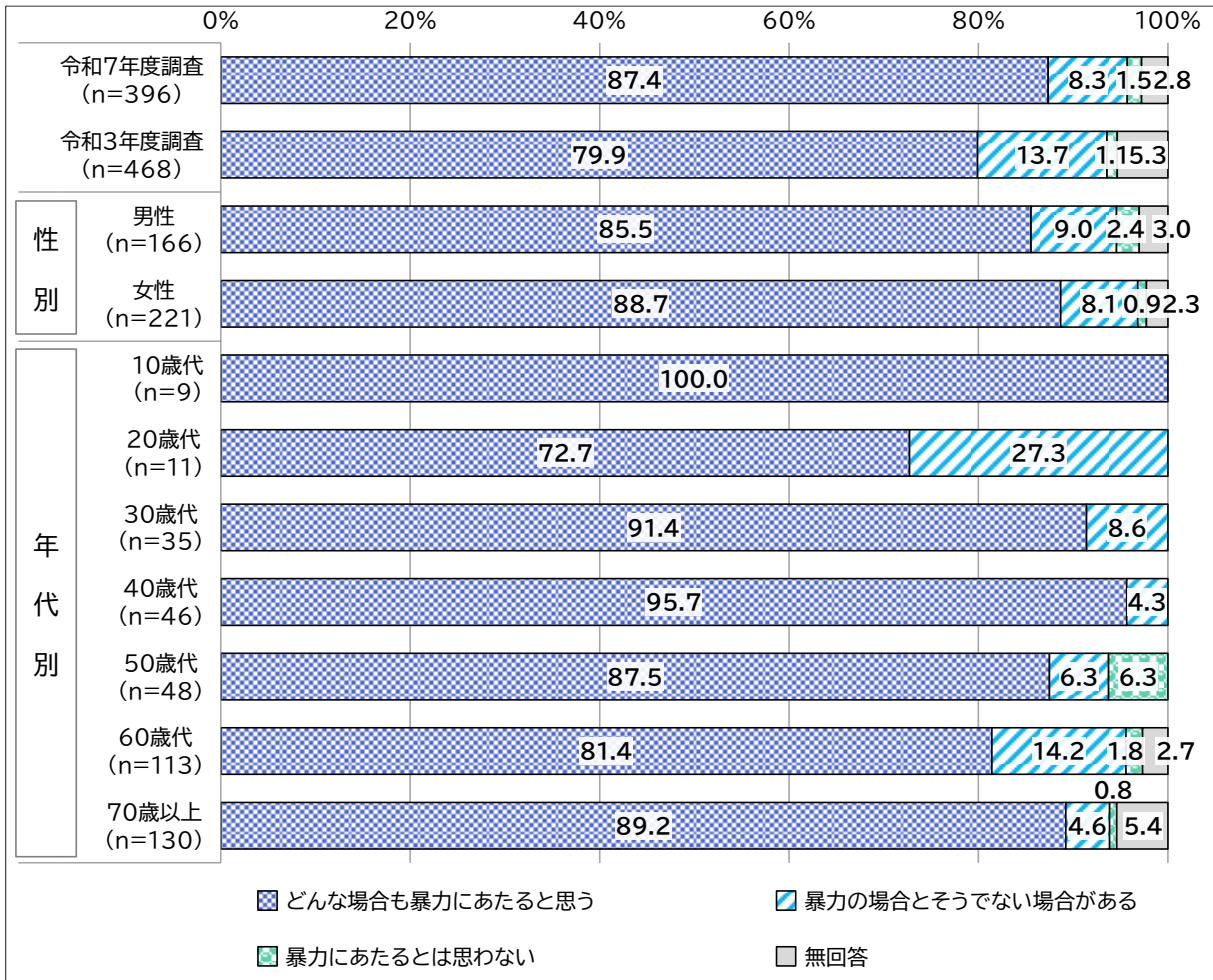
(1) パートナーをたたいたり殴ったりする

- パートナーをたたいたり殴ったりするという行為については、「どんな場合も暴力にあたると思う」が 84.3%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」12.4%、「暴力にあたるとは思わない」0.8%となっています。
- 前回調査との比較では、「どんな場合も暴力にあたると思う」が高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 性別及び年代別でも、「どんな場合も暴力にあたると思う」が最も高く、特に 20 歳代及び 40 歳代では 9 割を超えています。また、30 歳代では「暴力の場合とそうでない場合がある」が 2 割を超えており、他の年代と比べて高くなっています。



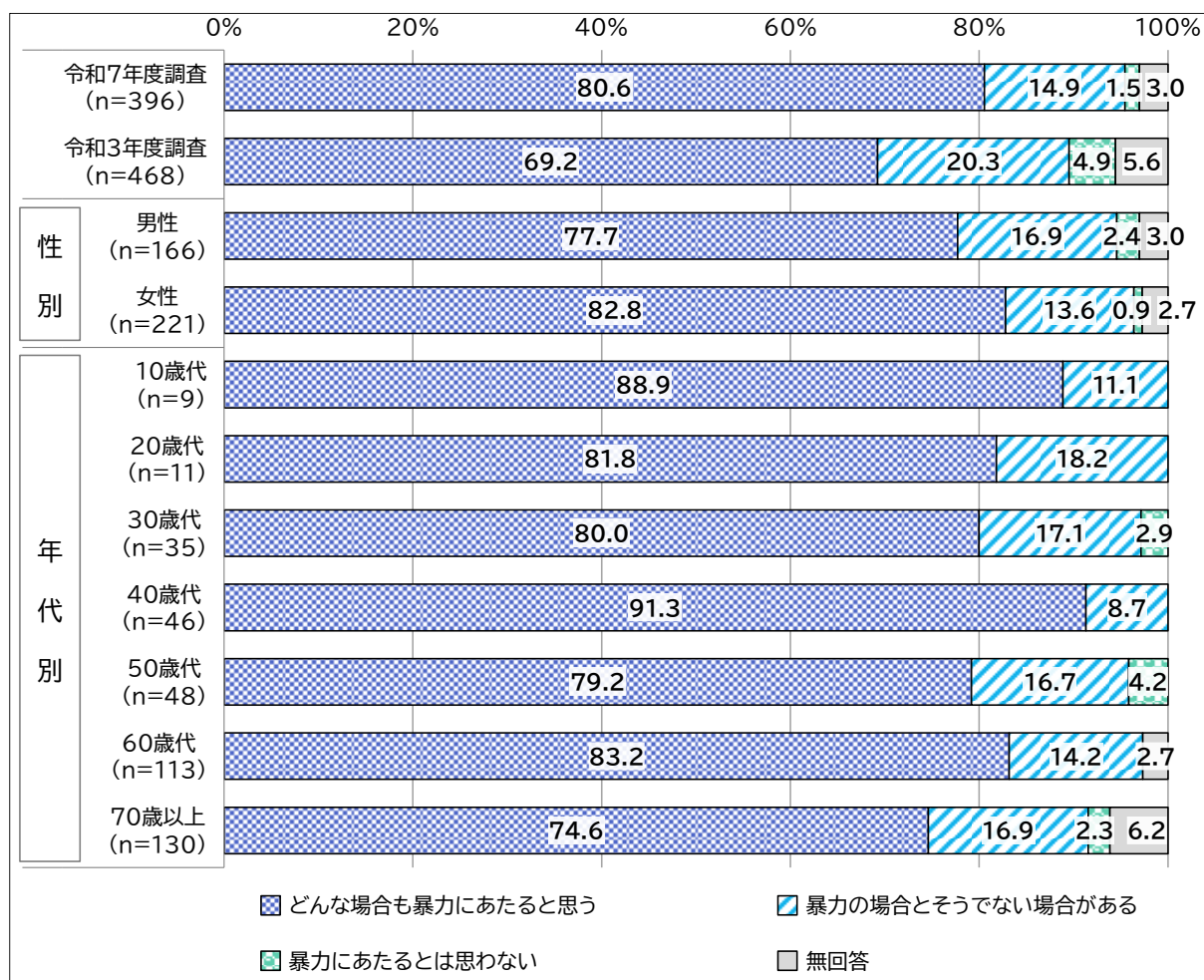
(2) ものを投げつける

- ものを投げつけるという行為については、「どんな場合も暴力にあたると思う」が 87.4% と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」8.3%、「暴力にあたるとは思わない」1.5%となっています。
- 性別及び年代別でも、「どんな場合も暴力にあたると思う」が最も高く、特に 30 歳代～40 歳代では 9 割を超えています。また、20 歳代では「暴力の場合とそうでない場合がある」が 2 割を超えており、他の年代と比べて高くなっています。



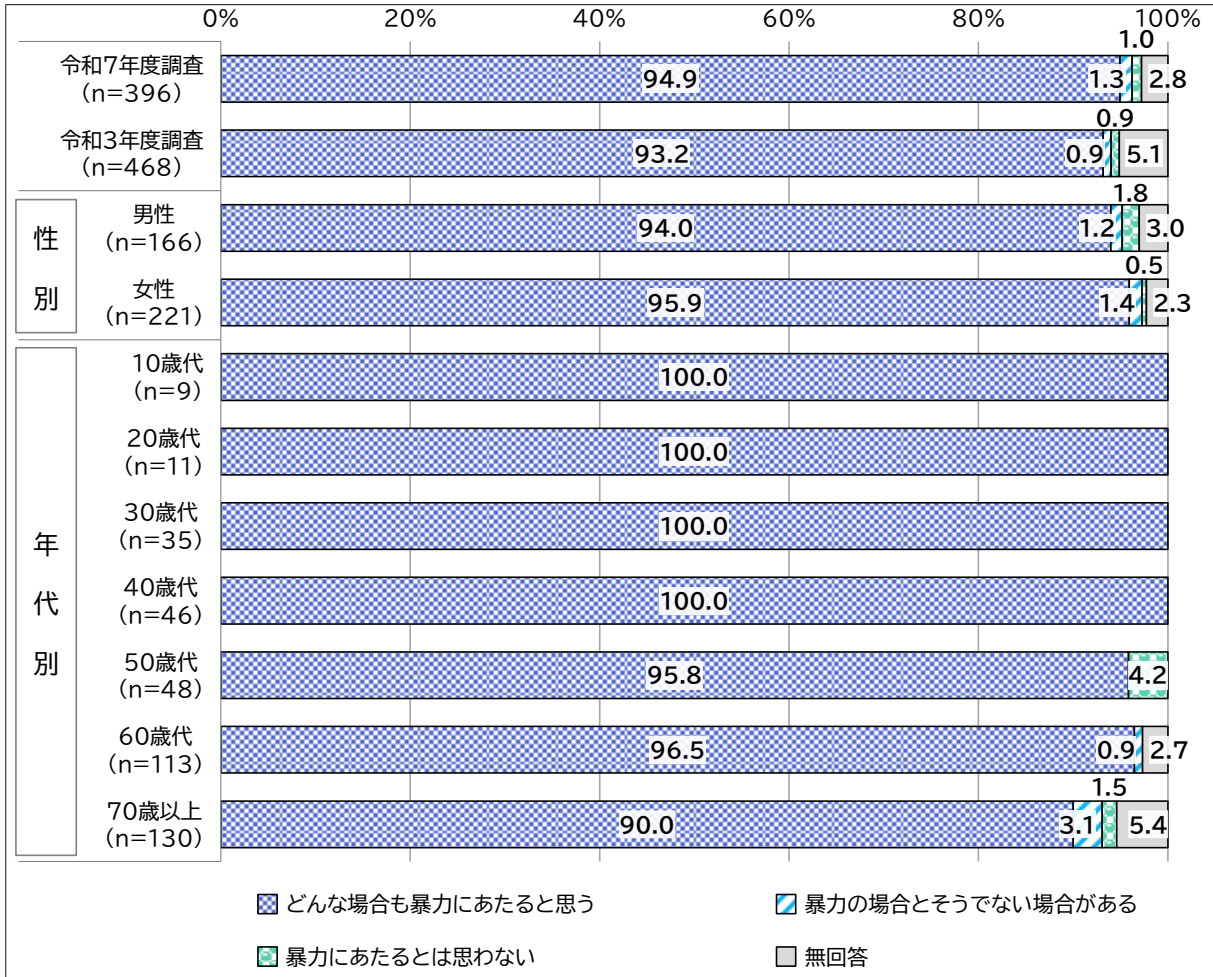
(3) 殴るふりをして、おどす

- 殴るふりをして、おどすという行為については、「どんな場合も暴力にあたると思う」が80.6%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」14.9%、「暴力にあたるとは思わない」1.5%となっています。
- 前回調査との比較では、「どんな場合も暴力にあたると思う」が11.4ポイント高くなっています。
- 性別及び年代別でも、「どんな場合も暴力にあたると思う」が最も高く、特に40歳代では9割を超えています。



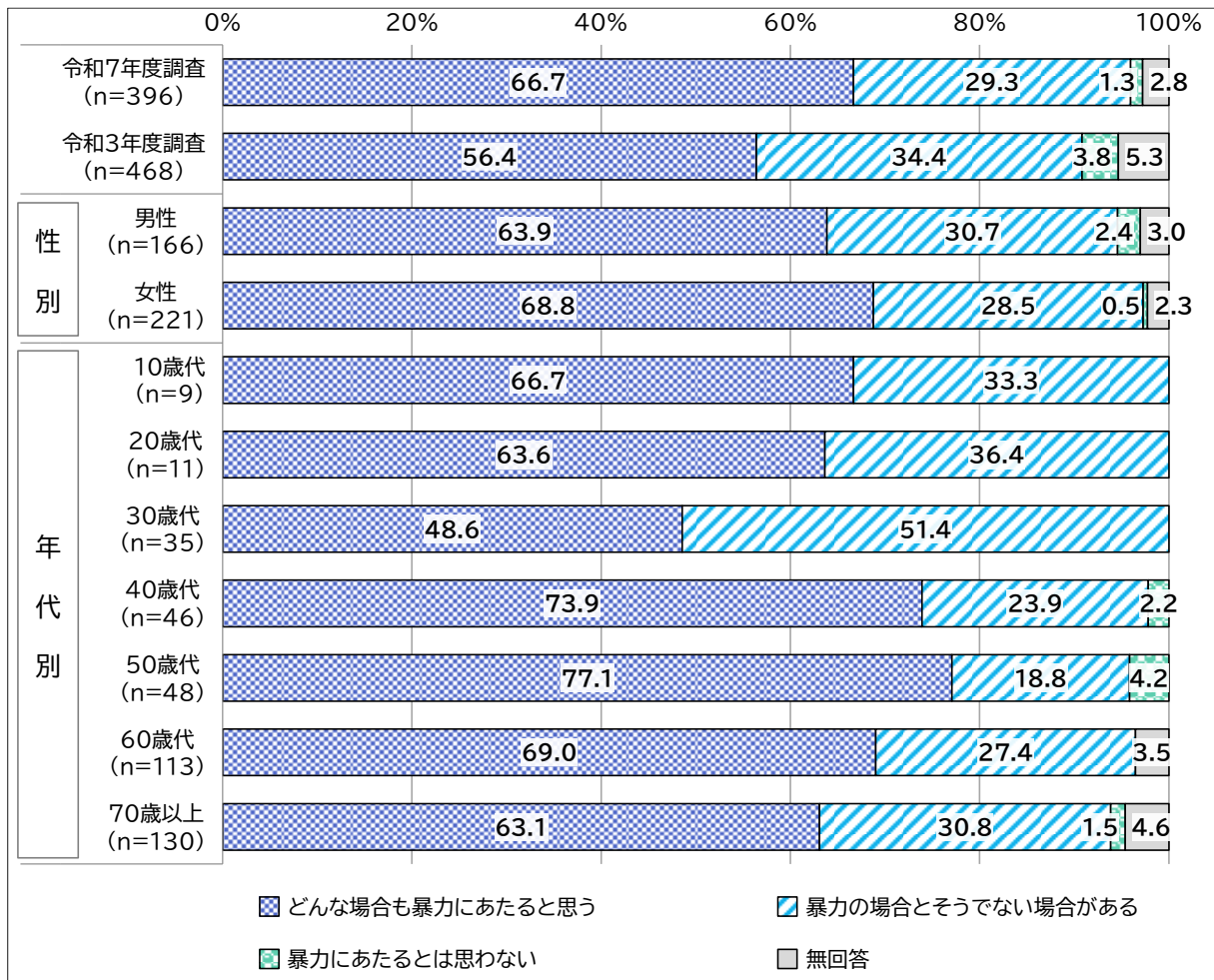
(4) 刃物などを突きつけて、おどす

- 刃物などを突きつけて、おどすという行為については、「どんな場合も暴力にあたると思う」が 94.9%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」1.3%、「暴力にあたるとは思わない」1.0%となっています。
- 性別及び年代別でも、「どんな場合も暴力にあたると思う」が最も高く、9割を超えています。



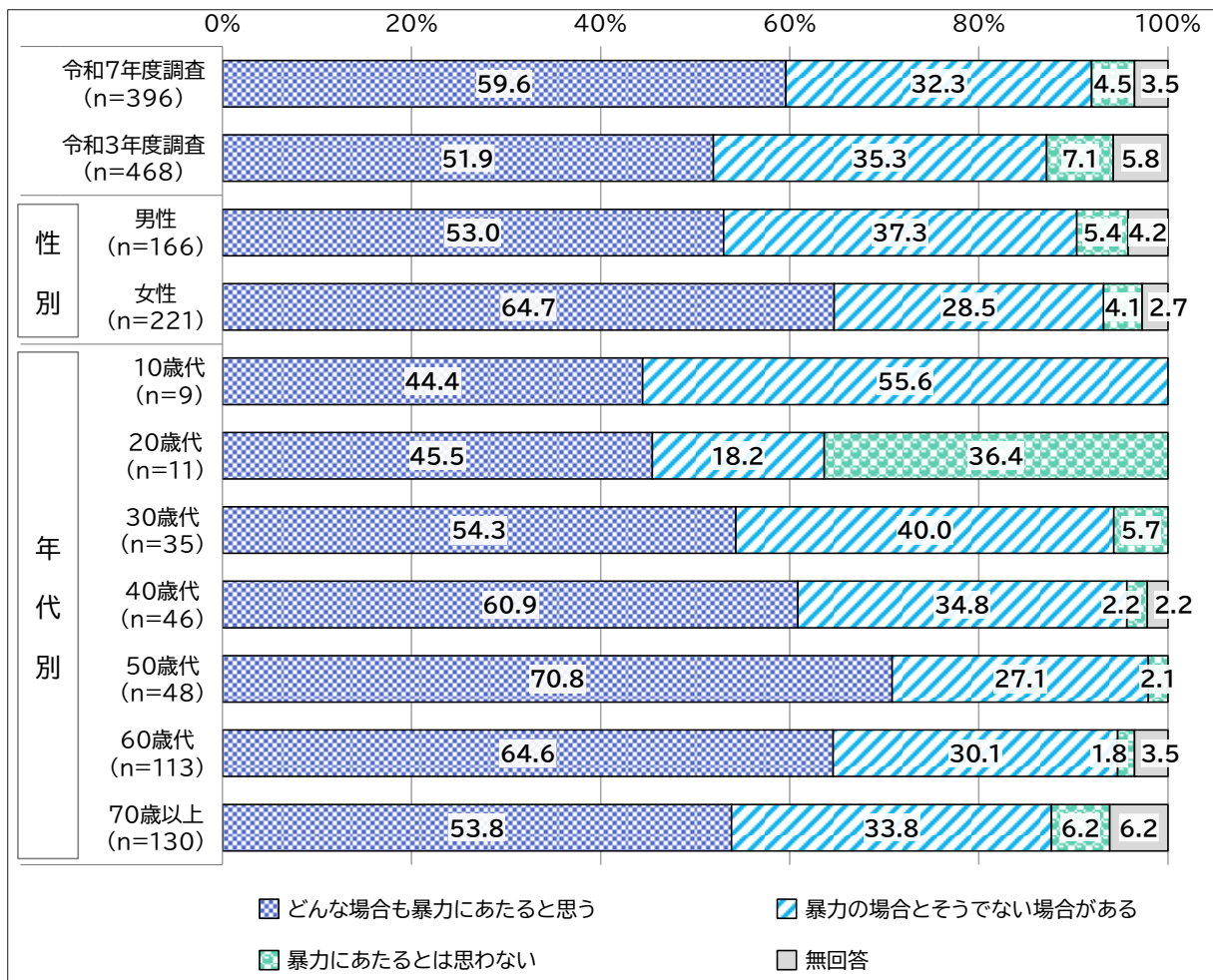
(5) 大声でどなる

- 大声でどなるという行為については、「どんな場合も暴力にあたると思う」が 66.7%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」29.3%、「暴力にあたるとは思わない」1.3%となっています。
- 前回調査との比較では、「どんな場合も暴力にあたると思う」が 10.3 ポイント高くなっています。
- 性別でみると、男女ともに「どんな場合も暴力にあたると思う」が最も高く、6割を超えています。
- 年代別でみると、30歳代では「暴力の場合とそうでない場合がある」、それ以外の年代では「どんな場合も暴力にあたると思う」が最も高くなっています。



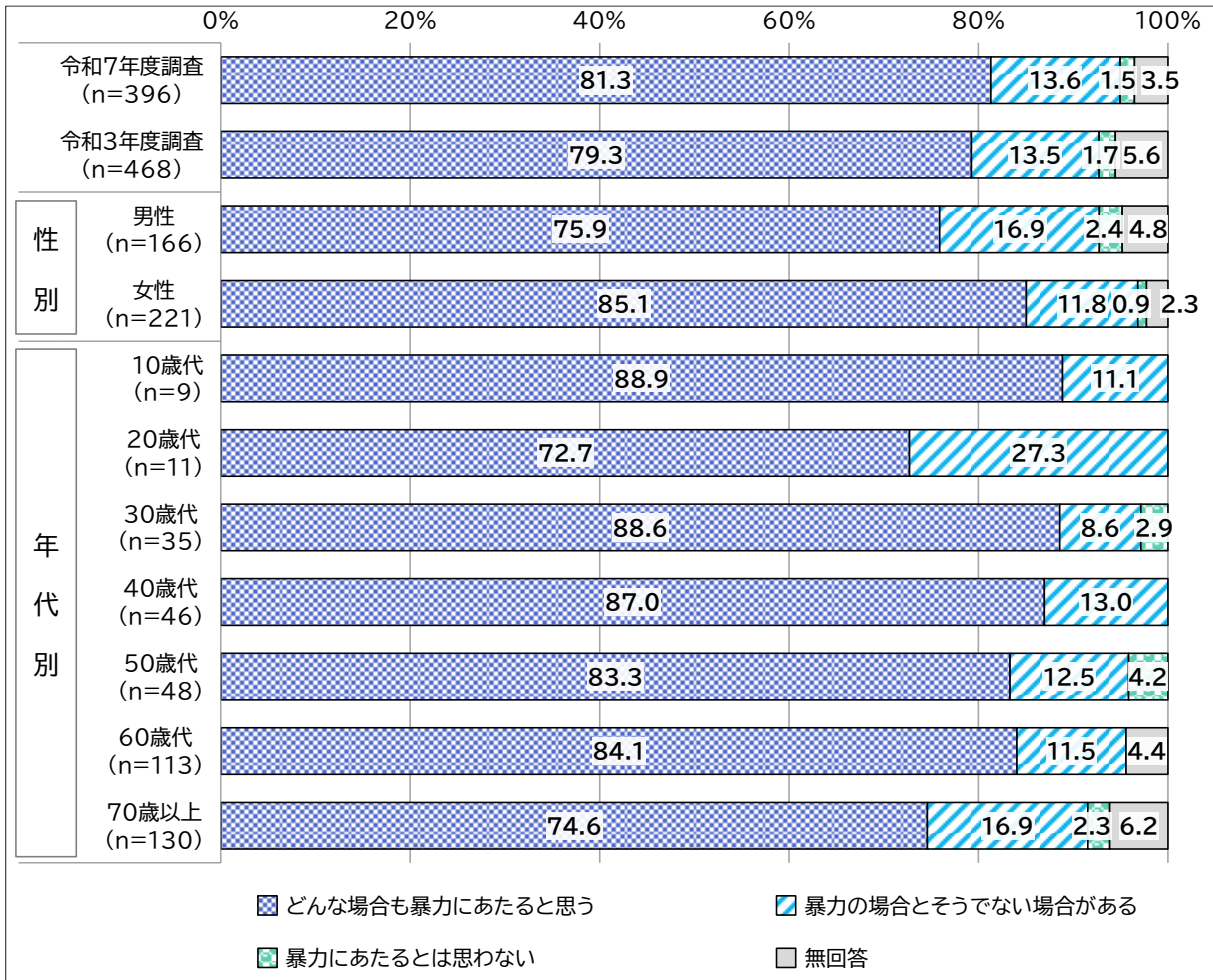
(6) 何を言っても無視し続ける

- 何を言っても無視し続けるという行為については、「どんな場合も暴力にあたると思う」が59.6%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」32.3%、「暴力にあたるとは思わない」4.5%となっています。
- 性別でみると、男女ともに「どんな場合も暴力にあたると思う」が最も高く、女性は男性と比べて11.7ポイント高くなっています。
- 年代別でみると、どの年代も「どんな場合も暴力にあたると思う」が最も高く、特に50歳代では7割を超えています。また、20歳代では「暴力にあたるとは思わない」が3割を超えており、他の年代と比べて高くなっています。



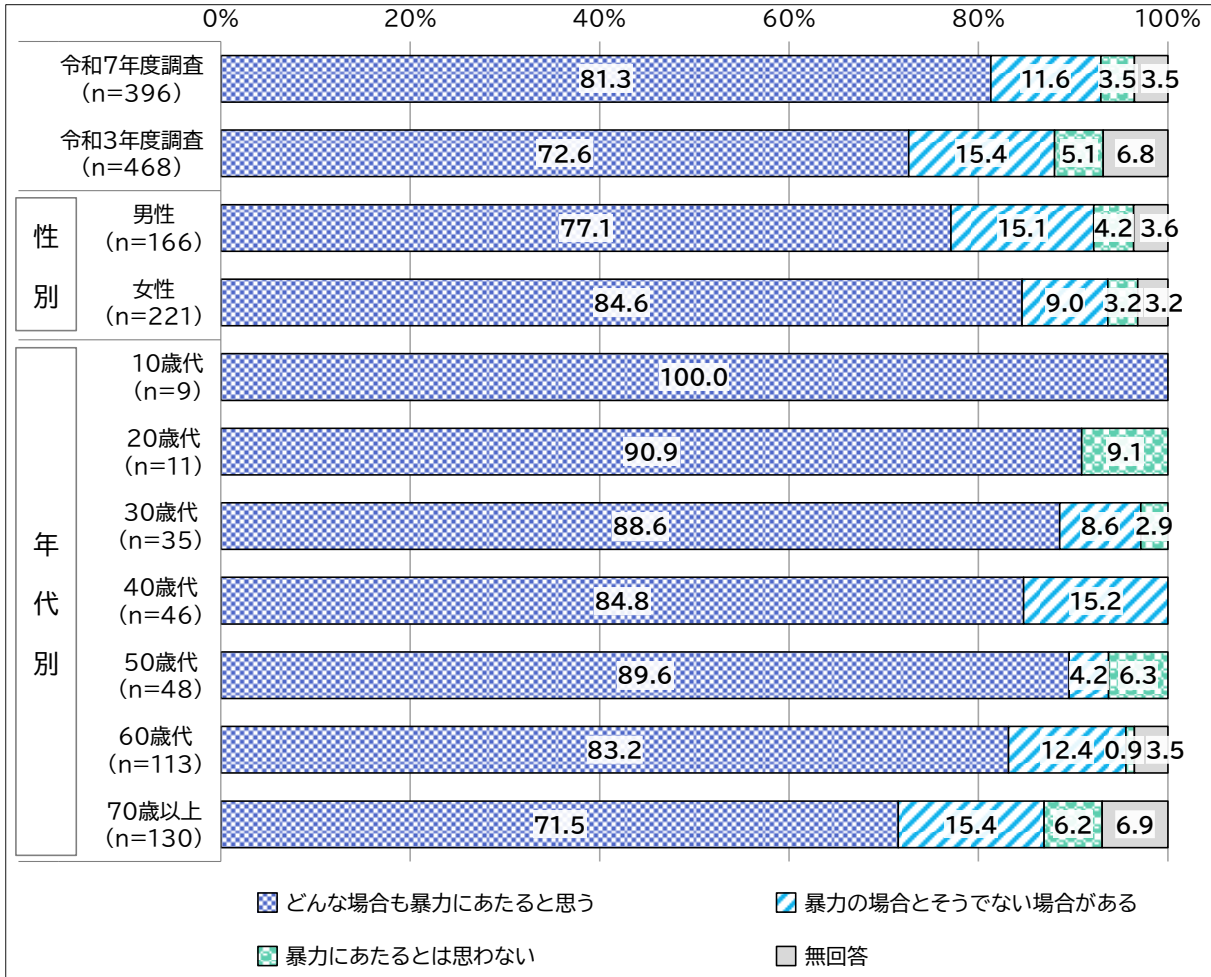
(7) 人格を否定するような暴言を吐く

- 人格を否定するような暴言を吐くという行為については、「どんな場合も暴力にあたると思う」が 81.3%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」13.6%、「暴力にあたるとは思わない」1.5%となっています。
- 性別及び年代別でも、「どんな場合も暴力にあたると思う」が最も高く、女性及び 30 歳代～60 歳代では 8 割を超えています。また、20 歳代では「暴力の場合とそうでない場合がある」が 2 割を超えており、他の年代と比べて高くなっています。



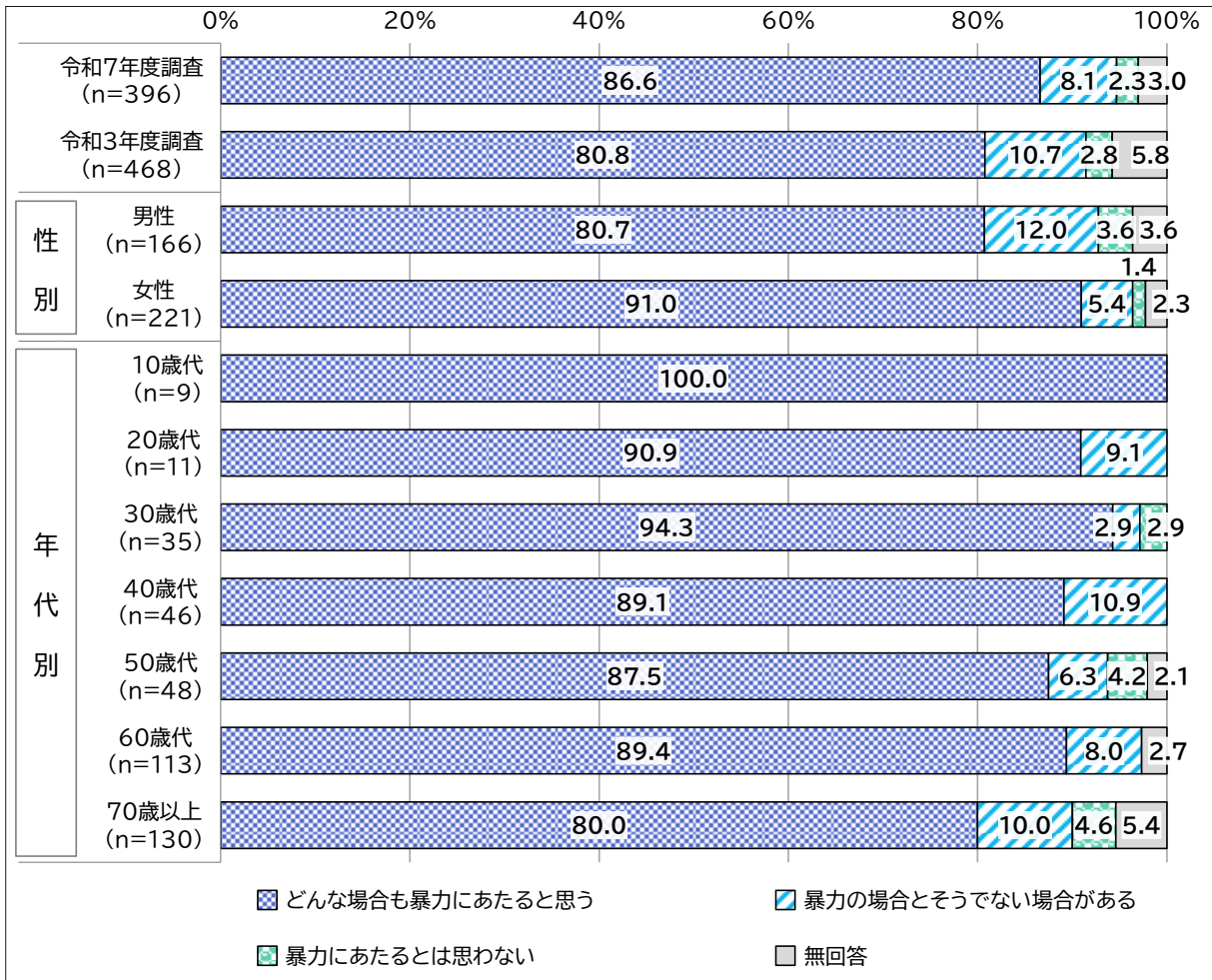
(8) 見たくないのにわいせつな動画や雑誌を見せる

- 見たくないのにわいせつな動画や雑誌を見せるという行為については、「どんな場合も暴力にあたると思う」が81.3%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」11.6%、「暴力にあたるとは思わない」3.5%となっています。
- 性別及び年代別でも、「どんな場合も暴力にあたると思う」が最も高く、特に20歳代では9割を超えています。



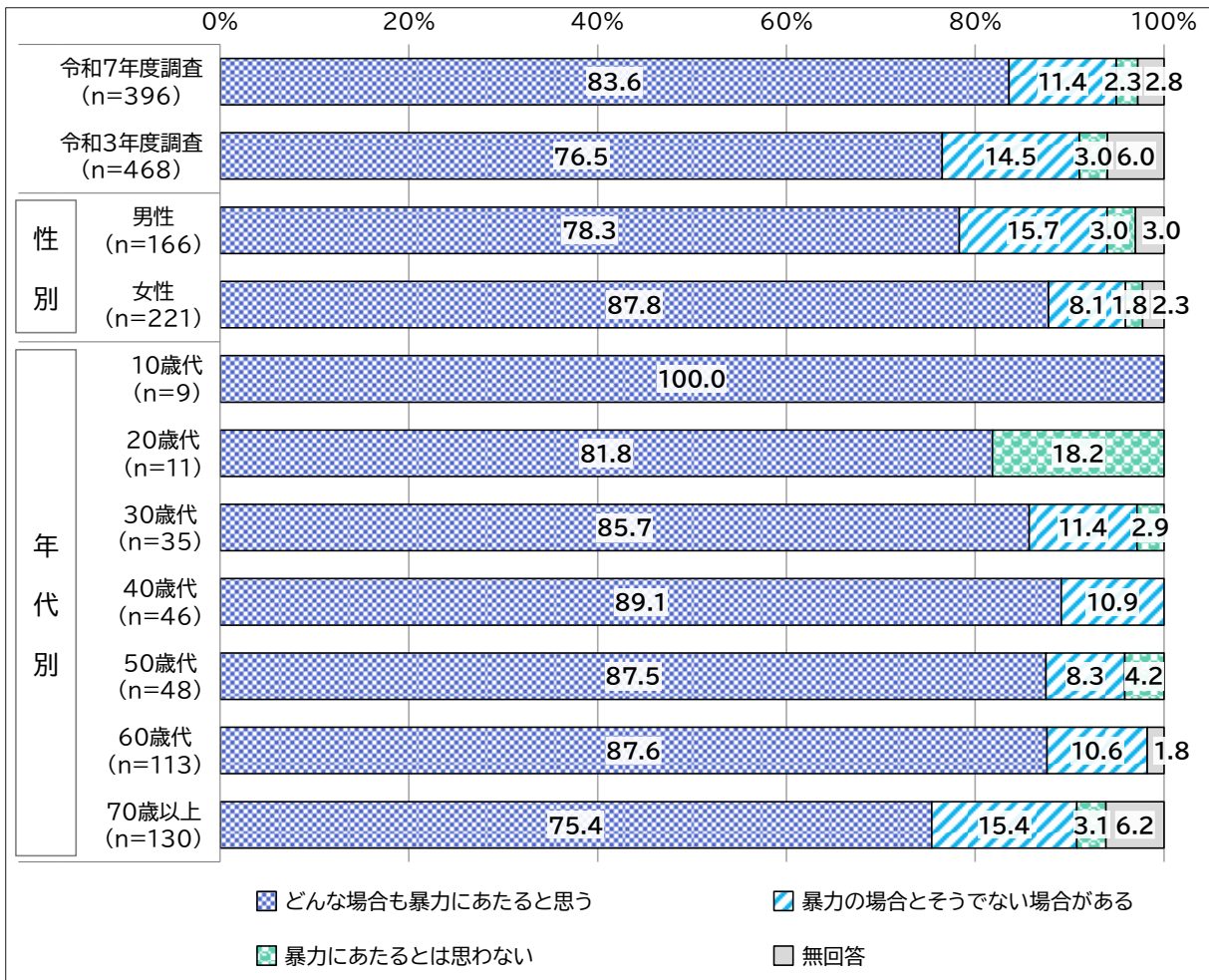
(9) いやがっているのに性的行為を強要する

- いやがっているのに性的行為を強要するという行為については、「どんな場合も暴力にあたると思う」が86.6%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」8.1%、「暴力にあたるとは思わない」2.3%となっています。
- 性別でみると、男女ともに「どんな場合も暴力にあたると思う」が最も高く、女性は男性と比べて10.3ポイント高くなっています。
- 年代別でみると、「どんな場合も暴力にあたると思う」が最も高く、特に20歳代～30歳代では9割を超えています。



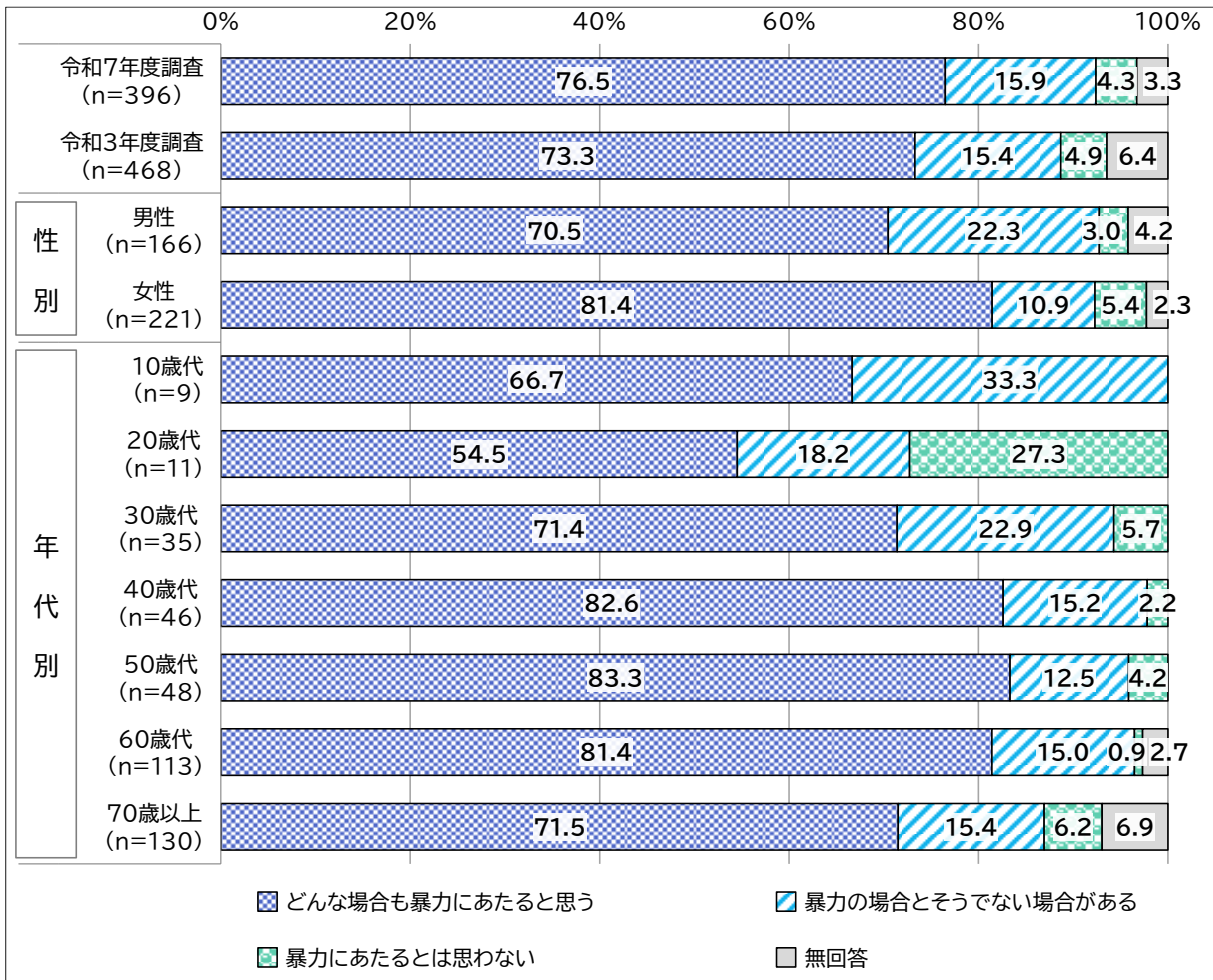
(10) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」という

- 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」という行為については、「どんな場合も暴力にあたると思う」が 83.6%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」11.4%、「暴力にあたるとは思わない」2.3%となっています。
- 性別でみると、男女ともに「どんな場合も暴力にあたると思う」が最も高く、女性は男性と比べて約 10 ポイント高くなっています。
- 年代別でみると、「どんな場合も暴力にあたると思う」が最も高く、特に 20 歳代～60 歳代では 8 割を超えています。また、20 歳代では「暴力にあたるとは思わない」が他の年代に比べて高くなっています。



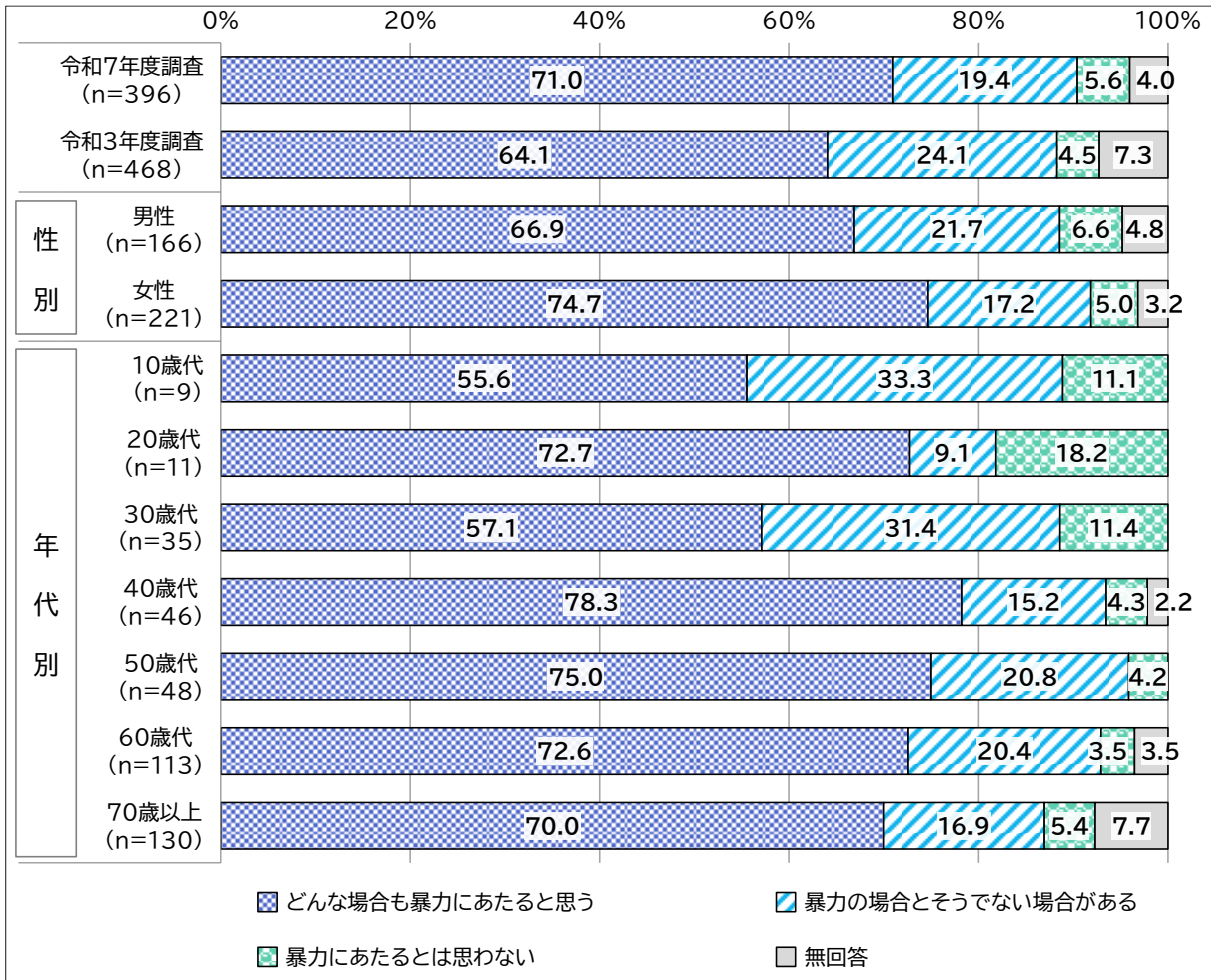
(11) 生活費を渡さない

- 生活費を渡さないという行為については、「どんな場合も暴力にあたると思う」が76.5%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」15.9%、「暴力にあたるとは思わない」4.3%となっています。
- 性別でみると、男女ともに「どんな場合も暴力にあたると思う」が最も高くなっています。また、女性は男性と比べて「どんな場合も暴力にあたると思う」が高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が低くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 年代別でみると、どの年代も「どんな場合も暴力にあたると思う」が最も高く、特に40歳代～60歳代では8割を超えています。また、20歳代では「暴力にあたるとは思わない」が他の年代に比べて高くなっています。



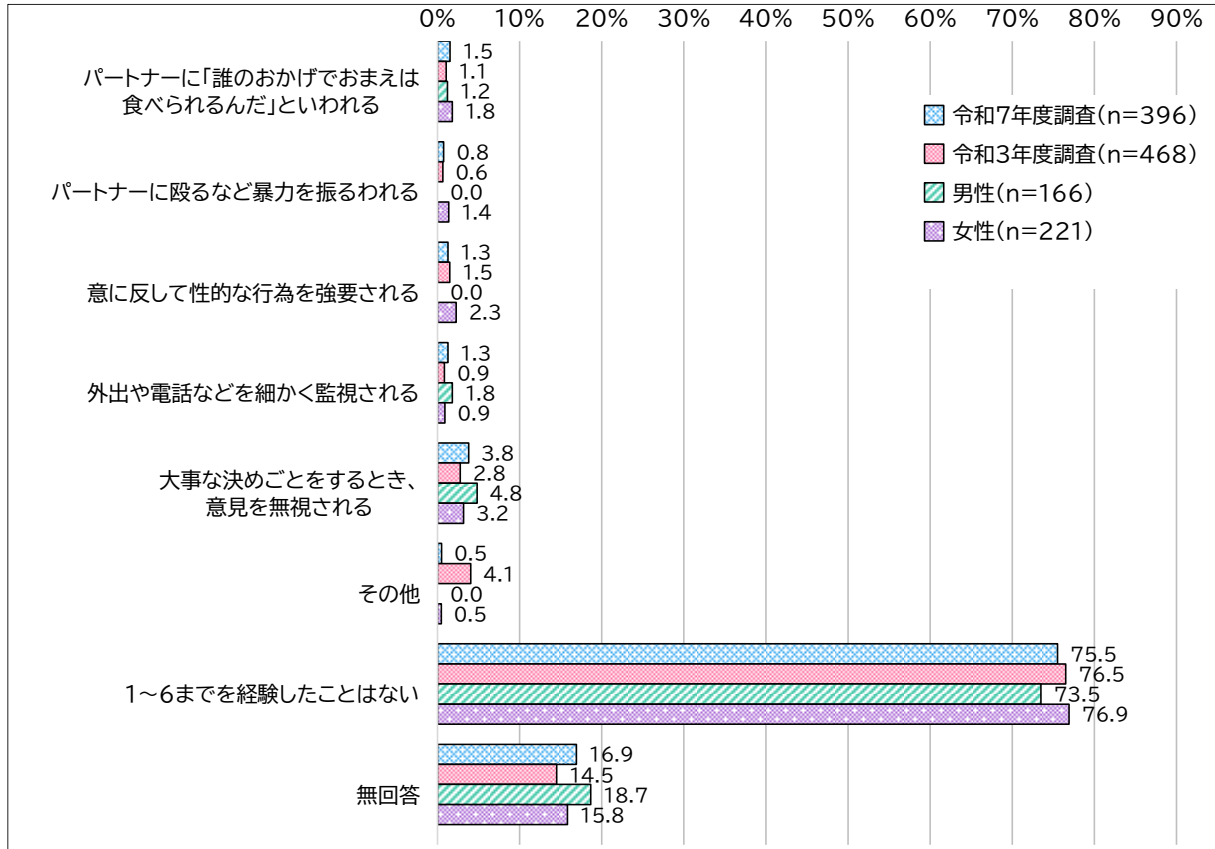
(12) 交友関係や電話、メールを細かくチェックする

- 交友関係や電話、メールを細かくチェックするという行為については、「どんな場合も暴力にあたると思う」が71.0%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」19.4%、「暴力にあたるとは思わない」5.6%となっています。
- 性別及び年代別でも、「どんな場合も暴力にあたると思う」が最も高くなっています。また、30歳代では「暴力の場合とそうでない場合がある」が3割を超えており、他の年代と比べて高くなっています。



問23 夫婦間（恋人間も含む。）での次の行為について、あなたがこの1年以内に経験したことを選んでください。（複数回答）

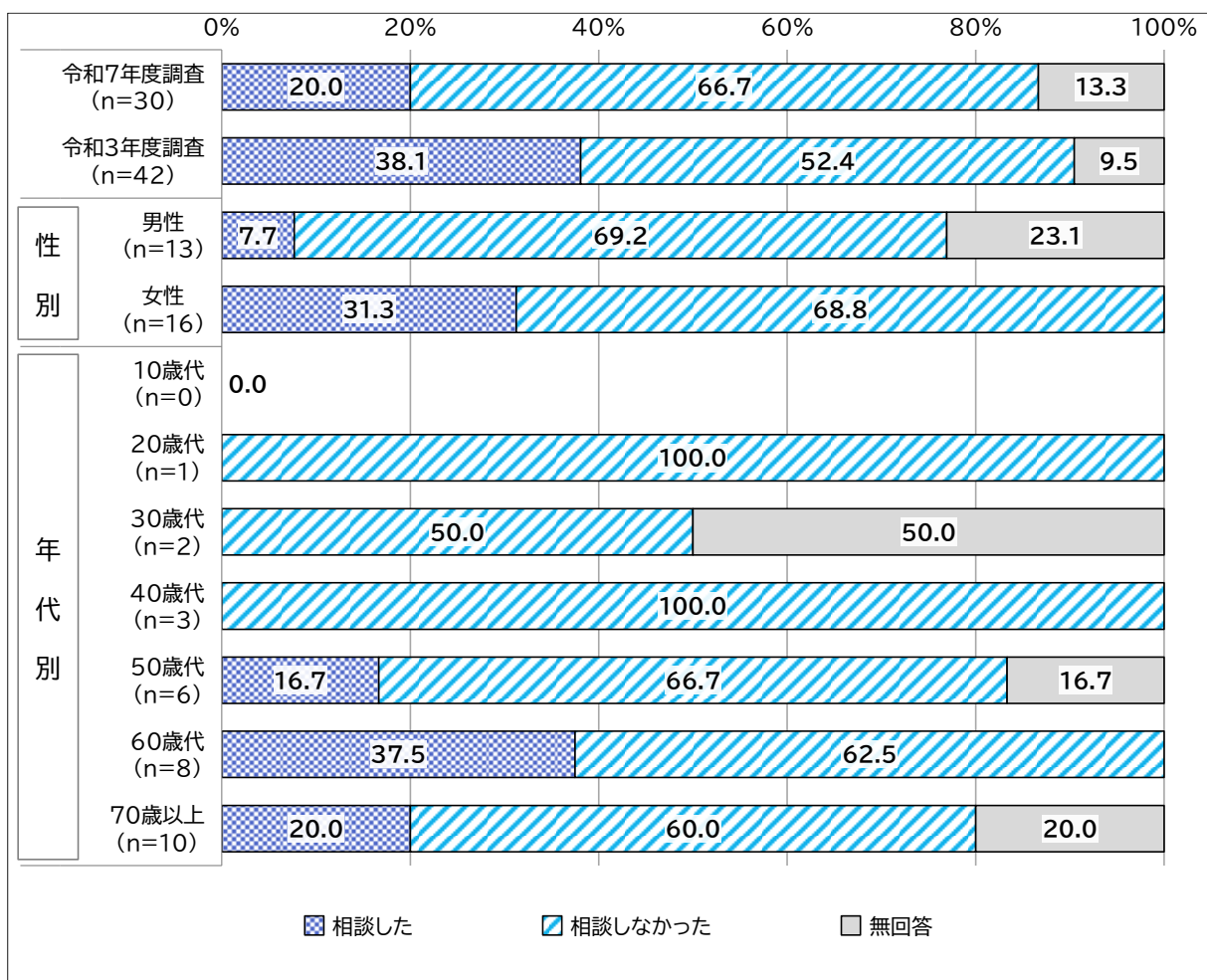
- この1年以内に夫婦間で経験した行為については、「1～6までを経験したことはない」が75.5%と最も高く、それ以外の行為の経験率はいずれも1割以下となっています。
- 性別でも、「1～6までを経験したことはない」が最も高く、7割を超えています。



【問23で「1.」～「6.」に1つでも答えた方のみ】

問24 あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(単数回答)

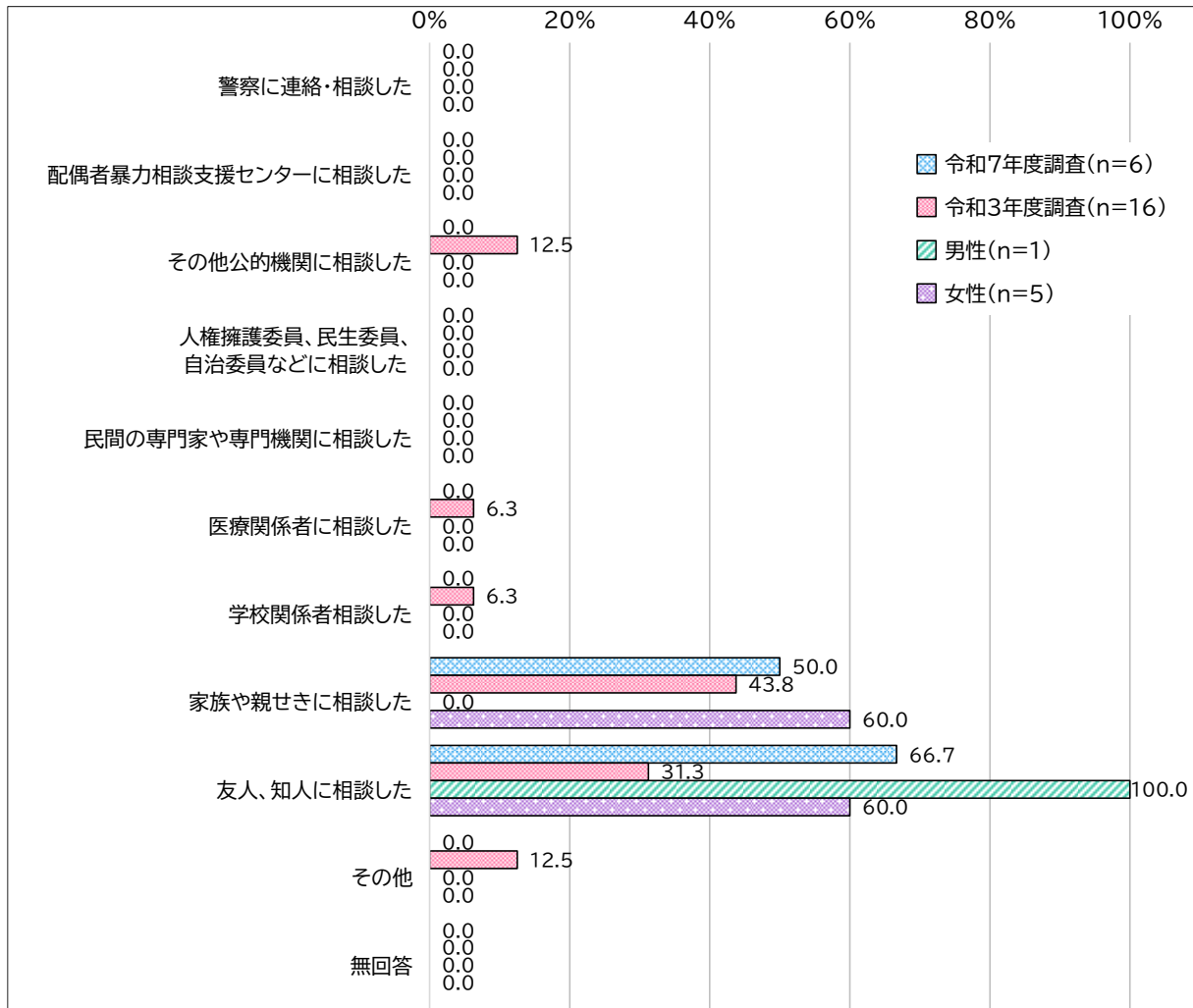
- 夫婦間で受けた行為の相談状況については、「相談した」が20.0%、「相談しなかった」が66.7%となっており、「相談しなかった」が「相談した」を上回っています。
- 前回調査との比較では、「相談した」が低く、「相談しなかった」が高くなっており、10ポイント以上差が生じています。
- 性別でみると、男女ともに「相談しなかった」が6割を超えており、「相談した」を上回っていますが、女性は男性と比べて「相談した」が23.6ポイント高くなっています。
- 年代別については、回答数が少ないため参考程度。



【問24で「1. 相談した」と答えた方のみ】

問25 あなたが相談した人（場所）を教えてください。（複数回答）

○夫婦間で受けた行為の相談先については、回答数が少ないため参考程度。

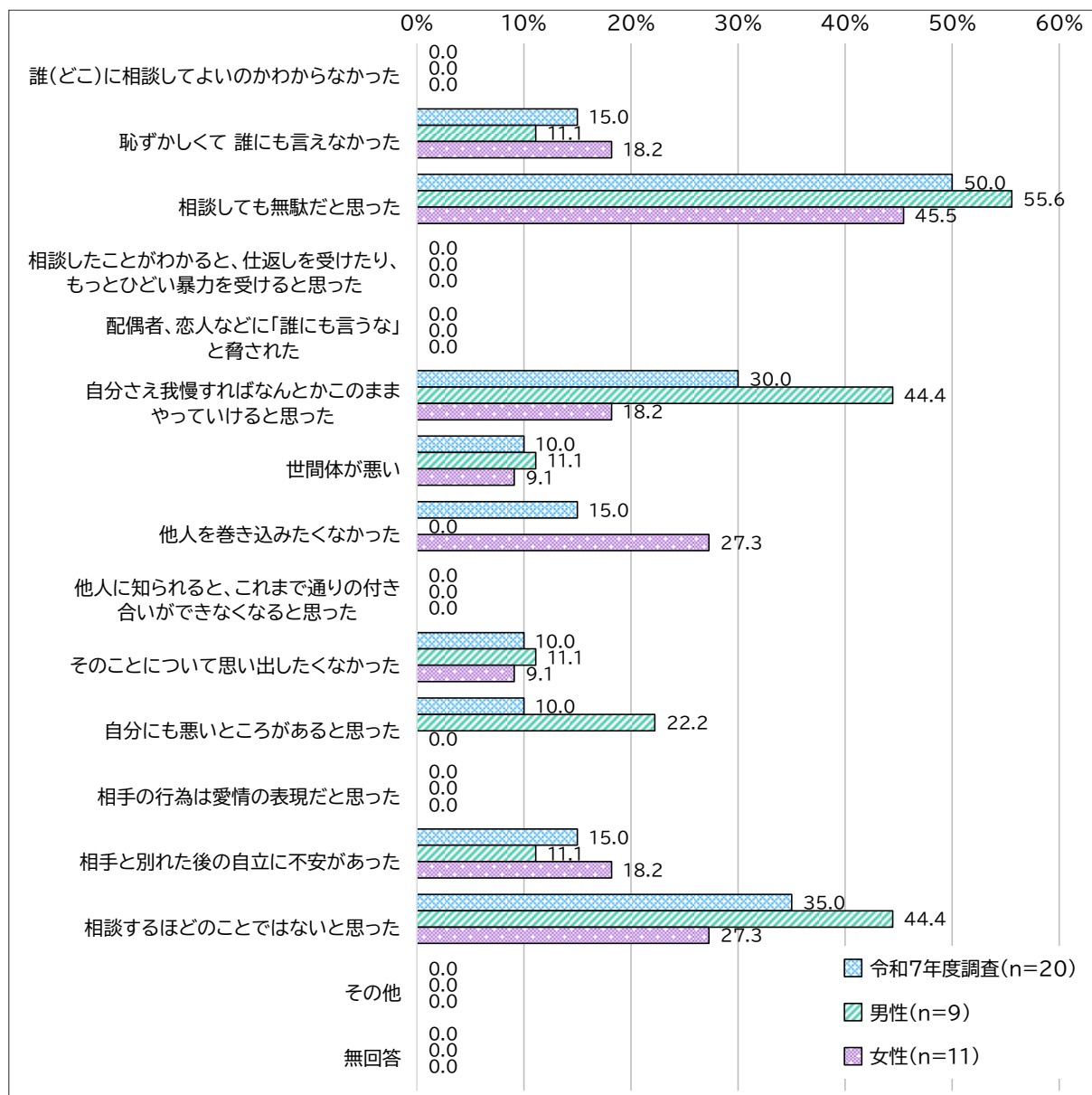


【問24で「2. 相談しなかった」と答えた方のみ】

問26 相談しなかった理由は何ですか。(複数回答)

○夫婦間で受けた行為を相談しなかった理由については、「相談しても無駄だと思った」が50.0%と最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思った」35.0%、「自分さえ我慢すればなんとかこのままやっていたらよかった」30.0%となっています。

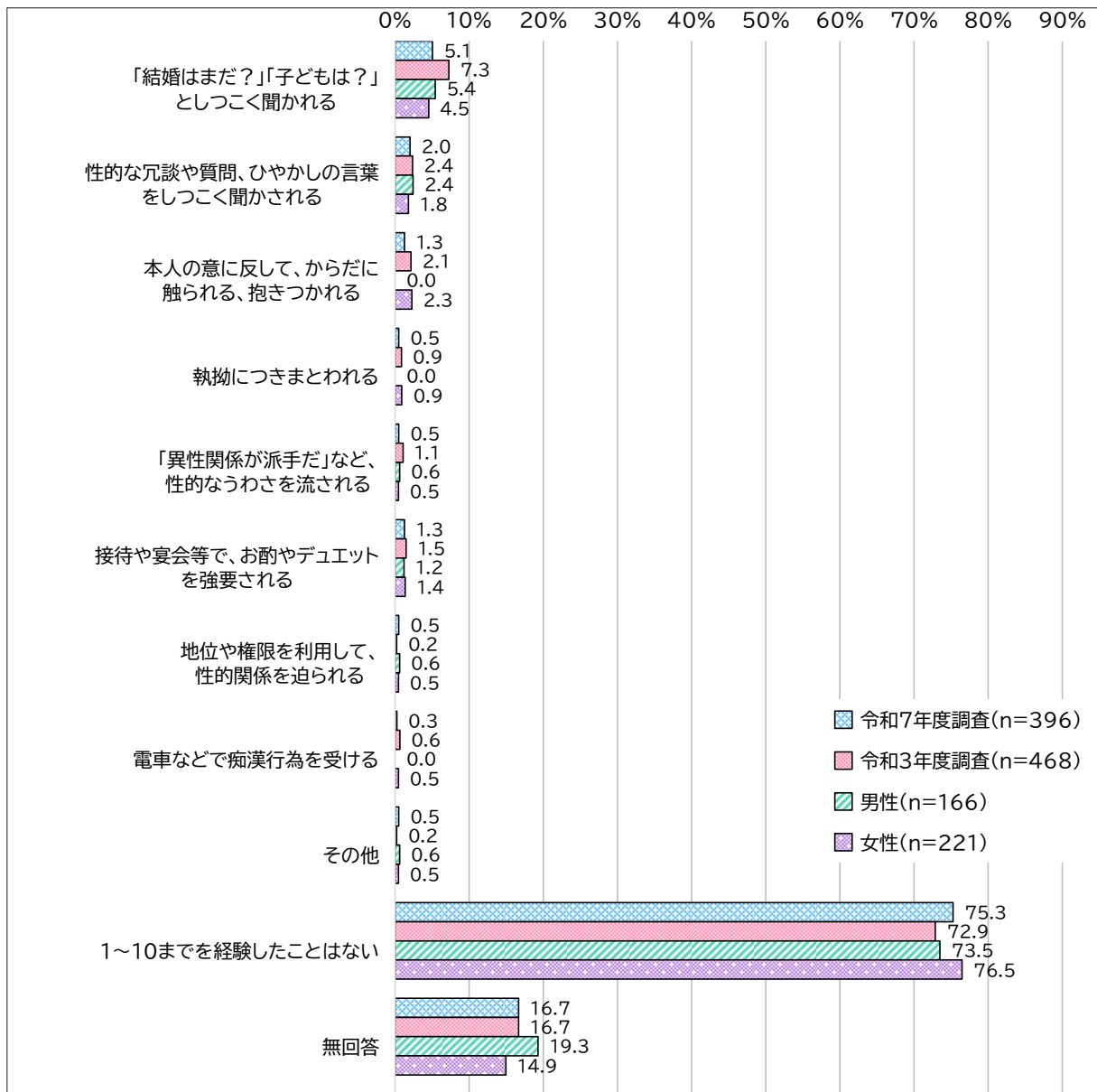
○性別については、回答数が少ないため参考程度。



9. 男女の人権について

問27 あなたは職場や地域社会などで次のような経験をしたことがありますか。この1年以内に経験したことを選んでください。(複数回答)

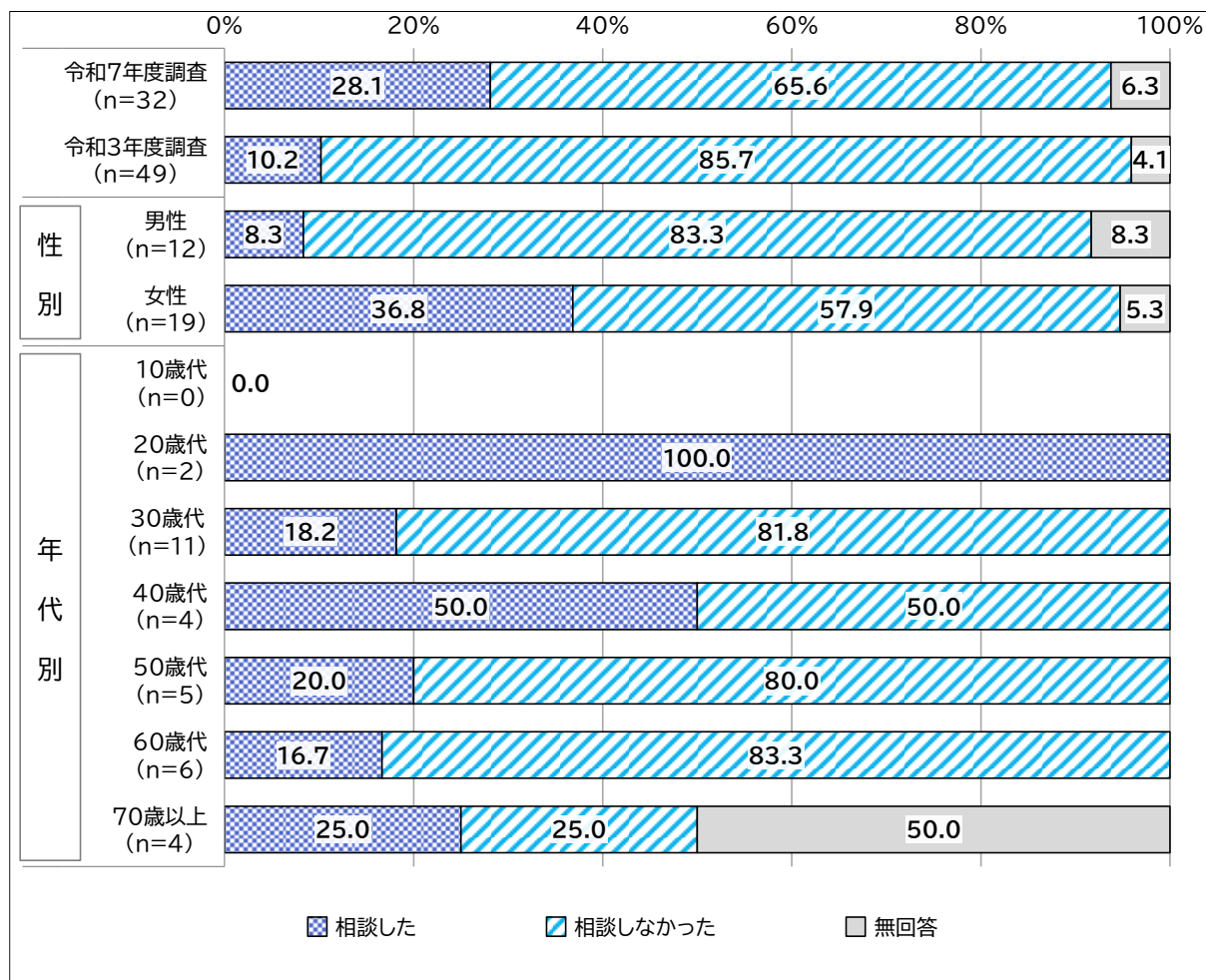
- この1年以内に職場や地域社会で受けた行為については、「1～10 までを経験したことはない」が 75.3%と最も高く、それ以外の行為の経験率はいずれも1割以下となっています。
- 性別でも、男女ともに「1～10 までを経験したことはない」が最も高く、7割を超えています。



【問27で「1.」～「10.」に1つでも答えた方のみ】

問28 あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(単数回答)

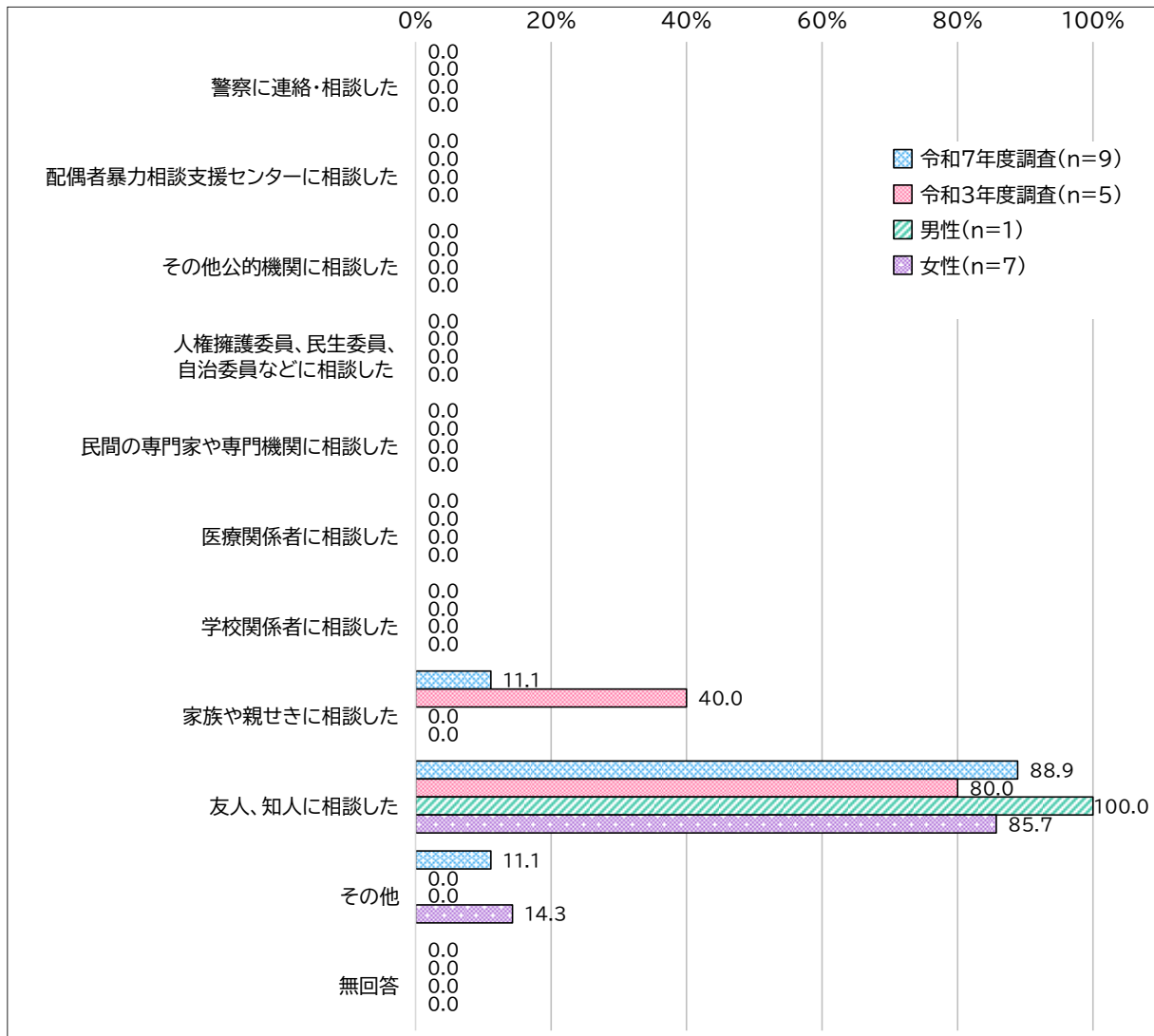
- 職場や地域社会で受けた行為の相談状況については、「相談した」が28.1%、「相談しなかった」が65.6%となっており、「相談しなかった」が「相談した」を上回っています。
- 前回調査との比較では、「相談した」が高く、「相談しなかった」が低くなっており、15ポイント以上差が生じています。
- 性別で見ると、男女ともに「相談しなかった」が「相談した」を上回っており、男性は「相談しなかった」が8割を超えています。また、男性は女性と比べて「相談した」が低く、「相談しなかった」が高くなっており、25ポイント以上差が生じています。
- 年代別については、回答数が少ないため参考程度。



【問28で「1. 相談した」と答えた方のみ】

問29 あなたが相談した人（場所）を教えてください。（複数回答）

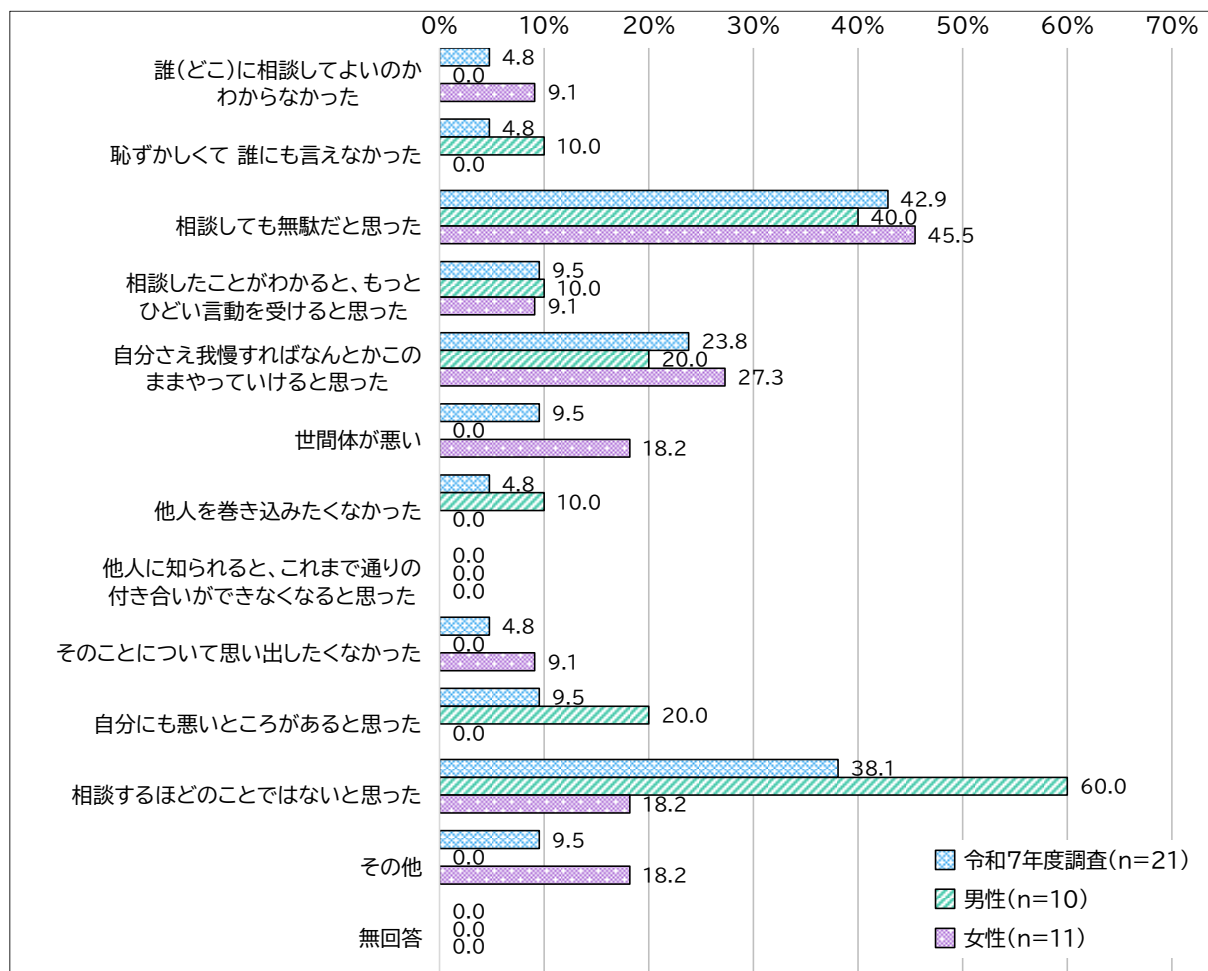
○職場や地域社会で受けた行為の相談先については、回答数が少ないため参考程度。



【問28で「2. 相談しなかった」と答えた方のみ】

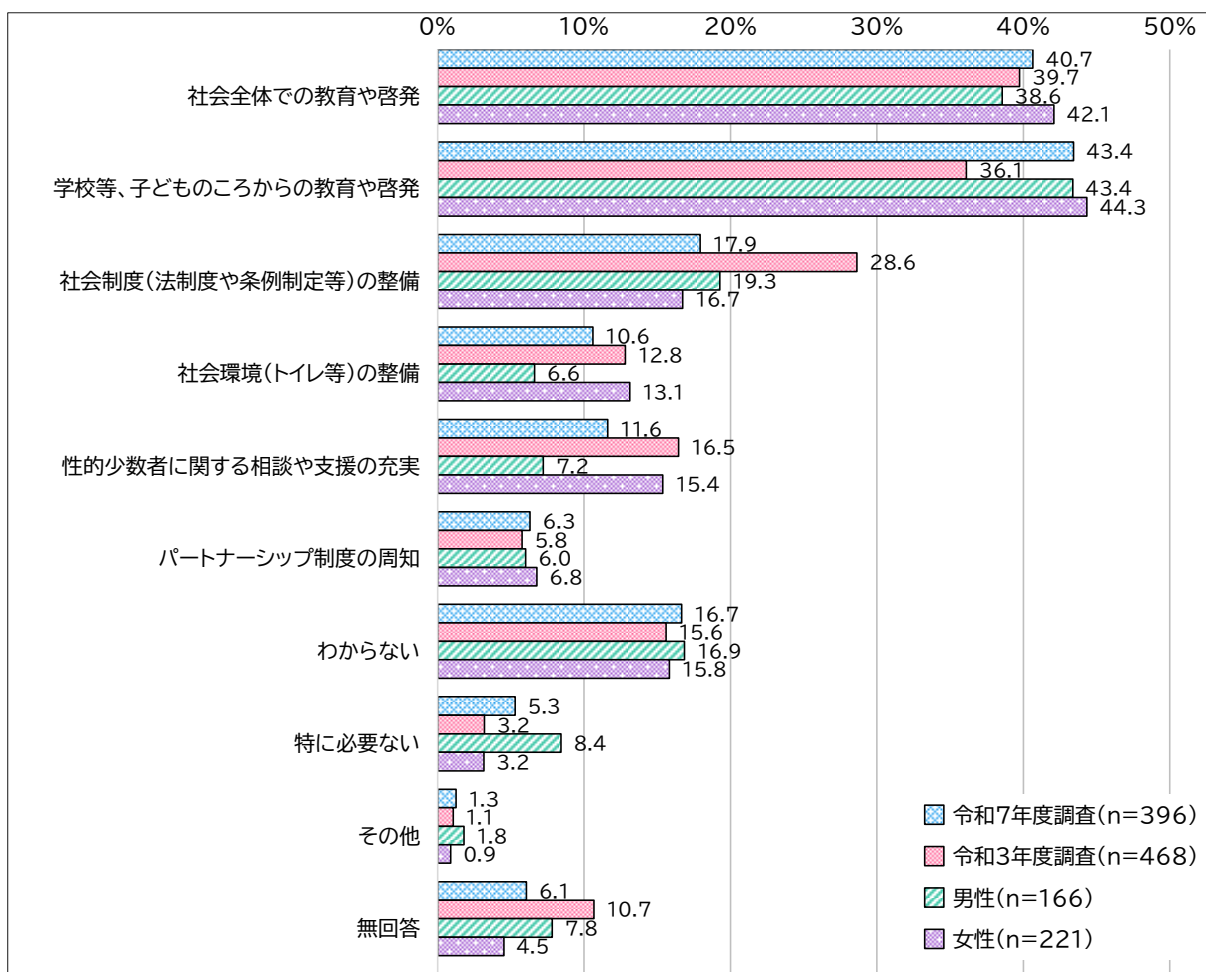
問30 相談しなかった理由は何ですか。(複数回答)

- 職場や地域社会で受けた行為を相談しなかった理由については、「相談しても無駄だと思った」が42.9%と最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思った」38.1%、「自分さえ我慢すればなんとかこのままやっていけると思った」23.8%となっています。
- 性別でみると、男性は「相談するほどのことではないと思った」、女性は「相談しても無駄だと思った」が最も高くなっています。また、男性は女性と比べて「自分にも悪いところがあると思った」「相談するほどのことではないと思った」が高く、「世間体が悪い」「その他」が低くなっており、15ポイント以上差が生じています。



問31 LGBTQなどの性的マイノリティの人たちの人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

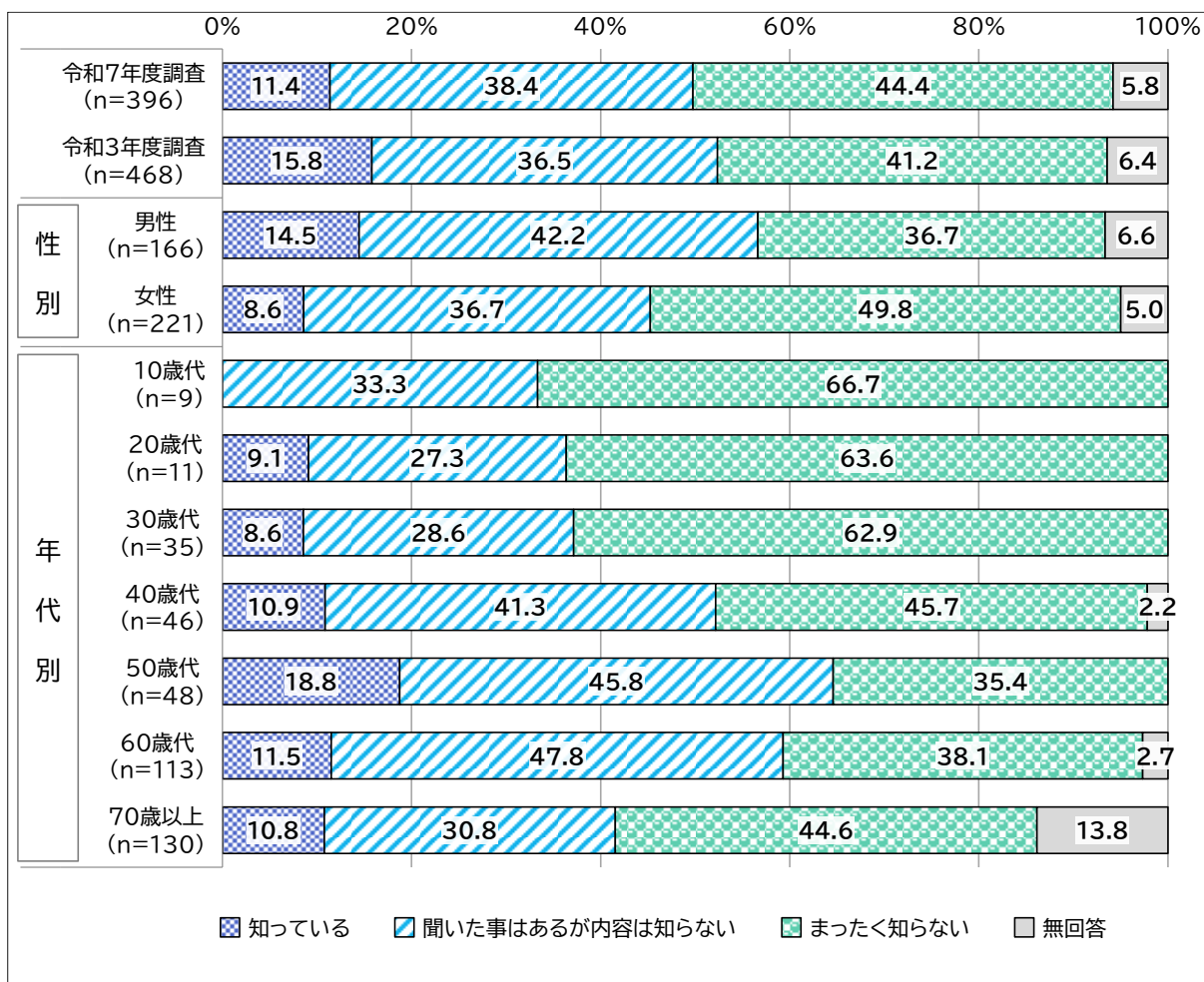
- LGBTQなどの性的マイノリティの人たちの人権を守るために必要なことについては、「学校等、子どもたちからの教育や啓発」が43.4%と最も高く、次いで「社会全体での教育や啓発」40.7%、「社会制度（法制度や条例制定等）の整備」17.9%となっています。
- 前回調査との比較では、「社会制度（法制度や条例制定等）の整備」が10.7ポイント低くなっています。
- 性別でみると、男女ともに「社会全体での教育や啓発」「学校等、子どもたちからの教育や啓発」が上位を占めています。



10. 女性の活躍について

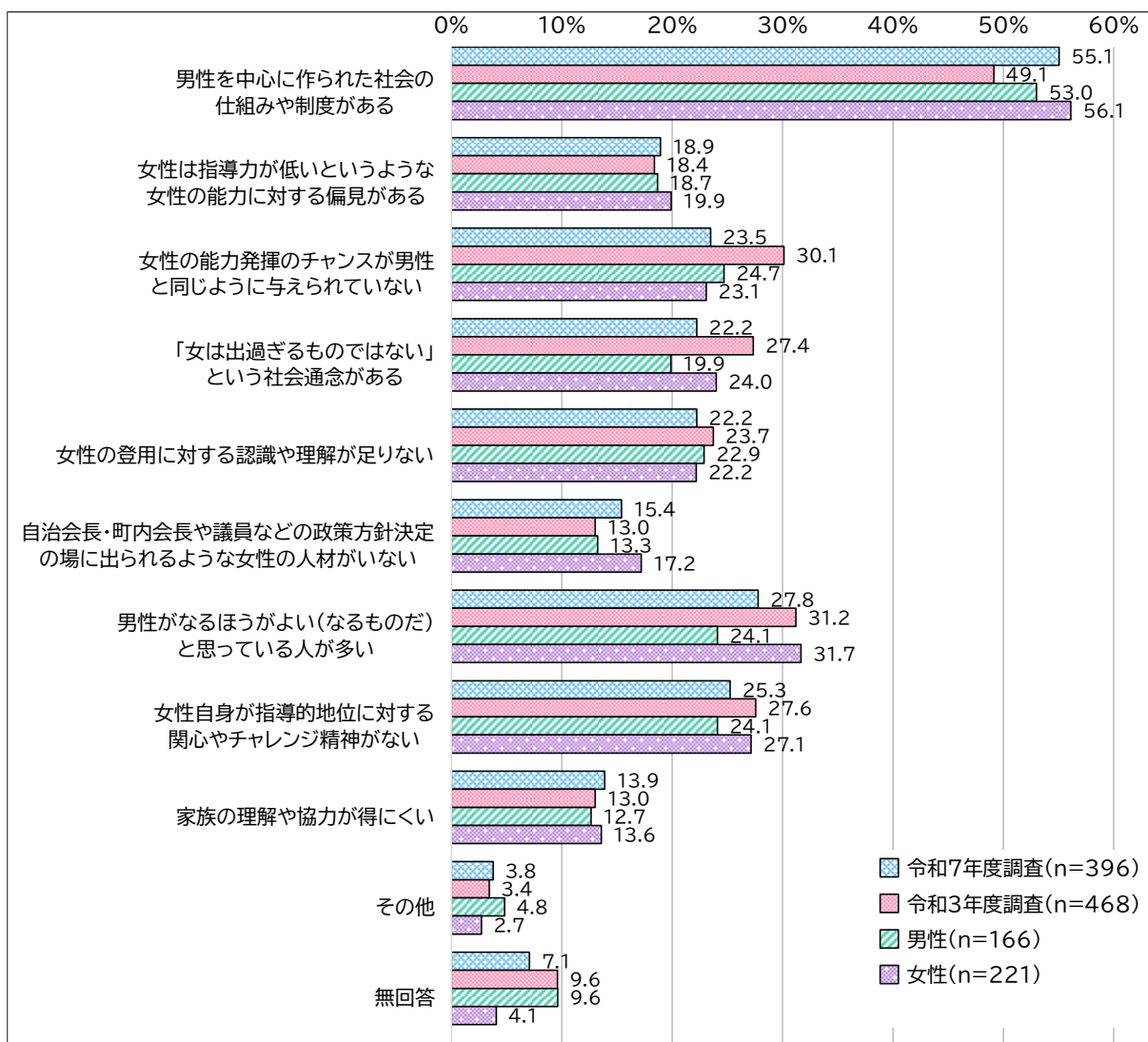
問32 あなたは、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）が成立し、平成28年4月より施行されていることを知っていますか。
（単数回答）

- 「女性活躍推進法」の認知度については、「まったく知らない」が44.4%と最も高く、次いで「聞いた事はあるが内容は知らない」38.4%、「知っている」11.4%となっており、内容まで把握している割合は1割程度となっています。
- 性別で見ると、男性は「聞いた事はあるが内容は知らない」、女性は「まったく知らない」が最も高くなっています。また、女性は男性と比べて「まったく知らない」が13.1ポイント高くなっています。
- 年代別で見ると、50歳代～60歳代では「聞いた事はあるが内容は知らない」、それ以外の年代では「まったく知らない」が最も高く、特に20歳代～30歳代では6割を超えています。



問3 3 女性の社会進出が進んでいますが、議員、審議会委員や役員・管理職などの指導的地位や自治会・町内会の長などに占める女性の割合はまだまだ低いのが現状です。このような指導的地位等に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。(複数回答)

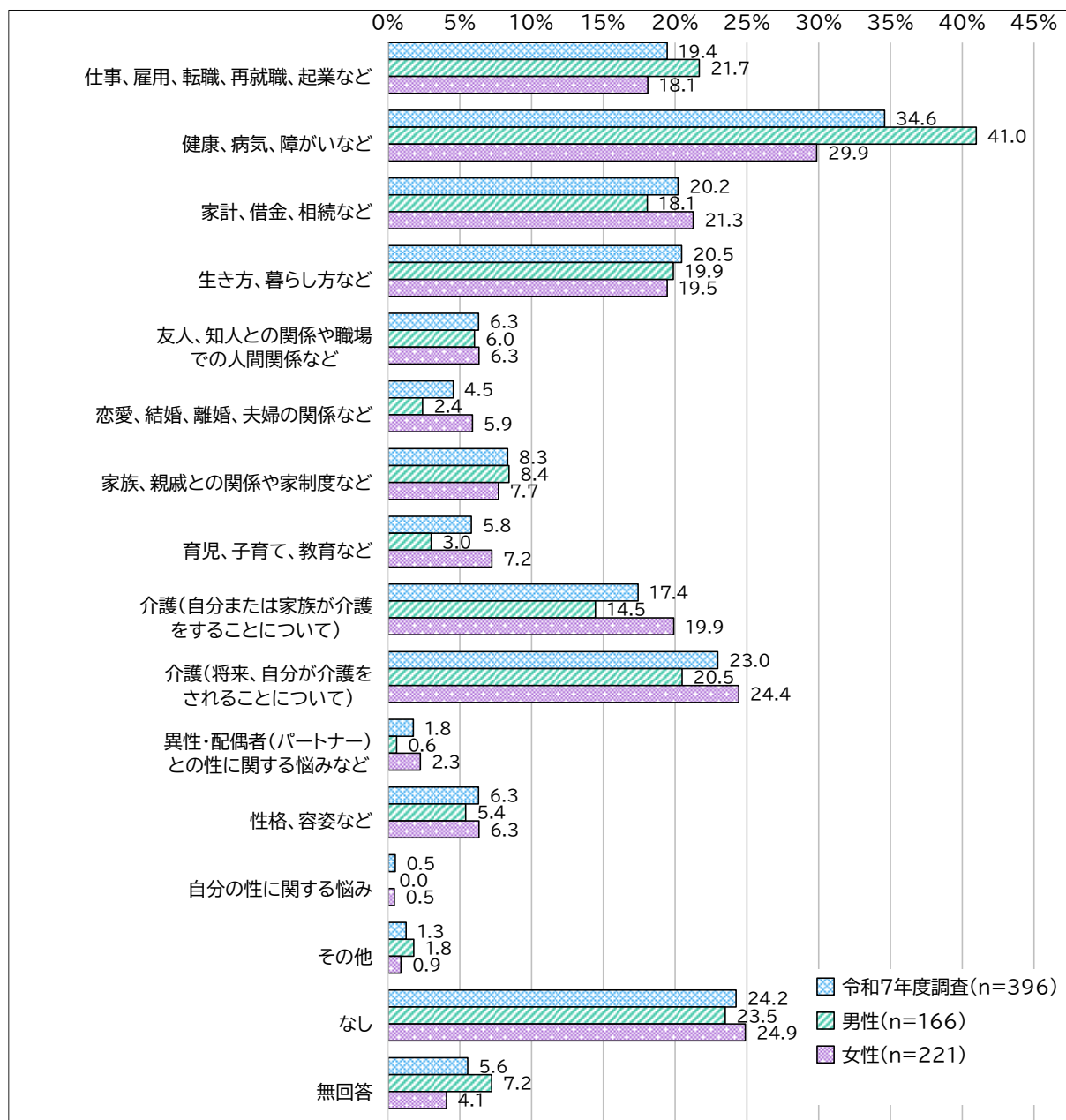
- 指導的地位等に女性の参画が少ない理由については、「男性を中心に作られた社会の仕組みや制度がある」が55.1%と最も高く、次いで「男性になるほうがよい(なるものだ)と思っている人が多い」27.8%、「女性自身が指導的地位に対する関心やチャレンジ精神がない」25.3%となっています。
- 性別でみると、男女ともに「男性を中心に作られた社会の仕組みや制度がある」が最も高く、5割を超えています。



1 1. 悩みや困りごとについて

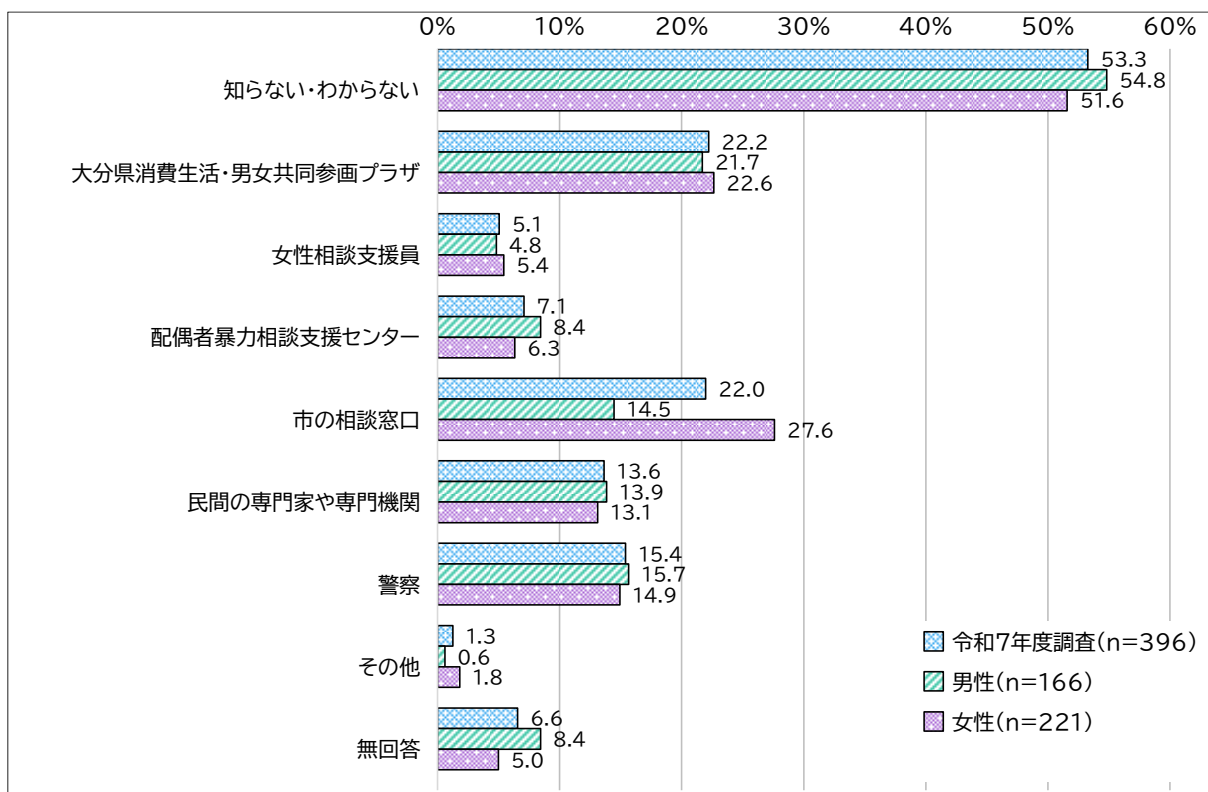
問3 4 あなたは、現在、次のような悩みや困りごとがありますか。(複数回答)

- 現在の悩みや困りごとについては、「健康、病気、障がいなど」が 34.6%と最も高く、次いで「なし」24.2%、「介護（将来、自分が介護をされることについて）」23.0%となっています。
- 性別でみると、男女ともに「健康、病気、障がいなど」が最も高く、男性は女性と比べて 11.1 ポイント高くなっています。



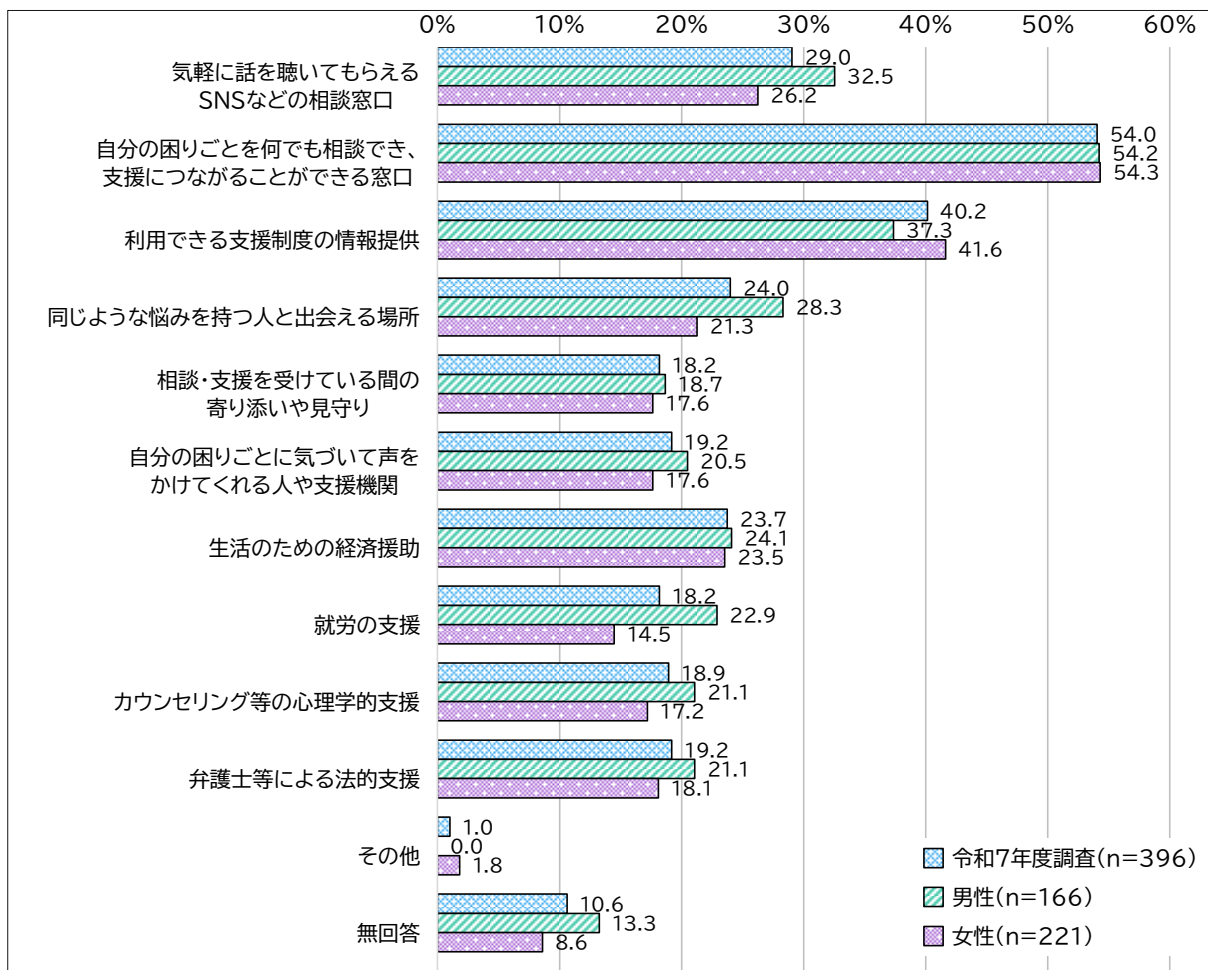
問35 困難な問題を抱える女性のための相談窓口を知っていますか。(複数回答)

- 困難な問題を抱える女性のための相談窓口の認知度については、「知らない・わからない」が53.3%と最も高く、次いで「大分県消費生活・男女共同参画プラザ」22.2%、「市の相談窓口」22.0%となっています。
- 性別でも、男女ともに「知らない・わからない」が最も高く、5割を超えています。また、女性は男性と比べて「市の相談窓口」が13.1ポイント高くなっています。



問36 困難な問題を抱える女性の方の悩み・困りごとを解決するために、どのような環境や支援があるとよいと思いますか。(複数回答)

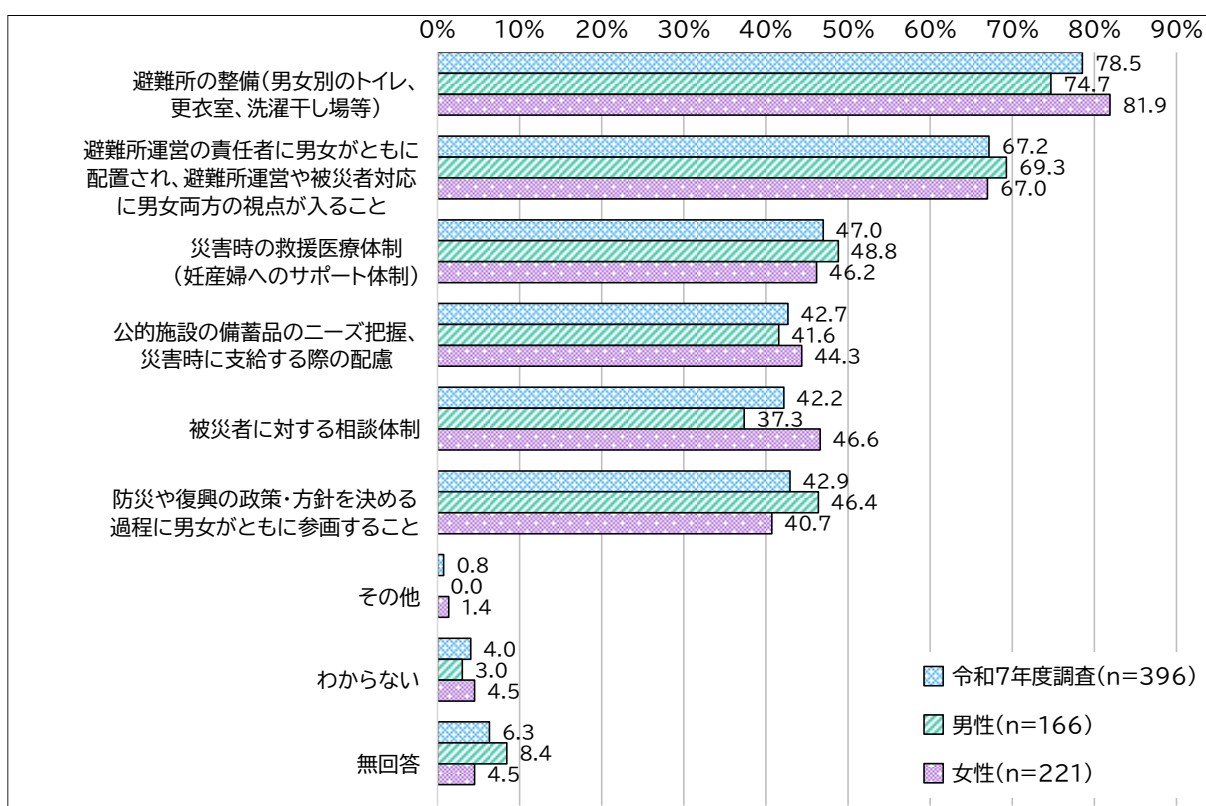
- 困難な問題を抱える女性の方の悩み・困りごとを解決するために必要な環境や支援については、「自分の困りごとを何でも相談でき、支援につながるができる窓口」が54.0%と最も高く、次いで「利用できる支援制度の情報提供」40.2%、「気軽に話を聞いてもらえるSNSなどの相談窓口」29.0%となっています。
- 性別でも、男女ともに「自分の困りごとを何でも相談でき、支援につながるができる窓口」が最も高く、5割を超えています。



12. 災害における男女共同参画について

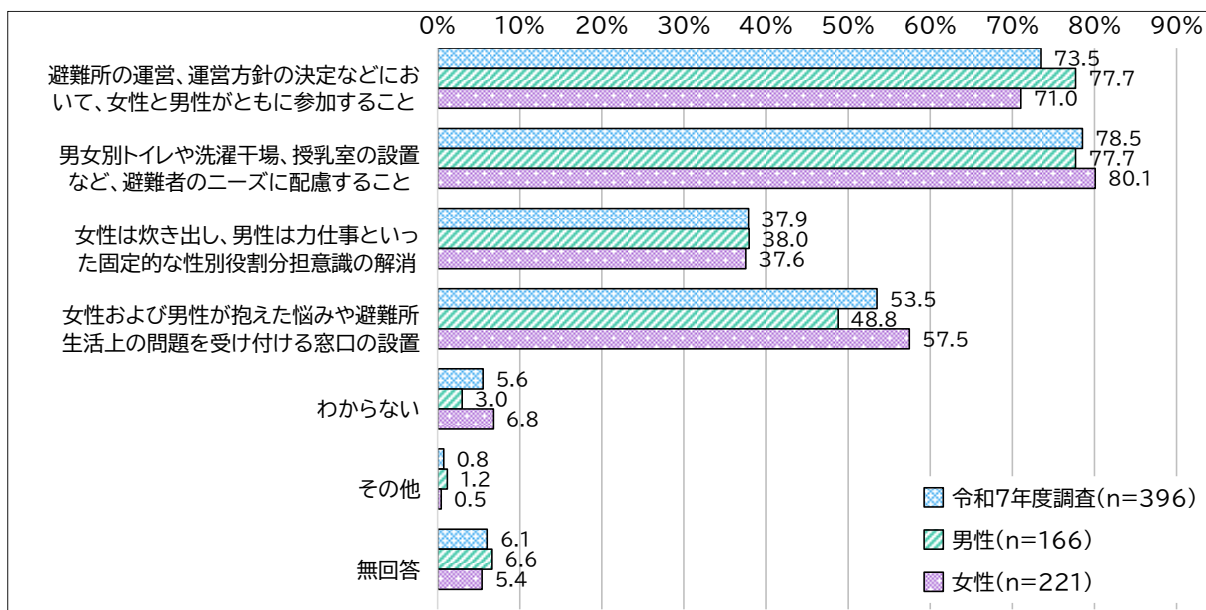
問37 性別に配慮した取り組みとして、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

- 災害時に、性別に配慮した取り組みとして必要なことについては、「避難所の整備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場等）」が78.5%と最も高く、次いで「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」67.2%、「災害時の救援医療体制（妊産婦へのサポート体制）」47.0%となっており、「その他」「わからない」以外はどの取り組みも4割を超えています。
- 性別でみると、男女ともに「避難所の整備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場等）」が最も高く、特に女性は8割を超えています。



問38 あなたは避難所における男女共同参画について、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

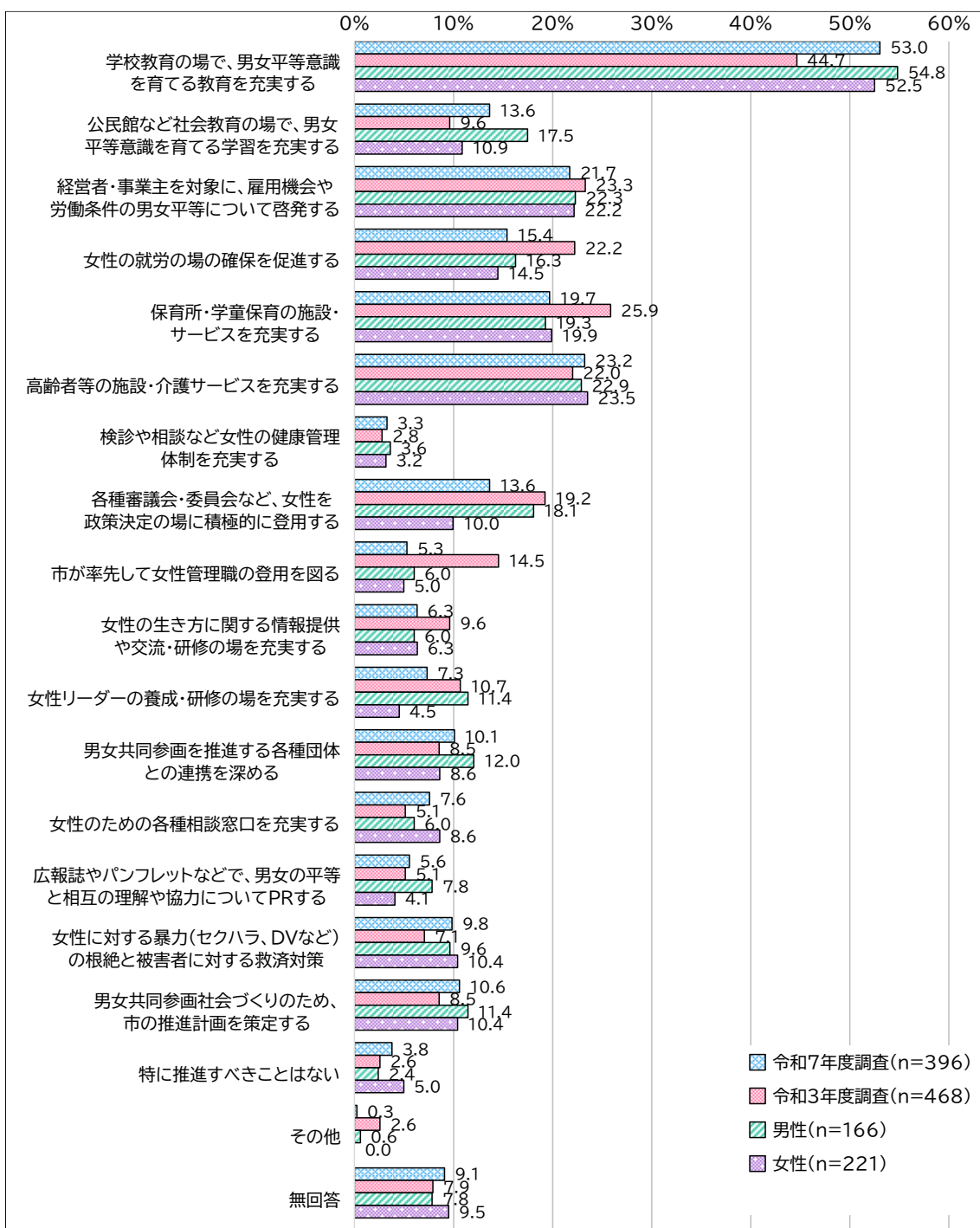
- 避難所における男女共同参画の取り組みとして必要なことについては、「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が78.5%と最も高く、次いで「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」73.5%、「女性および男性が抱えた悩みや避難所生活上の問題を受け付ける窓口の設置」53.5%となっています。
- 性別でみると、男女ともに「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が7割を超えています。



13. 男女共同参画推進に向けた施策について

問39 「男女共同参画社会」を実現するために、今後、市の行政はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(複数回答)

- 「男女共同参画社会」の実現のために今後市が力を入れるべきことについては、「学校教育の場で、男女平等意識を育てる教育を充実する」が53.0%と最も高く、次いで「高齢者等の施設・介護サービスを充実する」23.2%、「経営者・事業主を対象に、雇用機会や労働条件の男女平等について啓発する」21.7%となっています。
- 前回調査との比較では、「市が率先して女性管理職の登用を測る」が約10ポイント低くなっています。
- 性別でみると、男女ともに「学校教育の場で、男女平等意識を育てる教育を充実する」が最も高くなっています。



問40 あなたは、地域活動における女性リーダーを増やすためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

- 地域活動における女性リーダーの増加に向け必要なことについては、「育児や介護を支援するための施策を充実させる」が33.8%と最も高く、次いで「男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を実施する」30.8%、「さまざまな立場の人が参加しやすいよう、活動時間帯を工夫する」30.1%となっています。
- 性別でみると、男性は「男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を実施する」、女性は「育児や介護を支援するための施策を充実させる」が最も高くなっています。また、男性は女性と比べて「男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を実施する」「女性のリーダーを養成するための講座やセミナーを開催する」が10ポイント以上高くなっています。

